

宮澤賢治年譜並びに前後史

中村道彦

2001年10月作成

註

事項の先頭に記した■□●○◆◇はその事項の主体を示しています。

■□岩手県等環境関係

●○宮澤家関係

◆◇賢治関係

他に*は追加説明，《》は文献番号を示しています。

出生以前

■元和元年～昭和26年の間に飢饉による不作の年は53回

戦国時代

■稗貫氏が鳥谷ヶ崎城を花巻に築く《003-9》

■天正 19（1591）年：花巻は南部氏領となり，花巻郡代・北氏の居城花巻城として大改修されて以来，「花巻」（花巻の地名は①名馬を産する牧場＝花の牧，②北上川が水深く渦巻きをなし，落花が流れに浮かぶ様，③アイヌ語のパナマキ＝川下に開けた土地に由来するといわれる）と改称される。以来，花巻は奥州街道の宿駅として発達する《003-9》

江戸時代初期

●始祖は京都から花巻へ下った藤井将監

■南部利直が不来方の字を嫌い，盛岡（繁栄する岡の意）と改名する《003-23》

明治時代初期

●先祖は花巻町吹張に住む「土部屋コ宮澤」と呼ばれた大工

●菊松の代に「宮右」と呼ばれた呉服屋開業

●京大阪で古着の仕入れ

●「宮澤マキ（一族）」と呼ばれる。八重樫祈美子（昭和 10 年）は【花巻・人と町のプロフィール】の中で「宮澤先生一家及びご親戚は，最も天才的，秀才的人物の多いお家で…花巻では『宮澤マキ』と呼んでおります。…要するに宮澤先生の一族は，精神的にも物質的にも，花巻を壟断する一大勢力であることは事実でせう。」《003-10》「マキ」は“ドシ＝レプラのマキ”の意味もある。

1880（明治13）年

■県立岩手尋常中学校（後の盛岡中学，現県立盛岡第一高校）創立《003-24》

1889（明治22）年

- 盛岡市制施行，戸数 6851，人口 31581 人《003-24》
- 花巻川口町（里川口とも称した）稗貫郡内に自治体として発足し，その頃の戸数は 1009 戸，人口 13861 人であった《003-10》

1890（明治23）年

- 東京～盛岡間の東北線開通

1891（明治24）年

- 東京～青森間の東北本線開通
- 岩手山（名の由来は山の頂上に鷲の形をした岩があったことから「巖鷲山」と呼ばれ，これが「岩手」と表記されるようになり，やがて「岩手山」と訓読されるようになったといわれる）南麓に広がる官有地の払い下げを受け，日本鉄道会社副社長の小野義真，三菱社社長の岩崎弥之助，鉄道頭の井上勝（後に「鉄道の父」と呼ばれ，日本の鉄道事業の育成に尽くす）の共同経営で小岩井農場創業
- 菊池忠太郎が花巻で新聞書籍を扱う河北堂を経営参画
- 菊池夫人 or 本正ウラは豊沢町で香梅舎という女子だけの寺子屋を開き，英語・洋裁・習字を教える《001-1》
- 宮澤イチ，香梅舎を受講する

1894（明治27）年

- 宮澤イチ，宮澤政次郎と婚約《004-6》

1895（明治28）年

- 日清戦争で日本が大勝する《004-6》

1895:春

●イチ，政次郎に嫁ぐ《004-6》

1895:12月

●21日：本正ウラの取り持ちで宮澤イチ（18歳）は宮澤政次郎^{まさじろう}と結婚する。このため本正家（本屋）と宮澤家は家族ぐるみの付き合いをする《001-16》

■本正ウラ，信蔵を出産する《001-16》

出生～少年時代

◆幼少時の賢治は偏食が強く，栄養のある食物を好まなかった。殊に牛乳を好まず，当時は牛乳屋が大きな缶から土鍋に1合とか2合とか分けていたものを火にかけて茶碗についで飲んだが，賢治は牛乳を見て泣きそうな顔をしていたといわれる《001-52》

1896（明治29）年 0歳

1896:6月

■15日20時（旧暦5月5日）：大槌，釜石，唐丹，吉浜などの三陸海岸に大津波が襲来し，最高24mの高波で死者2万人，負傷者3000人 or 死傷者2100名《003-13/004-6》

1896:夏

1896:7月

■大風雨

●初旬：イチ，出産のため花巻町鍛冶町の実家に移る《004-6》

1896:8月

■花巻の人口7000人，戸籍1500戸

●政次郎は賢治出生前に商用で関西に出張中《004-8》

◆27日03時：当時の習わしに従い陣痛発来とともに，左右と背に布団で覆った俵に囲まれた板床に藁を敷いた部屋に入っている。その部屋は常居の室の裏の納戸で，産婦には風は悪いということで襖は閉め切り，蚊帳も吊られて室内は相当に暑い部屋であった《004-7》

◇07時（旧暦7月19日）：賢治出生（戸籍には9月1日と墨書されており，9が筆で訂正されて8月1日とされ，後に8月27日と訂正された）。岩手県稗貫郡里川口村川口町303番地（後に花巻町大字里川口第12地割字川口町295番地＝昭和4年花巻町豊沢町135

番地＝昭和29年花巻市豊沢町4丁目11番地）で質と古着商を商う父・政次郎^{まさじろう}（22歳）と母イチ（19歳）の長男として，政次郎の留守（関西で古着仕入）中に母の実家宮沢善治方（里川口村川口町492番地＝現花巻市鍛冶町115番地）で誕生。叔父・宮澤治三郎が宮沢善治の治をとり「賢治」と命名し《003-12/004-10》旧暦に8月1日に届出を行うが，後に

新暦の8月1日と認定されたため戸籍上は8月1日生まれとなる《004-10》

■31日05時：旧暦7月23日《004-8》花巻町西方約25kmの地にある沢内村川舟（川尻）に2mに及ぶ断層を生じるほどの大地震発生《003-13》全壊家屋5600戸，死者200人
○政次郎，大阪で大洪水に遭う。その後丸亀に向かう《004-8》

■冷夏

■赤痢などの伝染病流行

1896:9月

◆1日（旧暦8月1日）：出生届出，戸籍登録

●中旬：政次郎，帰花《004-8》

■大風雨

1896:12月

◆賢治の出生後100日目に宮澤善治など20人以上が集まり，花巻の習わしとして生母の実家で孫抱きの祝いが行われる《004-9》

1897（明治30）年 1歳

■浄土真宗革新運動

■尾崎紅葉『金色夜叉』連載開始《003-15》

■島崎藤村『若菜集』

1897:9月

■米騒動

■小作争議全国発

1897:10月

■花巻町に群立農業試験場創設

1898（明治31）年 2歳

■井上勝，小岩井農場の一切を岩崎弥之助の嫡子，岩崎久弥に引き継ぐ

■新渡戸稲造『農業本論』《003-15》

■徳富蘆花『不如婦』連載開始《003-15》

1898:4月

■花巻銀行開業

1898:夏

●政次郎（24歳），浄土真宗（東本願寺＝大谷派）有志と研修会「我信念講話」を組織し第1回夏期講習会を大沢温泉で開催した。当初は盛岡高等農林学校の先生に学術講演をしてもらっていたが，後に精神講話や宗教上の講話を主にした仏教講習会に変える。以後，

明治 45 年まで毎年夏に講師（村上専精，近角常観，釈宗演，齋藤唯信，桜井肇^{ちようざん}山，多田^{かなえ}鼎，暁烏敏など）を招いて佛教，人生論を研修し，会期は最初 2～3 日，後 4～5 日となる。会員は 30 人程度《003-13/003-18》出費者は政次郎・阿部晁（小学校教員後湯口村村長，浄土真宗の信者で花巻における思想界随一の指導者）・高橋新太郎（花巻会議員後岩手県会議）等《003-18》

1898:9月

■新渡戸稲造『農業本論』刊行

1898:11月

●05 日：トシ誕生

1899（明治32）年 3歳

◆本正信蔵と遊び友だちとなる。「宮澤君は長男なのでご両親にかわいがられ，行儀が悪くなるというて，よその子ともあまり遊ばせてもらえなかったようです。よく笑う子でもなく，庭の梅の木のブランコに乗ったり，一人で縄跳びなどをしていました。泣き出すと手に負えないのです。私も 2，3 度泣かせたことがあります。」《001-16》

1899:1月

■小岩井農場を井上勝から岩崎久弥（弥之助）が次ぎ，場主となり農場経営に当たる

1900（明治33）年 4歳

■与謝野鉄幹【明星】創刊《003-16》

◆不縁で実家戻りの政次郎の姉・平賀ヤギ（30 歳）は蓮如上人の『白骨の御文章』（それ人間の^{ふしょう}浮生なる相をつらつら観ずるに，およそはかなきものはこの世の始^{しちゆうじゆう}中終，幻の如くなる一期なり。…されば朝^{あした}には紅顔ありて夕べには白骨となれる身なり。既に無常の風来たりぬれば，すなはち二つのまなこたちまちに閉じ，一つの息長く絶えぬれば，紅顔むなしく変じて桃李^{とうり}のよそほひを失ひぬるときは，六親眷属^{りくしんけんぞく}集まりて嘆き悲しめども，更にその甲斐あるべからず。さてしもあるべき事ならばとて，野外におくりて夜半のけぶりとなしはてぬれば，ただ白骨のみぞ残れり。…）《002-10》や親鸞上人の『正信偈』（『教行信証文類』行巻末尾にあり，「大聖の真言に帰し，大祖の解釈に関して，仏恩の深甚なる

信知して、正信念仏偈を作りて曰く…無量寿如来に帰命し、不思議光に南無したてまつる」で始まる60行120句の偈)を子守歌のように聞かせ賢治は暗唱する《002-225》

1900:4月

●政次郎が花巻川口町育英会理事に選任

1900:夏

●第3回夏期仏教講習会。講師村上専修

1900:8月

■徳富蘆花『自然と人生』刊行

1901(明治34)年 5歳

■盛岡高等農林学校開講(わが国初の高等農林学校)

■福沢諭吉没《003-16》

■国木田独歩『武蔵野』《003-15》

■田中智学『宗門之維新』《003-15》

◆本正信蔵によると「宮澤君が5つの頃、彼の家へ遊びに行くと、縁側で小さなきれいな馬のオモチャで遊んでいました。私が貸してくれとって無理に借り、またいだりしていると、盗られたと思ったんでしょう、突然ワッと泣き出すんです。お母さんが飛んできて、あやしながら二階に連れて行ってもまだ泣きやまない。私もなんだか後ろめたい思いで、馬を二階に持っていったんですが、それでもまだ泣き続けでした。」《001-16》

1901:4月

●母の妹ヨシと梅津善治郎(後に花巻町長)と結婚

1901:6月

●18日(火):妹シゲ誕生

1901:夏

●第4回夏季仏教講習会。講師近角常観

1901:9月

■田中智学『宗門之維新』刊行

1902(明治35)年 6歳

■東北地方低温、霖雨、大暴風雨のため凶作

■清沢満之『精神主義』《003-16》

■正岡子規没《003-16》

■高山？牛没《003-16》

◆友だちの本正信蔵が小学校に入学するのに、自分もゆくといって両親を困らせる。仕方なく政次郎が本屋の本正の家に来て、教科書など一通り買って与えたがなかなか機嫌が直らなかった《001-16》

◆本正信蔵によると「宮澤君はまた、ちょいちょい約束を破る子でね。私らが水泳に行こうというと、すぐ乗ってくる。ところが、手拭いなどの準備をして、もう一度彼の家に行くと、親爺に聞いてみるとか、今日は都合が悪いというんです。気が変わりやすかったのかも知れません。また運動神経も鈍い方で、花城小の運動会でも、シッポから2、3番でした。」《001-16》「宮澤君は長男なので、ご両親にかわいがられ、行儀が悪くなると言っ、よその子ともあまり遊ばせてもらえなかったようです。あまりものをしゃべらず、よく笑う子でもなく、庭の梅の木のブランコに乗ったり、一人で縄跳びなどしていました。」《003-15》

1902:4月

●叔母ヤギ再婚

1902:夏

●第5回夏季仏教講習会。講師釈宗演。会場は「くず屋」

1902:9月

●父トラホーム治療のため上京

1903（明治36）年 7歳

■東北地方飢餓

●父弟の治三郎死亡（享年27歳）

◆賢治の肘に腫れ物ができ、政次郎が素人療法で石灰酸（フェノール）の原液を塗ったため痛みと共に皮膚が火傷をおこし賢治が「なんだかとっても痛いよ」というと、父は「そのくらいのことで男の子が痛いつてか」と叱りつけた《001-18/004-11》

1903:4月

花巻川口町立本城尋常小学校時代:1年

◆綴り方『古校舎をおもふ』

◆綴り方宿題『四季』

◆「小学校での遊びは、その頃の子供としてはまことに大人びたもので、絵葉書を買って集めたり、それがあきれば植物採集、次は昆虫採集というように…ランプのホヤを外してそれを土に立て色々な虫を捕って来て放し、動物園のようにしてながめていることもありました」《004-20》

◆綴り方の時間に「北風」という題が出されたとき綴り方の終わりに「北風吹けば疝気が起きる」という一句を入れ先生が赤ペンでそれを消す

◆棒3本を真ん中で束ね、足を三角に開いて上にお盆を置いて手を重ねておき「コックリさん」と声かけをする

◆01日(水)：花巻川口町立本城尋常小学校尋常科第1学年入学。担当は菊池竹次郎。在学中成績優秀で全甲を付ける。友人の中嶋信によると「小学校へ入学の最初の日に、新しい着物に新しい袴を付け、新しい鞆をさげ、喜び勇んで学校に行ってきた。その夜、床に入ってその日あったことを色々と考えてみたら、学校への途中に大きな犬が歩いていたのが非情に恐ろしかった。明日もまたあの犬がいるのではないかと思ったら、不安になってなかなか眠れなくなって庭に出、12時頃まで歩き回り、気を落ち着けてから眠ったことがあった。」《003-16》

◆佐藤隆房によると「小学校にはいった賢治さんは、やわらかな頭髪をきれいにかり、色白の桃色にさえた整った品のある豊頬の顔に涼しい目と白い美しい歯並びを見せ、白く清らかな女の児のようなふっくりとした手を持った、大変素直で温和な子供でありました。…初孫であるため、かなり甘やかされて相当きかなく、その上何か奥底に、根強いがっしりしたところがある…」《004-13》

■文部省、国定教科書制度を確立

1903:夏

●第6回夏季仏教講習会が開催。講師は斎藤唯信

1903:9月

◆赤痢に罹患し花巻本城の隔離病舎へ2週間入院。政次郎が看病中に感染し、後に大腸カタル or 胃腸虚弱となる《002-225》このこと以降、宮澤家では食べ物を嚴重に制限するようになり、子どもにはほとんど果物を食べさせなかった《001-18/004-10》

1903:12月

■花巻のキリスト者齊藤宗次郎の兵役納税拒否につき内村鑑三来花、教訓と説教を行う

1904(明治37)年 8歳

■玉利喜造、「東北振興策」で米作偏重から麦類、ジャガイモなどへの作付け転換を主張

1904:2月

■日露戦争勃発

1904:3月

◆成績は修身・国語・算術・遊技・操行とも甲：欠席日数は年間28日《003-16》学業、行状優等につき「国語読本巻三」を与えられる

1904:春

◆賢治は友人4, 5人に誘われて、豊沢橋の先にある萩堀というところに遊びに行き、その内の一人がすすき原に火を付け野焼きをして遊ぼうとしたが、火は激しく燃え上がった。賢治が「消せっ、消せっ、ハンド（筒袖の羽織）で消せっ」と叫ぶが、消防団が出動するという騒ぎとなった《001-19/004-14》

◆夏近く、従弟の豊蔵が賢治を訪ね、裏庭のはたん杏を父親の禁を破って食べ、不安になった賢治は薬棚から宝丹を服用し、帰宅した豊蔵の家にも持って行き飲ませる《004-10》

1904:4月

花巻川口町立本城尋常小学校時代:2年

◆尋常2年頃に粘土で仏像を作成

●01日(金): 弟清六誕生

◆2年生担当は平野八十八《003-16》

1904:6月

■12日(日): 小岩井農場のトロ馬車（馬車トロッコ、馬車トロ、馬トロ）が人と物資の輸送のため本部と製乳所の間開設

1904:夏

●第7回夏季仏教講習会。講師は桜井肇山

1904:7月

■盛岡電気株式会社創立

1904:8月

◆北上川支流豊沢川で花巻町内の子供二人が溺れ、高橋弥吉が水死したが、澤田藤一郎（盛岡中学校で賢治と同級、後九大医学部教授）は水死を免れた。夜中灯火を灯した舟が搜索するのを橋上から見て深い印象を受ける《002-226》

1904:秋

◆午後: 学校の帰りに、友人・秀治の家を訪れ、下町と三社様の十字路の西北角の「ふかまど」という大きな馬車屋の前で友人数人とバツタ（メンコ）遊びをするが、その1枚が飛んで轍の下になろうとしたのを取ろうとしたところに後方から急に荷馬車が通り、秀治の右人差し指の末節を関節から轢きとられ大量の出血をしたが、賢治は「いたかべいたかべ」と言いながら無我夢中でその傷に口を付けて流れる血を吸ってやった《001-19/003-16/004-15》

1905（明治38）年 9歳

- 日本海海戦
- 日露講和条約調印
- 夏目漱石『吾輩は猫である』
- 綱島梁川『予が見神の実験』発表
- アインシュタイン『特殊相対性理論』
- マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』発表
- 東北一帯は記録的な大凶作
- ◆当時流行した日露戦争関係の絵葉書を蒐集

1905:3月

- ◆前年に続いて成績全て甲で表彰される

1905:4月

花巻川口町立本城尋常小学校時代:3年

◆関徳弥によると「多分尋常三年生の頃、用事があって私の家に来られたときの面影です。賢治は幼少より非常に礼儀正しく言葉づかいも丁寧でした。…私の家の薄暗い入口の戸障子を静かに開き、色白の賢治が丁寧にお辞儀をしたのをよく覚えています。…にこやかな面持ちで言葉は大人のように丁寧であったことはとりわけ記憶に残っております。」《003-15》

◆3年生担当八木英三（19歳）は、授業が進みすぎたときや雨で体育の時間がつぶれたときに、『太一』の話し《002-226》、エクトル・マーロー著五来素川ごらいそせん訳の童話『まだ見ぬ親』（現訳『家なき子』）や民話『海に塩のあるわけ』（現訳『海の水はなぜ辛い』）を朗読する。後に賢治は「私の思想の根底は、全て先生の童話からもらったように思って感謝しています。」と語る《001-91/003-17》

◆八木は①佐藤金治（賢治の家の一軒おいた米穀屋の長男で小学校級長）、②宮澤賢治（副級長）、③大橋（小田島？）秀治を秀才3治と呼ぶ。金治は後に早稲田大学へ、秀治は東北医学部へ進学

◆尋常3、4年の頃、画用紙に仏を描いたり、粘土で仏像を作ったりするのが好み、伯母・ヤギは仏壇に安置して礼拝していた《004-23》

1905:5月

- 盛岡高等農林学校開校式。校長玉利喜造

1905:夏

- 第8回夏季仏教講習会、講師多田ただかなえ鼎

1905:10月

- 上田敏訳『海潮音』刊行

1905:12月

- 07日(木)：花城尋常高等小学校と改名《003-17》
- 25日(月)：花城の新築校舎に移る《003-17》

1906(明治39)年 10歳

- 東北地方大飢饉
- 半谷清寿『将来之東北』で東北稲作不適應論を展開

1906:3月

- ◆成績は修身・国語・算術・体操・操行とも甲で表彰される
- ◆鉱物採集・昆虫標本作りに熱中して「石っこ賢さん」と愛唱される《002-226/003-18》

1906:4月

花巻川口町立本城尋常小学校時代:4年

- ◆花城尋常高等小学校4年生。担任は八木英三《003-18》
- ◆綴り方『よーさん(養蚕)』【岩手県第1回児童学業成績調】

1906:6月

- 日本エスプラント協会発会

1906:夏

- ◆夕方～夜：イギリス海岸の西の岸辺に賢治を含め5人の子供が立ち、川向こうの高木の部落に見つけた雑魚取り船を捨三と源一が漕いで対岸に渡る。暗闇の中で松五郎は鍋の蓋で畑を押して瓜をさがし(蓋にあたると音がする)たが、番人に見つかりいっせいに逃げ出した《004-18》

1906:8月

- ◆09日(木)：大沢温泉で開催された第9回花巻夏期仏教講習会「我信念講話」に参加し、
政次郎は主催者の一人であった。講師^{あけがらすはや}暁烏敏の侍童を勤める《002-226/003-18》

1906:11月

- 岩手県稗貫郡会は蚕業講習所設置案(修業年限1年)を可決

1907(明治40)年 11歳

- 小岩井農場でイギリスよりサラブレッド種馬を輸入
- ◆清六と朝日座で映画鑑賞

1907:2月

■or 3月《002-226》担任・八木英三は退職時、生徒に「立志」の題で作文を書かせる。賢治は「お父さんの後を継いで立派な質屋の商人になります」と書く《003-18》

■or 3月《002-226》八木英三が早稲田大学編入試験合格し、代用教員を退職する《003-18》

1907:3月

●04日(月)：妹クニ誕生

■21日(木)：小学校令の改正で義務教育の尋常小学校は4年制から6年制となる《003-19》

◆修身・国語・算術・体操・操行とも甲

1907:4月

花巻川口町立本城尋常小学校時代:5年

◆賢治が尋常5年の時、父が「お前は何になる。」と訪ねると「無暗に偉くならなくてもいい。」と答えたことを叱り、再度質問すると「寒い時には鍛冶屋になればえし、暑い時には馬車屋の別当になればええ。」と答える《004-12》

◆「5、6年級になると急に恐ろしくきかない子供になって餓鬼大将になり、時に部下をひきつれて、他の学校まで遠征に出かけたりするようになりました。」《004-19》

■関豊太郎、東北凶作と海流の関係を究明

■農商務省所管として稗貫郡蚕業講習所起工（稗貫郡花巻町大字北万丁目第20地割字吹張8番地の1＝現花巻市花城町4番28号）修業年限本科1年、実習6ヶ月

◆尋常小学校5年生。担当教諭はクリスチャンの照井真臣乳てるいまみじ《003-19》

◆激しい鉱物採集のため「石っこ賢さん」と呼ばれる

●政次郎町会議員初当選。以後4期務める

1907:5月

■蚕業講習所開設第1回生（本科男子30名、実習科〔修業年限6ヶ月〕女子7名）入所

1907:7月

■蚕業講習所の竣工落成

1907:8月

■第10回花巻仏教夏季講習会が大沢温泉で開催される。講師はあけがらすはや暁烏敏。賢治も参加する《003-19》

1908（明治41）年 12歳

■盛岡市に電話架設

1908:3月

■玉利喜造『東北地方凶作の周期性に就いて』を发表

◆前年まで尋常科は四年制であったため、終業証書は高等科第一学年終業となっている。成績は修身・国語・算術・日本歴史・地理・理科・図画・唱歌・体操・操行とも甲《003-20》

1908:4月

花巻川口町立本城尋常小学校時代:6年

◆花巻尋常高等小学校6年生。担任は谷藤源吉《003-20》

1908:9月

◆国語綴り方帳に「遠方の友につかわす」「皇太子殿下を拝す」を書く

1908:秋

■花巻町館の北のはずれにあった花巻川口町の尋常高等小学校が、鳥谷ヶ崎（花巻）城の跡に新築される《004-104》

●とし子 11歳尋常高等小学校4年生で桃割れを結った中背の、どちらかといえば小黒い細面やせ形の質素な服装の娘であった。算数や国語などには天才的な優秀な成績を上げていたが、図面や裁縫などはあまり得意ではなかった。しかし総合的な成績はずば抜けてよかった《004-104》

●しげ子 8歳尋常高等小学校1年生《004-104》

青年時代

1909（明治42）年 13歳

◆星座図による星座観察に熱中

●母西鉛温泉で病氣療養〈夏〉

1909:2月

◆綴り方『冬季休業の一日』の中で、「我は父に回章をまわすことを云いつけられぬ。於田屋町をまはして鍛冶町に行かんが為上町を通りしに杉本にぶち犬をきすかけられて（註：けしかけられて）お恐ろしかりき。」と犬に対する恐怖を綴る《001-17》

1909:3月

◆26日（金）：花巻尋常高等小学校尋常科第六学年卒業。6学年全甲優等賞精勤賞受賞。卒業生90人（うち女子29人）。賢治と同じ町内に住む佐藤金治、小田島秀治、宮澤賢治は「三治」と呼ばれる《002-14》

◆31日（水）：盛岡中学入学のため母イチと共に盛岡に出発する。盛岡駅→開運橋→不來方城址→亀ヶ池→中の橋→紺屋町三島旅館

●とし子が4年を修業するとき、この当時初めて制定された模範生制度で、校内2人の受

賞者の第一位として表彰される。表彰式は郡長から賞辞があり、とし子が答辞を捧げた《004-105》

岩手県立盛岡中学校時代：1年

◆薩摩琵琶に凝り、^{しろやま}「城山」^{たちばなだいたいちょう}「橘大隊長」^{いしどうまる}「石童丸」などの曲を覚え、休みに帰省

したとき母など年寄りにうなづいて聞かせた。なお同級生の^{くずせいいち}葛精一によると「まるでへたくそで、ひっかかってばかりいて、うまくなかった。」という《001-65》

◆中学寄宿舍付近で静座法を指導した佐々木電眼のもとへ通う

◆同級生の阿部孝によると「1，2年生時代の彼は、そういう点では実に忠実で従順な下級生で、定められた仕事は何でも率先してまじめに勤め上げ、上級生から大変かわいがられ、重宝がられた。そしてその頃の彼は、教師の受けも非情に良かった。」
「謙遜で内気であったが、しかし彼は決して卑屈で陰気な少年ではなかった。人前ではむしろおませで、おしゃべりで、そして自慢ののどで小鳥のようによく歌った。後年におけるあの話術の巧みさやユーモアの豊かさを、少年時代の彼は既に立派に備えていた。だが、その頃から、彼は一面なかなかの不平家で憤慨屋でもあった。他人のちょっとした不愉快な態度にも、彼はすぐにピンと反発して、蔭ではよくぶつぶつと不平を並べた。しかしどんなに他人の悪口を言い、陰口をはく時でも、結局彼は自分を批判し、自分を反省し、自分卑下することを忘れなかった。後年における彼のあの異常な自省自嘲自虐の精神は、既にこの頃から彼の中にすくすくと芽生えていたともいえる。」《001-21》

◆中学時代に岩手山頂上を極めた回数は8回、3，4合目あたりまでの登山は数え切れない《004-29》

◆1年の初めから成績はかんばしくなく、国語、作文、博物などはよい方であったが、代数、幾何、三角などの数学は及第点に達せず、物理、化学も苦手であった。4年までは平均点は70点以上で全級の半ば以上に位置していたが、5年になると88人中60番に下落し、平均点もかろうじて60点を超える程度で、三角は30数点、体育は落第点であった。通常は乙の操行点も2年では丙、5年では教師の悪口を書き立てて丁をもらう。当時の教師の目には賢治は、色のなまっ白い、優柔はずぼらな文学少年のように映っていたのであろう《004-31》

1909:4月

◆通常は高等小学校を経て中学に入学するところ、賢治は尋常小学校から引き続いて中学に入学する《004-29》

◆01日(木)～02日(金)《003-26》or 03日(土)：岩手県立盛岡中学校入学試験受験する。盛岡市内丸(現県立盛岡第一高等学校)

◆04日(日)：体格検査と口頭試問

◇16時：合格発表。合格者 135 名《003-26》

◆05日(月)：盛岡中学校入学式が行われ、校長・江崎誠から入学許可の式辞《002-14》

◆06日(火)：1学期始業式が講堂で行われる《002-14》

◆12日(月)：校則により一年生全員が盛岡中学寄宿舎自^{じきょうりょう}彊寮（別名は黒壁寮，照明はランプ）に入舎

◇13時：舎監室で舎監の佐々木慶造に挨拶した折り、政次郎は銀時計を帯の間から取り出し、「一時だな」といいながら竜頭を巻く。後に（大正9年以前）「父よ父よなどて舎監の前にしてかのとき銀の時計を捲きし」と読む。他に舎監として山県頼？と千田宮治

◆晴れた日は日曜毎に、親友・阿部孝や梅津達三と郊外散歩に出かける《004-30》鉱物標本や植物採集に熱中し碎石槌をたばさんで七ツ森や南昌山や鞍掛山を歩く。寮の彼の机の上や引き出しや押入は岩石の標本の山であったといわれる《001-110/004-30》

1910（明治43）年 14歳

■ハレー彗星通過

■柳田国男『遠野物語』刊

1910:4月

岩手県立盛岡中学校時代:2年

◆年末：盛岡中学の寄宿舎の編成替えが行われ、当時2年生の賢治は1級下の武安丈夫（武安の父陽吉は小岩井農場の育牛担当の理事）と同室となる

◆天体に興味を持ち、休みで帰省した夜には二階の屋根の棟にまたがって星を眺めて喜ぶ。書斎の壁には紺色の大きな紙に貼り星座表を作る《004-78》

■雑誌【白樺】創刊《003-29》

1910:5月

■大逆事件の検挙始まる《003-29》

1910:6月

◆18日(土)午前：内務省の金森通倫の講演を聴く

◇14時：舎監長兼教諭・山県頼咸の引率の下に2年生約80名で植物採集のため岩手山（標高2040.5m）登山のため寮を出発する（二年植物採集岩手登山隊）

◇17時30分：岩手山神社社務所（柳沢）に到着し、宿舎に分宿する《003-28/004-27》

◆19日(日)1時：起床して松明を灯しながら登頂する

◇日の出前：山頂に到着し、初日の出を拝む

◇16時：帰着《003-28》

■柳田国男『遠野物語』《003-29》

1910:夏

◆友人・阿部末吉と共に、自炊しながら法要をかねて大沢温泉に1週間、勉強のため出かける。湯壺に出かけて水の流れを逆にして温泉を干上がらせ、浴室には水だけが行くようにして入浴中の巡查や宿の主人を大慌てさせたり、流れが急に熱くなったと川で泳いでいた者を大騒ぎさせる《002-17》

1910:8月

■石川啄木『時代閉塞の現状』を執筆

■韓国合併《003-29》

1910:9月

◆島地黙雷の法話を聞く

◆同室の親友藤原健次郎病死

◆23日(金)：秋季皇霊祭で学校が休日であるのを利用して、英語教諭・青柳亮の引率の下に、級友・宮澤嘉助、阿部孝、賢治ともう一人、外に5年生6名の計11名が岩手登山に出発する。賢治ら4人は麓の小屋に宿泊《002-23/003-29/004-27》

◆24日(土)未明：3合目まで松明で登り、4合目で日の出を迎え、頂上に達して御鉢参り

をする。犬倉山いぬくら中腹あみはりの綱張温泉に宿泊する《003-29/004-27》

◆25日(日)早朝：小岩井農場。盛岡帰着。写真館で記念撮影《003-29》

■29日(木)：級友・藤原健次郎、チフスで死去《003-29》

1910:10月

◆01日(土)：父宛書簡で9月分の決算報告の中で、岩手山登山の帰途綱張から小岩井を通って帰盛したことを伝える

1910:12月

■石川啄木、歌集『一握の砂』発刊《003-29》

◆この詩集に刺激を受けて三行短歌を試みる

1911 (明治44) 年 15歳

■早春：蚕業講習所の隣接地に県立花巻高等女学校が竣工する《004-105》

■盛岡中学校の先輩・石川啄木の『一握の砂』刊行される《002-227》

◆級友から「変人」のあだ名

◆スケートに熱中するも上達せず

◆その後、登山に興味を持つ

1911:3月

■蚕業講習所修業年限を2年間に延長。2年生に5名の補欠と1年生に36名を入所させた。この時寄宿舎1棟(12坪=39.6㎡3室)が落成して舎生が10名ほど入舎

●トシ、花巻尋常高等小学校尋常科卒業

岩手県立盛岡中学校時代:3年

◆中学3年頃、短歌を書き始める《002-227》

◆「催眠術を覚えて来たというのです。家中の誰彼なくかけるのですが、実は誰も本当にはかからない。然し『かからない。』というと何時までも『まだまだ。』と捕まえられるから、かかったふりをしてやるのです。身体がなくなくなる術、なんていうのをかけられるときには、そのまねをするので家中大こまりでした。」《004-20》

■01日(土): 県立花巻高等女学校(現花巻南高校)が開校する《004-105》

●トシ、県立花巻高等女学校(盛岡高等女学校に次いで2番目に設立された学校)入学。平均点が94点という花巻女学校はじまって以来の才女と評判される。黒地に黄色の格子縞の地織り木綿の着物に、木綿の海老茶の袴を付けたとし子は桃割れ髪で登校《004-105》

■稗貫郡蚕業講習所の修業年限2カ年に延長される

1911:5月

◆小岩井農場へ遠足《003-30》

◆学業への興味が薄れ、「中央公論」やエマーソンの哲学書を読む

1911:夏

◆初夏夕方: 賢治の家に子どもたちが集まった折、安太郎がコックリさんをしようと提案し、静かな座敷で1尺ほどの棒を3本見つけ、その真ん中を紐でくくり、三つ又に開かせて畳の上に立て、頭の方にお盆を下向けに被せ、皆がそのお盆の上に手を重ね、「こうしてみんなが一心にお願ひすると、お盆がクリクリ回り出し、何か聞けばそうだという時に一本の足が上に上がるのす。」と安太郎が説明してコックリさんに興じる《004-21》

1911:8月

◆願がんきょう教寺(浄土真宗本願寺派盛岡市北山)の仏教夏期講習会で島地大等しまじだいとうの法話聴講《003-30》

1911:10月

■岩手軽便鉄道株式会社創立

◆寄宿舍記念祭用の紅葉狩りで友人と山にゆき、漆には負けないと漆木の切り口から出る汁を顔に塗り、翌日顔面膨大して帰花。10日間ほど志戸平温泉で湯治する《002-19》「賢治は不意に目と鼻と口ばかりを残して、顔中ぐるぐる包帯で巻いて家に戻ってきました。家の人達はびっくりして『一体何したさ。』と聞きました。『山遊びさ行って南昌山に登ったら、あんまりきれいに紅葉した木があったから、折ってかついで来たのです。したらそれが漆だったのす。家の人には蟹をつぶして塗ると治るといふので、それをこしらえて塗ってやろうとしたのですが、賢治さんは『蟹がかわいそうだ。』と言っていうことをきかないのです。仕方なしに『蟹をつぶしたものではない。』とだましてつけてやりました。」《004-21》

1911:11月

■釜石軽便鉄道が一般客及び貨物の運輸を営む鉄道として開業。大橋～大松～大畑～鈴子（製鉄所のある場所）に至る 14.7 km（所要時間約 1 時間）の路線。明治 7（1874）年に釜石鉱山が官営となったときに設営され、廃坑と共に一時中止されたが、その後に田中製鉄所の経営に移ってから明治 43（1910）年 6 月、再度鉱山専用の鉄道として敷設

1911:12月

◆寄宿舎で薩摩琵琶が流行し、夜食堂で歌い合う《003-30》

1912（明治45／大正元年）年 16歳

◆土曜日には岩手山登山

◇同室の藤原文三と度々岩手山に行き、「六根清浄、おう山繁盛」と唱えて登る

■盛岡ガス創業

■花巻電燈株式会社設立し、花巻の 532 戸の電燈がともる

1912:4月

岩手県立盛岡中学校時代:4年

◆中学 4 年のとき賢治の隣の席にいた葛精一によると「賢治は英語の時間にリーダーを立て、ナイフで夢中になって自分の机に岩手山を彫っていて先生に当てられ、まごついて私に聞いたことがあった。それが英語の時間がすんでも、次の数学の時間も続けて彫っていた。」《001-81》

■15 日(月)：タイタニック号沈没

■石川啄木、肺結核で死去（享年 27 歳）《003-33》

1912:5月

◆27 日(月)3 時 30 分：町田、後藤、森田の 3 名の教諭の引率の下に、修学旅行生 84 名が盛岡駅を出発する

◇午前：一関駅着。北上河畔船着き場狐禅寺着。70 トンの川蒸気外輪船「岩手丸」に乗船する。石巻着。^{わた}渡の波の塩田を見学に行く途中《004-25》、日和山に登り頂上の神社に参拝して眼下に広がる太平洋を眺める。詩『われらひとしく丘にたち』石巻泊《002-24》

◆28 日(火)午前：舟で初めて海を見て感激。悪天候による高波で船が揺れ、船酔いに苦しむ者多数。金華山、松島を観光する。瑞巖寺を訪れ、塩釜に到着する。教師の許可を得て、塩釜東南約 7 km の菖蒲田で療養中の叔母・平賀ヤギを旅館・大東館に見舞う。21 時の汽車で仙台に戻る予定であったが積もる話で間に合わないため叔母の宿で宿泊する《002-25》

◆29 日(水)：仙台発
◇12 時 50 分：平泉着、中尊寺、文語詩『中尊寺（一）』『中尊寺（二）』平泉駅泊
●5 or 6 月：祖父喜助が下根子櫻の別宅を建てる

1912:7月

■30日(火)：明治天皇崩御《003-33》

1912:8月

◆01日(木)～07日(水)：浄土真宗の北山願教寺の盛岡仏教夏期講習会で島地大等の法話を聴講する《002-227/003-32》

1912:10月

◆父兄懇話会に赤沢亦吉が出席

1912:11月

◆盛岡中学の近くに住む佐々木電眼に入門して静座法（健康法）の指導を受け、家族にもそれを試している。トシはかかった（振りをした）が、政次郎は電眼が脂汗を流して頑張ってもかからなかった《001-195》

◆父宛書簡に「歎異抄の第一頁を以て小生の全信仰と致し候」と書く《002-227》

1912:12月

●01日(日)：叔母・平賀ヤギ，結核のため享年43歳で死去《002-27》

1913（大正2）年 17歳

■原敬の意向により，渋沢栄一，益田孝，岩崎久弥らで第一次東北振興会が発足

■軽鉄法（明治40年）により，岩手県知事・笠井信一が提起して岩手県内財界人と公募で岩手軽便鉄道株式会社を設立

◆夜：家を抜け出し，深夜の豊沢川あたりを散策し，無人の水車小屋で仮眠をする

◇夜明け：寒さに目を覚ましたときに空がひび割れて，そこから怪しい手が伸び出てきて鳥を捕まえようとする幻想を体験する。この空がひび割れるという幻想は，その後も賢治についてまわる《001-119》

1913:3月

●12日(水)：長く病床にあった祖母キンが死去（享年62歳）《003-34》

◆4・5年生と共に，舎監・佐々木慶造の後任の舎監・杉崎鹿次郎（堀尾調）or 千田宮治の排斥運動に参加して，舎監室の電燈を消したり，夜中に音を立てて廊下を踏み鳴らしたり，階段に戸板を立てたりなど嫌がらせをする。5年生が率先したようであるが，賢治が黒幕であったという説もある。4，5年生全員が寄宿舎から追放される《002-28/003-34》成績転落し操行落第《003-32》退舎組は一軒の家を借り受け，共同生活を始めたが間もなくそれは解散となり，賢治は一級下の小野田究一，佐々木利雄と共に盛岡市北山の清養院（曹洞宗）下宿《004-30》後年中学で暴れたことを家人から訪ねられたとき「そんだってあの頃は中学だけでおわらされるのか思ったし，そんなら勉強したってつまらないと思ってただ義務的にやっていたのす。」と答える《004-38》

◆賢治の同級生・村井久太郎によると、賢治達は「桐下倶楽部」という同人を作る。命名は賢治によるといわれる。この名は校庭の裏手にある1本の大きな桐の木の下に生徒達と同気相求めて自然に集まったことに由来する。肌の合わない者は去り、全く親密な集まりになる。阿部千一がストライキの責任をかぶって一人退学したのを、桐下倶楽部が策源地となって今度は復学させようとストライキをする《003-34》

1913:4月

岩手県立盛岡中学校時代:5年

1913:5月

■13日(火):岩手軽便鉄道株式会社の発起人会開催し、仮定款を定め、出席者全員を創立委員として、金田一勝定が委員長となった。総資本金額100万円、うち発起人の引受株総計10510株(525500円)、県内からの募集15944株(797200円)であった

◆21日(水)21時22分:北海道修学旅行のため盛岡駅を出発する《002-29/003-35/004-30》

◆22日7時:青森着

◇9時30分:連絡船出航

◇14時:函館着。五稜郭や中学校を見学する。函館泊《003-35》

◆23日(金)朝:新島譲が米国に密航したといわれる東浜の脇を通過して函館ドッグを参観

◇9時40分:函館駅を出発

◇22時:小樽に到着《003-35》

◆24日(土):小樽高商見学

◇10時:小樽発

◇11時30分:札幌着。札幌農科大学・博物館・ビール会社・製麻会社を見学《003-35》

◆25日(日)5時:札幌発

◇6時30分:岩見駅着

◇7時5分:乗換

◇10時29分:白老に到着。アイヌ集落見学

◇14時:白老発

◇15時30分:室蘭着。製鋼会社を見学《003-35》

◆26日(月)3時30分:吹雪丸乗船し室蘭出向

◇11時30分:大沼着。公園を遊覧《003-35》

◆27日(火)3時20分:大沼発

◇4時30分:函館着

◇18時:出航

◇22時15分:青森着

◇14時50分:青森発

◇21時21分:盛岡に到着《003-35》

◆北山徳玄寺(浄土真宗)に下宿を移す《002-30/003-35》

1913:8月

◆北山願教寺(浄土真宗)で島地大等(インド哲学者、明治8年~昭和2年)の法話聴聞

1913:9月

- ◆ ツルゲーネフなどのロシア文学書を耽読する《003-35》
- ◆ 初めて妙法蓮華経読誦（大正3年の説あり）
- ◆ 北山報恩寺（曹洞宗）住職・尾崎文英の下で参禅し、剃髪して登校《002-30/003-35》
- ◆ 校服に襟章を付けていなかったため体操の教師に注意される《003-35》
- 東北地方大凶作のため娘の身売りが行われる《002-31》

1913:10月

- 12日(日)：岩手軽便鉄道株式会社創立総会開催
- 25日(土)：岩手軽便鉄道花巻～土沢間試運転
- 大木栄治（明治29～昭和36年、66歳で没；上野精養軒で修業し、外国航路に乗り、小樽のレストランで料理長をした後、花巻に上町で、後に仲小路〔通称、宮澤町〕にレストランを開業）が岩手軽便鉄道の開設と同時に駅舎二階に支店を開業

1914（大正3）年 18歳

- 田中智学が国柱会を創設

1914:3月

- ◆ 23日(月)：岩手県立盛岡中学卒業。成績88名中60番。得意は国語、作文、博物で数学と体育は落第点。学友や教師から色白の運動神経の鈍いずぼらな謙遜で内気だが議論も仕掛ける早熟で風変わりな少年と見られた
- トシ、県立花巻高等女学校卒業、卒業式送辞を代表で読む

1914:4月

- 16日(木)：軽便鉄道の土沢～晴山間営業開始
- 18日(土)：軽便鉄道の遠野～仙人峠間仮営業開始
- ◆ 盛岡市岩手病院にて肥厚性鼻炎の手術を受ける。その後、高熱のため発疹チフスが疑われたが、佐藤隆房は肺結核の初期症状と推定している。父は看病中に倒れて共々入院し、そのことが賢治の生涯にわたる負い目意識になる《003-36/004-32》
- ◆ 入院中、看護婦の高橋ミネ（18歳）に一方的に恋慕し、父に結婚許可求めるが父母共に「まだ若い」と戒められる《001-40/003-36》「十秒の碧きひかりの去りたれば／かなしく／われはまた窓に向く」《003-37》「桑つみて君をおもへばエナメルの／雲ははてしなく北に流るる」《004-36》10数年を経てもこの初恋を歌った文語詩をいくつか書いており、賢治にとって重要な経験であった《003-37》
- とし子、科外でバイオリンを習う《004-106》

1914:5月

- 15日(金)：軽便鉄道の遠野～仙人峠間本営業開始
- ◆ 末：盛岡市岩手病院退院《002-228/003-37/004-34》
- ◆ 失恋や進学不許可のためノイローゼ状態となる。家業の店番や母の養蚕を手伝う《003-37》「学校の志望はすてん木木のみどり／弱きまなこにしみるころかな」《004-34》

1914:夏

◆家業への嫌悪と進学の問題などで抑うつ状態

1914:7月

■28日(火)：第一次世界大戦勃発《003-38》

1914:8月

■23日(日)：ドイツに宣戦布告《003-38》

■島地大等（北山願教寺住職兼真宗東北総監で浄土真宗の僧侶）編著『漢和対照妙法蓮華経』出版（または同年3月），明治書院刊行《003-38》

1914:9月

■アレニウスは『宇宙発展論』（一戸直蔵訳，大倉書店）の第1章で，火山現象と地震について説明し，続く第2章「生物の住所としての天体（特に地球）」では，地球の表面温度が大気中の炭酸ガスの濃度によって左右されてきたこと，即ち炭酸ガスの温室効果を地質年代毎に分析し，「空気中に於ける炭酸瓦斯の量が2倍となるに至れば，地球表面の温度は4度昇るべく，4倍となれば温度は8度昇るに至るべきなり」といい，続けて「火山は空気の中に最も多量の炭酸瓦斯を供給する自然的操作」と述べ，火山爆発により，「大気中に於ける炭酸瓦斯の割合が増加するに従い，其結果として吾人は一層気温分布の平等なる一層良好なる気候（特に寒冷なる地方に於いて）の時代を楽しみ得べきなり。而して其の時代に至れば地面は現今に於けるよりも遙かに豊穡なる収穫を与ふべく，かくて急速に拡散しつつある人類の生活に資するところ多大なるものあるべきなり。」と述べる

●高橋勘太郎（岩手県浄法寺村＝現，浄法寺町＝出身，浄土真宗の熱心な信者）が島地大等編著『漢和対照妙法蓮華経』を父に贈呈する《003-63》

◆政次郎の本棚で島地大等編『漢和対照妙法蓮華経』を見つけて《004-24》or父の勧めで《003-63》読み耽るが，特に「如来寿量品第十六」に感銘を受ける《001-197/003-38》or明治44年（中学4年）の頃《004-24》

◆政次郎，賢治の盛岡高等農林学校の受験を許可する《002-228/003-38》

1914:10月

■田中智学，在家仏教教団・国柱会を設立する《003-38》

1914:12月

■15日(火)：軽便鉄道の晴山～岩根橋間および鱒沢～遠野間営業開始

1915（大正4）年 19歳

■岩手県内初の常設映画館が盛岡に開業

■ロマン・ロラン『ペトオフエン並にミレエ』の翻訳本出版（加藤一夫訳，洛陽堂）

■蚕業講習所に攻究科が設置され，実質3年の学習が可能となる

●トシ花巻高女4年生のおり，音楽教師を敬慕し，毎日のように同教師の下宿先を訪れ花巻中の話題になる。同教師が教え子誘導の噂に抗してトシの勝手な訪問で困っていると発言し，噂は一転してトシ淫乱娘という噂に変わり，宮澤家を困惑させた

1915:1月

◆受験勉強のため北山の教浄寺（時宗）に下宿《003-42》

1915:2月

■片山正夫著『化学本論』刊行。賢治の愛読書となる《003-44》

1915:3月

◆24日(水), 27日(土), 28日(日)《003-42》or 29日(月)《002-37》: 紺緋の着物に羽織袴で受験。口頭試問で試験官の林科助教授・三浦第二郎が賢治を喚呼しても返事せず「宮沢か」と突っかかるが、「どういうわけで本校を希望したのか」と尋ねると「日本の国は人口が益々増えて、米が足りなくなる。よい米を沢山とれるようにして、国民生活を安定させたい。それにはどうすればよいか、そのことを勉強したいからだ。」と答え、三浦を感激させる。口頭試問後の体格検査で全裸となり校医・後藤尚五郎に「失敬なやつだ。抜き身をぶらぶらさせて。」と注意される《001-169》

●トシ岩手県立花巻高等女学校（校長：菊池英也，現県立花巻南高校）首席で卒業。総代として答辞《003-43/004-106》

1915:4月

盛岡高等農林学校時代:1年

◆内丸教会のバイブル・クラスに通う《001-65》賛美歌も覚え、ことに東京女子大学

（大学はミッションではなかったが創始者の^{なるせじんぞう}成瀬仁蔵は熱心なクリスチャンのため）

に通うトシの影響もあり、「主よみもとに近づかん」「山越えて一人行けば」などを好む《001-65》

◆子供の頃は偏食が強く、殊に滋養物を嫌ったが、中学に入り徐々に偏食の傾向がなくなり、農林学校に入学した頃には何でも食べるようになる《004-54》

◆農林学校農芸化学教室の隣に獣医科があり、そこで屠殺実験が行われていた。致死点に至る動物の苦しみを知り、ある時、食堂で一片の肉をみたときに屠殺される動物を思ってどちらかという好物であった肉類をとらなくなる《004-54》

◆06日(火)《002-37》: 盛岡高等農林学校（現岩手大学農学部）農学科第二部（後に農芸化学科と改称）部長兼土壌学教授・関豊太郎。首席入学。二代目校長・佐藤義朝。受験者総数 312 名，合格者 89 名，内農学科第二部入学者 12 名

■東大教授兼任の鈴木梅太郎（ビタミン B1 発見者でビタミン学の創始者）が盛岡高等農林学校で植物栄養学を担当しビタミンの研究を開始

●07日(水): 祖父・喜助が隠居し、父が家督を相続《003-43》

◆08日(木): 授業開始。寄宿舍「自啓寮」に入寮。寄宿舍は木造二階建てで南北二棟あり各塔には 20 畳和室が 12 室あり、賢治は南東端の室に入る。寄宿舍で高橋秀松と保阪嘉内と知り合う。二人から農家や農業のことを教えられる《001-170》机上には片山正夫著『化学本論』がおかれていた《002-38》

◆16日(金): 入学宣誓式で新入生総代として誓文を朗読する《002-228》

●トシ、日本女子大学家政学部予科（校長：成瀬仁蔵，東京目白）に首席入学し寄宿舍「責善寮」に入寮する《002-228/003-43/004-106》質素な身なりで、いつでも40、50の人が着るような地味な銘仙の着物に袴を付け、休み毎に帰花する《004-106》

1915:7月

■30日(金)：軽便鉄道の柏木平～鱒沢間営業開始

1915:8月

◆01日(日)～07日(土) 5時～19時：願教寺の仏教夏期講習会で島地大等の歎異抄法話を聴講する《003-43/003-63》

■04日(水)～：花巻銀行（専務取締役母方祖父・宮沢善治）の不良貸し付けと行員の横領のため臨時休業《003-44》

■末：土沢と遠野を結ぶ軽便鉄道工事現場

1915:10月

◆同部級長となる

1915:11月

■23日(火)：軽便鉄道の岩根橋～柏木平間で営業を開始したことで、花巻～仙人峠（標高887mで99曲がりがあるといわれ、峠に仙人堂と呼ばれる休み茶屋があった）間の全線が開通（延長74km，並等で1円14銭，普通車輛1両の乗車定員大人46人）した。しかし仙人峠から東方8kmの釜石港に結びつける資力がなく仙人峠～釜石軽鉄の大橋駅間は山駕籠（1人2.5円）が唯一の交通機関であった。軽便鉄道は稗貫，和賀，上閉伊の3郡にわたり21の駅，停車場があった。東行き（下り）として花巻発09：05→鳥谷ヶ崎（乗車賃金7銭）発09：09→矢沢発09：25→土沢（23銭）発09：49→宮守発10：36→宇洞発11：08→鱒沢発11：17→綾織発11：35→遠野（80銭）発11：59→上郷発12：25→平倉発12：33→足ヶ瀬発12：53→仙人峠着13：15の1本。西行き（上り）として仙人峠発09：35と15：35～花巻着13：40と19：05があった

□釜石軽便鉄道の鈴子～釜石港棧橋間（1.6km）を延長し，仙人峠東面の大橋駅～釜石港間の運輸を開始する

■28日(日)：岩手軽便鉄道全通式が岩手県立花巻高等女学校で挙行される

1916（大正5）年 20歳

◆東京の童話・童謡雑誌【金の星】に投稿し度々没書

■盛岡に紫紺研究所工場設立

■小岩井農場に四階建ての穀物乾燥貯蔵用倉庫建設（文語詩『塔中秘事』で「ギヤマン殿堂」と呼ぶ）

◆博物の教師・山形に心酔して「二年植物採集岩手登山隊」に参加する《001-115》

1916:1月

■吉野作造が大正デモクラシーに理論的基礎を与えた『憲政の本義を説いて其の有終の美を済すの途を論ず』を発表

1916:3月

◆18日(土)：得業式で寮友の高橋秀松と共に特待生に選ばれ、授業料免除《002-38/003-45》

◆19日(日)～31日(金)：修学旅行のため東京(西ヶ原農事試験場・高等蚕糸学校・農事試験場渋谷分場・海事博覧会)経由して興津(園芸試験場)→夜行列車で京都(東西本願寺・府立農林学校・農事試験場・嵐山・金閣寺・衣笠村役場・京都御所・二条離宮・府立農事試験場桃山分場)

◇夜：三条の西富家に宿泊《002-39》

◇翌日：滋賀県(三井寺・石山寺・県立農事試験場)・京都(三十三間堂・清水寺)→奈良(県立農事試験場)→大阪。各地の農事試験場や農学校を訪問。京都で解散。《002-228》「日はめぐり幡はかがやき紫宸殿／たちばなの木ぞたわわにみのれる」「山しなのたけのこのこばたのうすれ日に／そらわらひする商人のむれ」《004-40》

◆28日(火)09時：京都発盛岡高等農学科第二学年12名と共に伊勢に到着

◇15時：外宮と内宮を参拝後、二見ヶ浦を観光して二見館で宿泊

◆29日(水)：月の出拝した後に汽船にて愛知県知多半島の三河国蒲郡 or 蒲郡に渡る。その直後に汽車で三島へ出発する

◆三島から山越えで箱根路を歩いて芦ノ湖で休息する。富士山は高層雲のため見えない。箱根の旧街道を降りてきて農夫に出会い、関所跡までの距離を尋ねると「後2里ある」と答えたことに、賢治は「馬鹿野郎、嘘をつくな」と怒鳴り、一同は啞然とする《002-39/003-45》東京を観光旅行

1916:4月

盛岡高等農林学校時代:2年

◆01日(土)：盛岡高等農林2年生

◆13日(木)：保坂嘉内ら新生5名が室長・賢治のいる南寮九室に入室し相談

●清六、盛岡中学校入学

◆清六・宮沢安太郎(父の弟の長子)・岩田磯吉(従兄弟)と共に玉井郷方宅(盛岡市内丸29)に下宿する

◆級長並びに特待生

◆日記として短歌56首異稿11首作成

◆毎朝、寮で法華経の読経をする《003-63》

◆保坂嘉内を連れて願教寺に島地大等を尋ね、法話を聞く《002-228》

◆上旬：雫石町の奥にある西山村に化石採集に行く途中の先輩・加藤謙次郎と盛岡駅前の開運橋の近くで遭遇し、賢治は学校へ行くのを止めて西山行きに同行し、25kmの道を話し合いながら秋田街道を探索する

◇夜：西山村の旧家に宿泊する《001-111》

1916:5月

- ◆(土)午後：友人・高橋秀松と北上山地（姫神山；標高 1,100m）に出かけ、^{たんだう}丹藤川の上流辺りを探訪している間にスズラン群生地に出る。野宿の場所を探していると、一人の老人が現れ南部曲屋造りの農家に招かれ宿泊する《001-121》この体験をもとに短歌『丹藤川』と短編『家長制度』を執筆する《002-228/003-46》
- ◆短歌 50 首異稿 6 首作成
- ◆寮懇親会で保坂嘉内作『人間のもだえ』に出演

1916:6月

- ◆三浦第二郎教授の指導で仏教会に入り，報恩寺で参禅する《004-39》

1916:7月

- ◆08 日(土)：関豊太郎教授指導下で級友と共に盛岡付近の地質調査を行い，5 万分の 1 の地質図を作成《002-228》→大正 5 年 8 月／大正 6 年 3 月 16 日参照《003-46》
- ◆30 日(日)：夜行列車で上京。麴町の北辰館・栄屋旅館などに宿泊。神田猿樂町の東京独逸学院で行われた夏期講習会に 1 ヶ月間参加する《002-46/003-46》
- 末：母（39 歳）過労で病む

1916:8月

- ◆10 日(木)：東京神田独逸学院の「独逸語夏期講習会」受講修了
- ◆帝室博物館・小石川植物園・浅草オペラ・神田で映画鑑賞。絵画や浮世絵への関心
- ◆農学科第二部第二学年同級生 11 名と共に「盛岡付近地図」（5 万分の 1）を作成
- ◆江刺郡の地質調査
- ◆原体剣舞鑑賞

1916:9月

- ◆02 日(土)：上京中の賢治は麴町の宿を引き払い，帝室博物館を見学する
- ◇昼：上野駅で関豊太郎教授と神野幾馬助教授の統導する埼玉県秩父地方の土性調査隊と合流する。その後，列車で熊谷に至り，宿泊《002-46》
- ◆03 日(日)～06 日(水)：馬車で寄居町を通過して荒川沿いに進み，小鹿野町の赤平川や三峰近くの荒川周辺の岩石を調査する。その後三峰山に登り，同神社の宿坊に泊まる《002-47/003-47》
- ◆弔歌『祖父の死』10 首

1916:10月

- ◆仙台・福島・山形地方の旅行《004-43》
- ◆農林学校校友会報第 31 号に『旅行紀行文』（「二十八日」の稿分担執筆）
- ◆土曜日：清六・従兄弟（宮沢安太郎と岩田磯吉）と共に岩手山登山

1916:11月

- ◆小菅健吉の名で短歌『灰色の岩』『旅の手帳より』など 29 首と賢治名で文語詩『初夏雨の日に』を初めて発表する【校友会会報 第 32 号】《002-228/003-47》
- ◆スキーを練習して盛岡付近散策

1916:12月

■夏目漱石死去

◆この年3回目の上京をする《004-43》

1917（大正6）年 21歳

◆短編『泉ある家』『十六日』執筆

●清六・従兄弟の宮沢安太郎・岩田磯吉と共に岩手山登山

1917:1月

◆短歌『ひのきの歌』制作

◆04日(木)～07日(日)：政次郎の商用で上京する。浜町の明治座で歌舞伎「阿波鳴門どろどろ大師門前」等を観劇する《002-229/003-48》

1917:3月

◆16日(金)：「銀縞」の筆名で短歌『雲ひくき峠』等14首【校友会会報 第33号】

□『盛岡附近地質調査報告』【校友会会報 第33号】《003-48》

■ロシア二月革命でロマノフ王朝倒壊

◆17日(土)：盛岡高等農林学校2年生の得業式で、特待生・級長・旗手に選ばれる《002-48/003-48》

■関豊太郎が農学博士の学位を取得する《002-48》

1917:4月

盛岡高等農林学校時代:3年

■『愉快的な牛乳屋』またはヘンデルの『調子のよい鍛冶屋』が掲載される【レコード音楽】

●28日(土)：政次郎花巻川口町町会議員に当選《003-49》

●祖父善治は一級町会議員

◆盛岡高農3年生

●清六が盛岡中学に入学《003-48》

◆玉井郷芳の家（盛岡市内丸29、中津川の下橋際にあった）に従兄弟・宮沢安太郎、同・岩田磯吉、弟・清六と共に下宿する《002-229/003-49/004-43》

1917:5月

■『印度へ虎刈りですって』なるコミックダンス音楽掲載【レコード音楽】

1917:6月

◆01日(金)：宮沢安太郎、岩田磯吉、宮沢清六と共に岩手山に登り、道に迷って野宿をする《004-43》

◆小菅健吉・保坂嘉内・川本義行と賢治の4人でアザリア（「洋ツツジ」の意）編集。同人は12人《003-51》

1917:7月

◆01日(日)：短歌『みふゆのひのき』等12首と短歌『ちゃんがちやがうまこ』等8首の

計 20 首の短歌と、短編『「旅人の話」から』を発表【アザリア 第 1 号（48 頁）】《002-51/003-49》

◆07 日（土）夜：学友数人で拡大同人会を開き、同人誌発刊を相談するためにアザリア合評会を行う《002-49》

◆08 日（日）0 時過ぎ：興奮した同人 4 人が夜通し秋田街道（盛岡市新田町〔夕顔瀬町〕から秋田県仙北郡生保内〔田沢湖町〕）を春木場あるいは雫石までの 20Km 踏破する《003-50》仲間の一人の保坂嘉内は「青春馬鹿旅行」と呼ぶ。短編『秋田街道』を執筆

◆18 日（水）：短歌『夜のそらにふとあらわれて』等 8 首【アザリア】第 2 号（31 頁）】

◇銀縞名で短歌『箱が森七つ森』等 13 首『黎明のうた』9 首【校友会会報 第 34 号】《003-50》

◆25 日（水）：花巻町実業団有志で構成された「東海岸視察団」（36 名）に参加

◇午前：岩手軽便鉄道で花巻発。釜石。捕鯨会社見学

◇夜：釜石で酒宴し宿泊

◆26 日（木）：船で釜石発、大槌港、山田港、夜は宮古で泊

◆27 日（金）：山田・高田など。岡田製糸工場、昆布工場、公会堂、宮古測候所（明治 16 年創業）。水産学校の岩手丸で浄土ヶ浜、宮古港、鍬ヶ崎で酒宴

◆28 日（土）：視察団と別れて徒歩で浄土ヶ浜で野宿

◆29 日（日）：徒歩で小国峠を越えて遠野。花巻に帰る

1917:8 月

◆28 日（火）~09 月 08 日（土）：高橋秀松と工藤又治で岩手県江刺郡の地質調査《003-50/004-45》岩谷堂、夜は北上川左岸の町で泊

◆31 日（金）：羽田村。田茂山で泊

◆短歌『上伊手剣舞連』

1917:9 月

◆02 日（日）：羽田出発、阿原山を通過、伊手村に宿泊

◇原体村神社の剣舞を観賞

●16 日（日）：祖父・喜助、桜の家にて中風で死亡（享年 77 歳）《003-50/004-46》

●17 日（月）朝：祖父の遺体を豊沢町の家に移す

◆黒石村正法寺

◇東磐井郡阿原山

◇人首

◆種山ヶ原（物見山）泊

1917:10 月

◆関徳弥を伴って願教寺に尾崎文英を尋ねる

◆短編『沼森』『柳沢』

◆17 日（水）：短歌『心と物象（高倉山）』3 首『心と物象（小国峠）』3 首「心と物証（遠野）」2 首「心と物象（鉛）」1 首『窓』3 首『阿片光』2 首『種山ヶ原』4 首『原体剣舞連』3 首『中秋十五夜』3 首【アザリア 第 3 号 16 頁】

◆下旬：清六他2名と共に岩手山登山

◇午前2時：柳沢の宿出発，途中雨と雷に遭い下山（この登山の様子を短編『柳沢』に記述）《003-51》

1917:11月

■ロシア10月革命，ボリシェヴィッキ政権樹立

1917:12月

◆16日(日)：短歌『好摩の土』等10首【アザリア IV号12頁】。

◆27日(木)：短歌『「アザリア」十月号より』等5首【校友会会報 第35号】

1918（大正7）年 22歳

■農学部第二部は農芸化学と改称し，関豊太郎が初代部長になる

◆清六と共に従兄弟の家で洋楽レコードを初めて聴く

1918:1月

◆26日(土)夜：花巻に帰省《003-52》

◆27日(日)：卒業と将来の問題について父と話し合う《003-52》

1918:2月

◆01日(金)：政次郎宛書簡に，徴兵されると実戦に参加する可能性があるため反対であるという父の意見に否定的であると伝える《003-52》

◆02日(土)：政次郎宛書簡に「自ら勉励して法華経の心をも悟り奉り」と書き、法華行者として生きる決意を示す《003-53》

◆08日(金)：政次郎宛書簡に研究生として残ることを決意する《003-53》

◆10日(日)：卒業試験終了《004-47》

◆20日(水)：断層『復活の前』《003-53》の他，保坂嘉内の『社会と自分』（…おれは皇帝だ。おれは神様だ。おい今だ，今だ，皇室をくつがえすの時は，ナイヒリズム）【アザリア 第5号34頁】《002-52》

◆23日(土)：政次郎宛書簡で卒業論文『腐食質中ノ無機成分ノ植物ニ対スル価値』の草稿を出したこと，徴兵検査の手続きをして欲しいことを述べる《003-53》

1918:3月

◆09日(土)：帰花して父と将来を相談し，徴兵検査については父の意見に抗しつつも2年延期に傾く《003-53》

■13日(水)：得業試験の合格者発表。虚無思想の持ち主との理由で保坂嘉内が除籍処分となる《002-52/003-54》

◆14日(木)：保坂の除籍処分について教授会に抗議するも却下される《002-52/003-54》

◆保坂嘉内に身辺を離さなかった『漢和対照妙法蓮華経』を贈呈

◆15日(金)：三年次の得業式《002-57》得業（＝卒業）論文『腐食中ノ無機成分ノ植物ニ対スル価値』にて盛岡農林学校農学科第二部卒業（得業士）関豊太郎の地質土壤肥料研究の研究科に進学し研究生となる《003-54》半任官待遇として年間150円が出張旅費として

支給されたが、100 円は来年の研究生にまわして欲しいと頼み、その代わり家から百十数円の援助を依頼した《002-57》

◆詩『盛岡停車場』，短編『大礼服の例外的効果』『泉ある家』『十六日』

◆同級生成瀬金太郎が南洋ボナベ島へ赴任するとき短歌『君を送り君を祈る歌』6首

1918:4月

盛岡高等農林学校研究生時代

◆保坂嘉内宛書簡「私の父は近頃毎日申します『貴様は世間のこの苦しい中で農林の学校出ながら何のぞまだ。何か考えろ。みんなのためになれ。錦絵なんかを折角ひねくりまわすとは不届千万。アメリカへ行こうのと考えるとは不見識の骨頂。貴様はどうとう人生の第一義を忘れて邪道に踏み入ったな。』」《001-82》

■盛岡の四教会というカトリック系教会に、プジェーというフランス人神父がおり、浮世絵・刀・鐔を収集していたが、困った人を助けるためにそのコレクションを処分したりしていた。賢治が惜しげもなく人に物をやったりする行為もこの神父の影響があるのかも知れない《001-83》

◆01日(月)：賢治と鶴見要三郎の二人は研究生として学校に残る《002-57》

◆10日(水)：稗貫郡郡長葛博より稗貫郡土性調査を囑託され、盛岡高等農林学校教授関豊太郎博士の指導を受ける《003-54》

◆16日(火)：花巻周辺の山を調査中に崖近くで足を滑らせて膝を捻挫する《002-58》

◆17日(水)：豊沢の土性調査。伊藤豊左衛門方に宿泊《002-58》

◆18日(木)：鉛温泉の土性調査《002-58》

◆19日(金)：台温泉の土性調査。釜田に宿泊《002-58》

◆20日(土)夜：自宅に寄って盛岡に戻る《002-58》

◆28日(日)：徴兵検査第二乙種(丙種)で徴兵免除《003-54》

◆菜食生活を開始する(～1923年)《002-229/004-65》

■上野桜木町(鶯谷)に国柱会館(日蓮主義の在家仏教教団国柱会の中央事務所)が落成する《003-58》

1918:5月

◆10日(金)：盛岡高等農林学校実験指導補助を囑託される《003-54》

◆19日(日)午前：北上川葛の渡し，八重畑村，権現堂山，廻館山，亀ヶ森，八幡館，大^{おおはさま}迫，石川旅館泊，夜は乙部の火事のため停電

◆母イチが賢治の嫁にと心づもりしていた娘の家のあることを思い出す《001-41》。

◆保坂嘉内宛書簡「私は春から生物の体を食うのを止めました。けれども先日「社会」と「連絡」をとるおまじなゑにマグロの刺身を数切れ食べました。…食われる魚がもし私の後ろにいて見てみたら何と思ふでしょうか。『この人は私の唯一の命を捨てたその体をまづそうに食ってゐる』『怒りながら食っている』『やけくそで食ってゐる』『私のことを考えてしづかにその油を舌に味ひながら魚よおまへもいつか私の連れになって一緒に行か

うと祈ってゐる』『何だ、おらの体を食ってゐる』まあ魚によって色々考えるでせう。…もしまた私が魚で私も食われ私の父も食われ私の母も食われ私の妹も食われてゐるとする。私は人々の後ろから見てゐる。『あああの人私の兄弟の体を箸でちぎった。隣の人と話ながら何とも思わず呑み込んでしまった。私の兄弟の体は冷たくなってさっき、横たわってゐた。今は不思議なエンチーム〔酵素〕の作用で真暗なところで分解して居るだろう。われらの眷属をあげて尊い惜しい命を捨てて捧げたものは人々の一寸の哀れみをも買へない。』私は前に魚だったことがあって食われたに違いありません。…」《001-53》

◆27日(月)：保坂嘉内宛書簡に今後、係累は断じて作らない決心を述べ、独身主義を訴える《001-41》

◆～1918年9月：関教授を班長として助教授小泉多三郎・神野幾馬（他に末永？）と共に稗貫郡内の土性調査

◆上旬：葛丸川流域踏査

1918:6月

◆06日(木)：白金線を用いた実験で砂金中にイリジウムとオスミウムの合金イリドスミンの存在を推定してこれを確かめるために書籍を求めて仙台に出かけることその費用として60円ほどを両親に無心する書簡を書く《004-47》

◆16日(日) or 17日(月)《003-54》：郡の土壌分析開始

◆26日(水)：短編『(峯や谷は)』【アザリア 第6号＝終刊 16頁】《003-56》

◆30日(日)：胃近傍の胸部痛で岩手病院を受診し《002-59》結核性肋膜炎と診断される《003-56》結核の感染経路は母→妹→賢治の他に母系叔母コト・親戚の岩田磯吉など

◆童話『蜘蛛となめくじと狸』創作開始《004-51》

◆童話『双子の星』『めくらぶどうと虹』創作開始

1918:夏

◆二人の妹を連れて八戸へ遊興。白金という海辺にある中島屋に3泊するが、賢治のみすぼらしい様子から3階の屋根裏部屋に案内され疎略に扱われるが、賢治は頓着せずに過ごす。宿を払うときに安い宿泊代に5円というお茶代を加えたために女将が恐縮する《004-52》

●初夏：とし子、病弱となる《004-107》

1918:7月

◆20日(土)朝：体調不良のため土性調査の仕事を辞める決心をし、郡長・葛博を訪問する。その後、関豊太郎の自宅を尋ね、研究生辞退を申し出る《002-60/003-56》→大正9年5月。

◆下旬：小泉助教授と共に稗貫郡葛丸川流域の林相調査に出る。志戸平を経て、大沢温泉に宿泊

◇翌日：幕館から鉛温泉を調査

◇翌々日：台温泉から割沢方面の調査予定であったが、体調不良のため一旦帰宅する《002-60》

◆25日(木)：石鳥谷から東方の山を調べ、更に豊沢川、葛丸川、岳川、稗貫川一帯を踏査

する。熱さの中の調査であったが賢治は寒気を訴えていた《002-61》

1918:8月

◆童話『蜘蛛となめくじと狸』『双子の星』『貝の火』を弟妹に朗読。この頃から童話の創作を始める《003-56》

■日本シベリア出兵

■全国的な米騒動

◆24日(土)：盛岡高等農林学校実験指導補助を退職する《003-56》

◆匿名で短編童話風の手紙を印刷し方々へ郵送

1918:9月

◆01日(日)：実験指導補助嘱託を解かれる（盛岡高等農林学校）

◆26日(木)：稗貫郡東部の大迫、岳、早池峰山の土性調査で調査は終了した《002-61》

◆27日(金)：保坂嘉内宛書簡「小生も事情さへ許すならば出京勉強致し度く候へども…但し今後の繋累は断じて作らざる決心に御座候。」《002-62》

◆土性調査報告書第1章『稗貫郡地形及び地質調査』と『地質土性図』を作成

■原敬内閣成立

1918:10月

●13日(日)：トシ目黒の慰廃院（ハンセン氏病者収容）を慰問

●父胃腸病のため西鉛温泉で保養，賢治店番

1918:11月

■武者小路実篤らが「新しき村」を宮崎県に建設

●トシ（日本女子大学在学中）病臥の報

1918:12月

◆アンデルセンの「絵のない絵本」をドイツ語で読む

◆「アザリア」終刊

●26日(木)：トシ，東京帝国大学医学部付属病院小石川分院（通称永楽病院）に肺炎で入院したという知らせが寮監・西洞タミノから届く

◇夜：母と共に夜行で上京する《002-65/004-107》

◆27日(金)午前7時30分～8時：病院に到着 or

◇10時：上野に到着《002-65》小石川区雑司ヶ谷の雲台館に投宿（1日1人1円20銭の宿泊代）した後，病院にトシを見舞う。トシは38，9℃の発熱とどの痛みを訴え，副院長に病像を尋ねるとチフスに似るため隔離病棟一等室一人部屋に入れられるが《003-56/004-107》，菌は検出されていないと答える。当時インフルエンザ（スペイン風邪）の大流行中でもありその疑いもある《003-57》

◇夜：西洞タミノを訪れ，連絡等の礼を述べる。西洞は「あまり大げさにはなると思いましたが，大事をとって入院させました。」と話す《002-65》

◆28日(土)：主治医の内科医長・二木謙三《004-107》が診察に来て病像がチフスに類似し，更に気管上部に肺炎の病状があると話す。その後もトシは38℃台の発熱持続《002-65》

◆30日(日)：政次郎宛書簡で「当地滞在中私も兼て望み候通りの職業充分に見込相付き

候。」として蛋白石・瑪瑙めのうの販売を考える《003-58》

◆31日(月)：保坂嘉内宛書簡で「家事上の都合で私は当地に永住するかも知れない。」と書く《003-58》

◆早朝とし子を見舞い、熱や容態を聞き、下宿に戻って母に報告し、朝食をしてすぐに病院に行き、午後は門限時間までたゆまず看護にあたる。街に出てはとし子の好む物を探し求め、美しい温室の花などを生けて、とし子を慰める《004-108》

1919(大正8)年 23歳

■北一輝が『日本改造法案大綱』を発表

◆下旬：詩『手紙三』

1919:1月

◆01日(水)：曇った寒い日であったが、母と共に雲台館で元旦を迎え、旅館側で屠蘇と雑煮を用意してトシの全快を願ってくれる。羽織袴で正装した旅館の主人が新年の祝いの言葉を述べる《002-65》

◆正月明けに上野公園の帝国図書館を訪れる《002-66》

●15日(水)：母イチ帰花《003-56》その折りに上野駅で父に頼まれた土産の牛肉を買いに走る

◆東京帝大英文学専攻の阿部孝の下宿したや やなか(下谷区谷中)を訪れ、その書架に萩原朔太郎はぎわらさくたろうの詩集『月に吠える』を発見して「不思議な詩だな」と言いながら読み進むにつれて賢治の目が異様な輝きを帯びる。詩人賢治を創り上げるきっかけになったといわれる《001-90/003-58》

◆上野桜木町の国柱会館を訪れ、田中智学の講演(25分)を聴講する《003-58》

◆神田の石材屋に岩手県産の蛋白石や瑪瑙の売り込みをする《002-66》

◆27日(月)：父宛手紙で東京では1間半ぐらいの宝石店が沢山あり、十分に商売が成り立っていることや、東京は花巻のように気遣いは入らないので暮らしやすいことから人造宝石の製造販売の商売を知人の長屋を借りて商売を始めたいと希望するが拒否される《0001-175/003-58》

◆29日(水)：政次郎宛書簡で「無理なる御願早速と御聞済なりくだされみ被成下何とも有難。」《003-58》

◆31日(金)：政次郎宛書簡で「飾石・宝石・印材の研磨」「ネクタイピン・カフスポタン・指輪等の製造」「鍍金」などの商売をあげる《003-58》

1919:2月

◆2月始め、トシの付添の看護婦が風邪で倒れ、賢治が食事、衣服の替え、投薬、排便の世話まで行う《002-66/004-108》

●妹トシの下肺部に結核の病巣が判明

◆02日(日)：政次郎宛書簡に具体的に設備にかかる費用の明細をあげる《003-58/59》

◆03日(月)：とし子の病状を報告した政次郎宛の書簡は、大正7年12月27日付の最初の書簡から大正8年2月3日付の書簡までの38日間に35通に及び、日に2通の日もあり、3日以上間を空けることなかった。2月3日付の書簡には「インフルエンザ回癒後下肺部に一時的の極めて小部分ながら結核これ有り由にて、そのために熱も割合に下らざりしものと存じ候。只今はすっかり痕もなく相成り、たんをも毎日調べ候えども只今は全く結核菌これ無き由にござ候。」《004-104》

◆05日(水)：政次郎宛書簡に東京の知人・小林六太郎に相談したところ「父上よりも御申し越しの様に宅全体こちらへ移り長屋にても建てて之を管理するとか手堅き金融等を仕事とし先ずその準備として左様のことを私が直ちに着手しては如何。」という意見であったこと、これに賢治も賛成し「生活も花巻程に骨も折れず人気もあれ程陰険には之無く、二三年の間に家の主部をこちらへ御移しなされては如何。」しかしこの手紙と入れ違いに政次郎から消極的な意見が届き、同日に書いた別の政次郎宛書簡には「私の職業等は又後の問題に致しても宜しく候へどもそれ程迄稼ぐと云ふ事が心配なるものに御座候や。何卒私に落ちついてまじめに働くべき仕事を御命令被成下度候。車の後押しにても純粹の百姓にても何にても宜しく候。又は私に自由に働く事を御許し下され候や。」《003-59》

◆07日(金)：父の厳命で賢治帰花

●下旬：トシ退院し、数日間 or 1週間ほど《004-109》雲台館に宿泊する《002-66》

●母と叔母・岩田ヤスが上京する《003-59》

◆稗貫郡立農蚕講習所に乞われて講師となり、鉱物・土壌・化学・肥料を講義する。久留米^{かすり}餅に袴を着け、時折謄写版印刷の資料を配って読んで聞かせたりした《001-149》

1919:3月

◆03日(月)：雛祭りを祝った後《004-109》トシ、母・叔母岩田ヤスと共に帰花《002-66/003-56/003-59/004-109》

■04日(火)：日本女子大学長成瀬仁蔵、長い闘病の末、逝去

●トシ帰宅後も静養臥床する《003-59》

●29日(土)：トシは日本女子大学を三学期全休し、卒業試験は受けなかったが平素の優秀な成績が認められ、優等の成績で卒業ができ《004-109》西洞タミノが卒業証書を花巻に持参して西鉛温泉に一泊して帰京《002-66/004-109》

1919:春

◆浮世絵版画の収集に熱中する。殊に写楽に共感を覚える《002-67》

◆裏の畑で野菜作りをする

1919:4月

◆保坂嘉内宛書簡「…只私のうちは古着屋でまた私は終日の労働に堪へないようなみじめなからだの為にあなたの様に潔い大気を呼吸しては居りません。畑を起こしたり播いたりもして見ましたし便利瓦といふものを売ってみたり錦絵が面白くなって集めたり結局無茶

苦茶です。…商売をすれば偽を云ったり、偽になるようないい方法をつかったりしなければなりません。…」《002-67/003-59》清六談では「『便利瓦』というのはアスファルトのようなものを、布に塗った、トタンの代用品のようなものでした。兄さんは東京でそれを見つけてきて仕入、店で売りました。この便利瓦のもうけは、兄さんにみなやりましたので、たいていレコードになったり、浮世絵に化けたものです。」《003-59》

◆15日(火)：成瀬金太郎宛書簡で「私は暗い生活をしてゐます。うすくらのなかで遙かに青空をのぞみ、飛び立ちもがきかなしんでゐます。」《003-59》

■稗貫郡蚕業講習所が稗貫郡立農蚕講習所に改称

◆賢治、稗貫郡農蚕講習所の講師となる

1919:5月

■北京で抗日の五・四運動が起こる

◆短編『猫』短編『ラジュウムの雁』《003-60》短編『女』『うろこ雲』『中留の物干台』

1919:夏

◆短編『女』《003-60》

1919:7月

●トシ西鉛温泉で100日ほど保養《004-110》

●トシ、賢治の短歌662首を浄書（一部はシゲ）して1冊の歌集とする《002-230》

1919:8月

●トシ、岩田やすの影響で三味線が好きで、手すさびに弾く《004-110》

●トシ、盛岡の円光寺住職夫人の世話で円光寺に滞在して、1ヶ月ほど盛岡市内の師匠に洋裁を習う《004-110》

●父は賢治の様子を見かねて「きさまは世間のこの苦しい中で農林の学校を出ながら何のぞまだ。何か考へろ。みんなのためになれ。錦絵なんかを折角ひねくりまわすとは不届千万。アメリカへ行こうのと考えるとは不見識の骨頂。きさまはとうとう人生の第一義を忘れて邪道に踏み入ったな。」《002-68/003-60》

1919:9月

●04日(木)：トシ、花巻高等女学校に教諭心得として赴任、英語と家庭科を担当《002-94》

◆保坂嘉内宛手紙『手紙一』（龍の話）を無題のまま活版印刷されて広告チラシのように配付する。全集では便宜的に『手紙一～四』と命名する。『手紙』の目的は仏教の布教である《003-61》

◆田中智学の著書を基に抜粋『摂折御文 僧俗御判』を編む

◆郡立農蚕講習所の講師を委嘱され、時に教壇に立つ

1919:秋

◆短編『うろこ雲』《003-61》

◆日蓮宗の宗教家某に面接するため状況《004-68》

1919:12月

◆23日(火)：保坂宛『手紙二』（ガンジス河の娼婦の話）を印刷したが配る気がしないと

書く《003-61》

◆26日(金)：とし子の看病のため上京する《004-52》

■保坂嘉内、一年志願兵として東京駒込の兵舎に滞在する《003-61》→大正09年11月。

◆郡立農蚕講習所講師(土壌・肥料・化学など)を勤める《003-61》

1920(大正9)年 24歳

■大本教の『大本神諭』火の巻が発禁になる

◆童話『貝の火』『三人兄弟の医者と北守将軍』『ペンネンネンネン・ネネムの伝記』
1920:1月

■国際連盟が発足、日本、常任理事国となる

1920:2月

●トシ『自省録』執筆

1920:3月

■戦後恐慌始まる

■尼港事件始まる

1920:4月

1920:5月

◆07日(金)：「日蓮上人御遺文」と田中智学の『本化撰折論(撰受=相手を認めて受け

入れながら慈悲の心で導く方法と折伏=邪法を信じる相手に厳しい態度で正法に導く方法)』より抜粋して『撰折御文僧俗御判』を編集

●10日(月)：トシ、花巻高女創立記念日で式典に参加するが、記念写真撮影時に倒れそうなほど体調がすぐれなかった。それ以降、微熱が続く《002-95/004-111》

◆20日(木)：盛岡高等農林学校農地質学研究科研究生を修業する《002-68/003-62》

◆関豊太郎教授から助教授推薦されるが実業へ進む意志のため父子ともに辞退する。その就任の条件として学校備品整備の寄付金を要求される

◆短編『丹藤川』を『家長制度』に改題する《003-61/003-62》

◆短編『猫』初稿と『女』を改稿する《003-62》

1920:6月

■マルクス著高島素之訳『資本論』刊行

◆短編『うろこ雲』を改稿する《003-62》

◆短編『ラジュウムの雁』初稿

1920:夏

◆保坂嘉内宛書簡で「私なんかこのごろは毎日ブリブリ憤ってばかりゐます。何もしゃくにさわる筈がさっぱりないのですがどうした訳やら人のぼんやりした顔を見ると、『えゝぐ

づぐづするない。』いかりがかつと燃えて身体は酒精に入った様な気がします。机へ座って誰かの物を言ふのを思ひだしながら急に身体全体で机をなぐりつけさうになります。…私は殆ど狂人にもなりさうなこの発作を機械的にその本当の名称で呼び出し手を合わせます。人間の世界の修羅の成仏。」《003-62》

◆夜：賢治に勧められて法華經に入信していた関徳弥の店先で、政次郎の友人・阿部晃が買い物に來ているところに賢治が來合わせ、関徳弥と雑談をしているうちに、賢治が関に『法華經叢談』という本を手渡して阿部にあげて欲しいと頼む。関は阿部にその本を手渡したところ、阿部はしばらくその本をみていたが、ころ合いをみて賢治が「田中智学先生がお書きになられたものです。法華經の研究をお願いいたします。」という、阿部は見下げるような態度で応じ、二人は激しい口調で議論を始め、最後に阿部は「それなら自分の家から改宗させたらどうだ」といい、賢治は丁寧にお辞儀をして2時間の口論の後にぷいと外に出てゆく《001-201/004-60》

◆田中智学著『本化撰折論』と『日蓮上人御遺文』から抜き書きをして『撰^{しょうしゃく}折御文^{ごもん} 僧俗^{そうぞく}御判^{ごはん}』を作成する《003-65》

1920:7月

■26日(月)：関豊太郎、盛岡高等農林学校を退職する

◆保坂嘉内宛の手紙に世界唯一の大導師日蓮上人の教えに違背せぬことを報じる

1920:8月

◆保坂嘉内宛書簡で来春上京を予告する《003-64》

◆末：盛岡高等農林学校退職後の関豊太郎と共に土性調査でやり残した早池峰山麓の大迫や小山田付近の地質調査を行う。大迫町で宿泊

◇翌日：早池峰山麓の調査を行う《002-69》

◆下旬：町の料亭で開催された土性調査の慰労宴に主賓の関豊太郎の他、賢治など高農関係者が招待される。付近の村長や郡技手なども参加し、町長の乾杯の音頭で酒宴が始まる。芸妓が加わり宴たけなわとなると、「自分たちをだしにして酒を飲みたいだけで、自分たちに困難な仕事をさせていながらそれ相当に遇していない」と関豊太郎は怒りをあらわにする。関の怒りに触れて参加者は徐々に退席し、最後は関と賢治、芸妓だけになる。賢治も洗面所に立つ振りをして退席する《002-74》

◆花巻町長久寺（臨濟宗）佐藤祖林に参禅、帰宅

1920:9月

◆12日(日)：政次郎は清六と従兄弟・安太郎に夏休みの間に妹・シゲ(19歳)とクニ(12歳)を岩手山に連れてゆくように命ずるが、清六が躊躇していたため夏休みも過ぎてしまい、政次郎が清六をひどく叱っているのをみかねた賢治が代理を申し出る。賢治はカーキ色の作業服、シゲは単衣^{ひとえ}の着物に赤い腰巻きと草履、クニはくくり袴に地下足袋という姿であった。花巻から滝沢までは汽車で行き、そこから10kmほど歩いて柳沢まで行く。シゲが柳沢で草鞋を2足買い、山にかかるそれを履く

◇夜：宿屋を兼ねる農家に宿泊する《002-76》

◆13 日(月)03 時：提灯をさげて岩手山に登頂する。心臓の弱いシゲを励ましながら頂上近くまで登る。疲れ切ったシゲを残して賢治とクニはお鉢回りに行く。強い風に吹き飛ばされそうになったクニは賢治にしがみつき、賢治は法華経をよい声で唱え始める。下山した一行は麓^{ふもと}の茶屋で素麺を食べる

◇16 時：滝沢駅発の列車に乗車

◇20 時：疲れ切った二人の妹を励ましながら帰宅する《001-141/002-77/003-65》

◆短編『秋田街道』『沼森』初稿。『柳沢』改稿《003-65》

◆23 日(木)：保坂嘉内宛書簡で来春の上京を予告する《003-64》

●24 日(金)：トシ、花巻高女教諭心得(英語・家政学・国語)となる《003-65/004-109》

●トシ、英語の実力も相当あったが、「余りにかたくて融通がきかなさすぎる」と評され、自らの英語の不完全さを気にして日曜日に盛岡に出て外国人から英語の発音について教えを受けていた。英語の教授には賢治をただ一人の支援者として頼りにする。受け持ちの英語の生徒の英語答案の採点では誤りを正し丹念に加筆する《004-110》

■下旬：関豊太郎、東京西ヶ原の国立農事試験場の嘱託となり、土壌学研究に専念《002-69》

■田中智学、日刊新聞【天業民報 創刊】

1920:10月

◆田中智学の『本化妙宗式目講義録』全5巻読破

◆国柱会入会希望書を本部へ送付

◆23 日(土)：通常は研究員を経て受理される信行員を希望して受理され、国柱会へ入会(日蓮が法難を受けた旧9月12日に相当)する

◇夜：日蓮上人の龍ノ口法難(文永8<1271>年旧暦9月12日に申の刻、鎌倉江の島海岸近くの龍ノ口で、佐渡に流される途中の日蓮上人が密かに殺されようとしたとき、江の島方面から月光に似た円い光の環が到来し、刀を振り上げた武士はそれに目がくらみその場にひれ伏したという奇跡)650年の夜にあわせて花巻市内を唱題して歩く《001-202/002-78》当時、日蓮宗の寺院はなく(日蓮宗花巻教会の設立されたのは昭和3年)、町の人々は異様に感じた

◆国柱会から曼陀羅を受けとり、町の経師屋^{きょうじや}に持って行き小さな軸にする《001-202》

●親戚の関徳弥が国柱会に入会する

◆関徳弥と共に二階の賢治専用の仏壇に曼陀羅^{かんじょう}を掛けて勸請する。その後、関徳弥の家の仏壇でも勸請する《001-202》

◆国柱会発行の新聞【天業民報】を表に張り出し、法華経の輪読会を行う

●父西鉛温泉に保養

■第1回国勢調査(10月1日現在の岩手県人口84万5500余)

1920:11月

- 保坂嘉内、一年志願兵として過ごした東京駒込の兵舎を出る《003-61》
- 明治神宮完成

1920:12月

- ◆02日(木)：保坂嘉内宛書簡で国柱会入会を伝える《002-79/003-66》
- ◆国柱会から送られる緑色の新聞【天業民法】を家の前に掲示板を作り掲示する《002-79》
- ◆夜：風呂場で2、3度水浴びした後、内輪太鼓をたたきながら下駄屋のおかみと「南無妙法蓮華経」を唱えて町内を寒修業し、親類の家の前では特に長く唱題をする。たまたま関徳弥の家に来ていた政次郎は「困ったことをするものだ。」と舌打ちをする《001-204》
- ◆父に改宗を迫る《002-79》
- ◆保坂嘉内宛書簡に国柱会入会の件、保坂嘉内への入信勧誘、面識もない田中智学への傾倒などを記す《002-79》
- 稗貫郡通常郡会で農蚕講習所の廃止と稗貫農学校案が付議可決される

1921 (大正10) 年 25歳

- 花巻新聞が島理三郎によって豊沢町で発刊される
- 小岩井農場は酸性の強い火山灰土壌に悩まされ、その解決策として消石灰に加えて石灰碎石を施与した
- 橋場線（盛岡～雫石間）小岩井駅開設
- 大本教に対する政治権力の第一次弾圧
- 四カ国条約の成立
- 日英同盟破棄
- メートル法の公布
- 北京原人の発見
- アインシュタインが「理論物理学の諸研究」でノーベル物理学賞を受賞
- 日蓮生誕700年
- 暁烏敏『生くる日』
- プロレタリア文学誌【種播く人】創刊
- 北原白秋訳のイギリス童話『まざあぐうす』
- 石原純訳『相対性原理』
- 高村光太郎『雨にうたるるカテドラル』
- ドイツ映画『カリガリ博士』封切り
- 松井須磨子『ゴンドラの歌（いのち短し）』の後を受けて『枯すすき』が流行
- 童謡『赤とんぼ』誕生
- 陸羽132号が初めて栽培される
- ◆『いてふの実』『馬の頭巾』『気のいい火山弾』『さるのこしかけ』
- ◆『蒼冷と純黒』（大正10年8月11日付関徳弥宛手紙裏面筆記）

- ◆『種山ヶ原』『クンねずみ』（～大正 11 年）『[けだもの運動会]』（～大正 11 年）
- ◆村童スケッチ『十月の末』（～大正 11 年）
- ◆『十力の金剛石』または『虹の絵の具皿』（～大正 11 年）『ツェねずみ』『月夜のけだもの』『とっこべとら子』（～大正 11 年）『鳥箱先生とフウねずみ』『ひのきとひなげし』初期形『ペンネンネンネン・ネネムの伝記』（～大正 11 年）『よく利く薬とえらい薬』現在稿（～大正 11 年）『よだかの星』（初稿『よだか』）

1921:1月

◆父母の改宗熱望

◆内村鑑三の直弟子で熱烈なクリスチャンの齊藤宗次郎（1877～1968）を訪ね田中智学の人物と現状を問う

◆保坂嘉内宛書簡で「あなたは春から東京へ出られますか。お仕事はきまっていますか。私の出来る様な仕事で何かお心当たりがありませんか。学術的な出版物の校正とか云ふ様な事なら大変希望します。今や私は身体一つですから決して冗談ではありません…勉強したいのです。偉くなる為ではありません。この外には私は役に立てないからです。」《003-70》

東京出奔時代

◆23日(日)16時30分：背中へ御本『日蓮上人御遺文集』と『日蓮上人御書全集』の2冊が落下《001-204》したのをお告げと受けとめ、父母は留守で末妹・クニが心配そうな顔で

見る中を《002-81》筒袖のかすり縹の着物、ご本尊、御書、洋傘をもって家を出る。家から駅まで徒歩で15分ほど

◇17時12分：花巻駅を出発し、上京する《004-64》

◆24日(月)08時30分：上野駅着。盛岡高等農林学校同級生の鈴木延雄を訪ね、袴を借りて上野桜木町の国柱会館（国柱会中央事務所）に行く。国柱会理事兼講師兼受付の高知尾智耀と接見。高知尾談では「一人の青年の来訪に、玄関先へ出てゆくと、頭は五分刈り、紺ガスリの和服姿に、洋傘と風呂敷つつみをもった、質実そうな25、6歳の青年が立った。用向きを尋ねると『私は昨年、国柱会の信行員として入会をゆるされた岩手県花巻の宮澤賢治というものであります。爾来国柱会のご方針にしたがって信仰にはげみ、一家の帰正を念じて父の改宗を進めておりますが、なかなか了解してくれません。これは私の修養が足りないために父の入信が得られない。この上は国柱会へ行って修養をはげみ、その上で父の入信を得るほかないと決意し、家には無断で上京して来たものであります。どういふ仕事でもいたしますから、こちらに置いて頂きご教導をいただきたいのです。』ということであった。」《003-71》

◇夜：手持ち金は3、4円しかなく、日本橋本石町で雑貨商を営む、政次郎の知人・小林六太郎方に仮宿する《001-205/002-82》

◆25日(火)：通り三丁目の丸善書店で予約本を解約し29円10銭を入手する。原宿の明治神宮を参拝

◇夕：国柱会に近い場所と思い、上野から本郷あたりを歩き回り、本郷菊坂町75（文京区

本郷4丁目35番地5号)稲垣(玩具職人)方二階の六畳《004-64》or 四畳間 or 三畳《003-73》(「ウナギに寝床のように細長い」)に下宿する《003-72》初めのうちは七輪と鍋で粥を作っていたが、火加減が分からず焦がしがちなため、後には朝は「めしや」で済ませ、昼は抜き、夜は焼き芋やゆでたジャガイモで済ませていた《001-55/001-205/002-83》

◆中学の同級生で後に海軍軍医になった小田島祥吉が東大医科に在学していたので、その紹介で東大医学部解剖学教室の解剖用死体の運搬をするが、「あまり臭いがひどいので」2、3度で辞める。その後、某の紹介で、岩手県人の金田一京助博士の講義をプリントにし、それを学生に分けていくらかの金を手にする仕事を始める《004-64》

◆26日(水)午前中4時間《004-65》or 08時～17時30分：本郷6丁目東大前(下宿先より5、600メートルのところ)の出版社「文信社」(主人も日蓮宗信者)に勤務して筆耕(ガリ版切り)の仕事(1頁20銭/1日1円前後)をする。賢治は袴を着けて帽子はかぶらず、袴の紐には童話の原稿を入れた小さな風呂敷包みをいつもぶら下げていた《003-72》

ここでガリ版切りのアルバイトをしていた鈴木東民^{とうみん}と知り合う《003-72》

◆昼休み：東大生の久保田正文と共に上野公園で街頭布教をする

◆午後：国柱会の仕事の手伝い、下足の世話、新聞冊子の宣伝見本の発送を行う

◆夜：国柱会連夜講演の聴講をする

◆焜炉と鍋を買ってきて粥を炊く。後には朝食を縄のれん式の店で済ませ、昼は食べなかったり、夕食は図書館の帰りの22時過ぎ、帰り道で薩摩芋を食べて簡単に済ませたり、馬鈴薯を買って来てゆでて塩を付けて食べる《004-65》

◆20時過ぎ：帰宅して粗末な夕食を済ませ、深夜にかけて創作活動をする。1ヶ月間に平均約3000枚の原稿を書く《002-83》

◆高知尾智耀によると「賢治はその後、毎夜国柱会館に通い、講話を聞かれるばかりでなく、いろいろな会合の斡旋をしてくれた。…また当時は大正9年に日刊【天業民法】が創刊されてまもないころで、国柱会の講師と会館詰めの青年は、毎日のようにお昼休みを利用して、ほど近き上野公園に行き【天業日報】を施本し、読者を募るべく屋外宣伝をやった。賢治もおりおりこれに加わり、壇上に立って講演をされたそうである。…のちに他の青年から賢治が絶叫されたという話を聞いた」【わが信仰わが安心】《003-75》

◆高知尾智耀によると「私には法華文学の創作をすすめたという明確な記憶はないが、いろいろな信仰上の意見を交換した中には…出家して僧侶となり仏道に専注するのが唯一の途ではない、農家は鋤鋤を持って、商人はソロバンをもって、文学者はペンをもって、各々その人に最も適した道において法華経を身によみ、世に弘むるとというのが、末法における法華経の正しい修行のあり方である。…それを聡敏な賢治は、私が法華文学の創作を勧奨したと受けとったのであろう」【わが信仰わが安心】《003-74》しかし上田哲によると【天業日報】には国柱会の活動が記録されているが賢治の名前はどこにも出てこないことから、賢治が屋外宣伝や講話を聞きに行ったか不明という《003-75》金田一京助によると「ある日上野の山の花吹雪をよそに、清水堂の大道で、大道説教をする一味に交わり、そ

の足で私の本郷森川の家を尋ねて見えた。中学では私の四番目の弟(註：他人)^{たびと}が同級で、…写真を見て顔は知っていたのだが…」【随想 啄木と賢治】《003-75》

◆30日(日)：保坂嘉内宛書簡

1921:2月

◆18日(金)：保坂嘉内宛書簡で入信の誘いをし、国柱会機関誌【天業民法】の購読を勧める《003-74》

◆生業をもって大衆の教えを広めるのが純正日蓮主義の信仰であると高知尾智耀に勧められ、文芸による大乘仏教の普及を決意する《003-74》

◆父、近江銀行東京支店の小切手を送金するも賢治は返金する《003-74/004-66》

●実家では三度の食事毎に蔭膳をすえて無事を祈る。魚介類を食べないため、わざわざだしの入らない汁を別に作り供える《004-67》

◆父宛書簡「私は理財の能力が甚欠けて居りますから決して資本の運転はできません。お赦し願ひます。」《003-136》

1921:3月

■09日(水)：文部省告示第99号をもって農学校規定により修業年限2カ年の農学校設置の件が認可される

■10日(木)：稗貫郡立農蚕講習所(管轄は農商務省で郡役所が設立経営)は郡告知第6号、第7号により4月1日乙種課程小学校8年終了者を入学資格とする稗貫農学校として開校

することとなる。校長・畠山栄一郎(35歳)、教諭・堀籠文之進(22歳)、白藤慈秀(32歳)、岩崎三男治(23歳)、書記兼助教諭・奥寺五郎(25歳)であった。卒業者数30名。

◇宮本友一宛書簡「今回は私も小さくは父母の帰正を成ずる為に家を棄てて出京しました。父母にも非常に心配させ私も一時大変困惑しました。今は午前丈或る印刷所に通ひ午後から夜十時迄は国柱会で会員事務をお手伝しペンを握みつづけです。」《003-74》

■31日(木)：校医・阿部慎悟が発令される

◆歌舞伎座で日蓮を描いた田中智学脚本の『佐渡』を観劇

◆田中智学の宗教劇『日蓮』の入場券を大枚金3円で買い、それを郷里から上京している財閥の主人に送り、その観劇で仏意に触れさせようとする。《004-66》

■『日蓮上人全集』全7巻発刊

1921:4月

■01日(金)：稗貫郡立稗貫農学校設置(文部省所管)

□全国の公私立農学校は319校で、生徒数は48870名であった

●トシ、花巻高女の新任教師の斡旋を依頼するため夜行列車で上京するが、雨の中をさすらって風邪をひき、帰花後に再び病床に伏す《002-95/004-111》

◆初旬 or 3月31日(木)《004-68》：政次郎が賢治の下宿を尋ね、数日間滞在《002-84/003-75/004-67》食事は近所の食堂で済ませ、下宿の主人が布団を他から借りてきてくれたので頭をつきあわせるようにして休む《004-68》

◆01日(金)夜：父の勧めで関西の旅に出るため共に東京を出発《004-68》

◆02日(土)朝：政次郎(47歳)と共に名古屋に到着。参宮線で山田駅に到着

◇早朝：雨中、外宮を参拝した後、途中考古館を参観

◇昼過ぎ：内宮に参拝。二見ヶ浦で宿泊する。《002-84/004-68》

◆03日(日)：二見ヶ浦を出発する。草津駅で乗換。

◇11時頃：大津下車。乗合汽船で食事をしながら琵琶湖を渡る

◇13時：坂本到着

◇15時：徒歩にて比叡山根本中堂に到着。大講堂を参拝（3月16日～4月4日伝教大師1100年^{おんき}遠忌）

◇夕刻：白河路を経て京都で宿泊。途中京の方から来た巡礼姿の女人に出会う。真っ暗な大原を過ぎ、京都出町柳から市電に乗って三条小橋の^{ほていや}袋布屋に宿泊。賢治は菜食主義のためいっさい肉食をせず、精進料理を注文

□この日以降豪雨と大暴風雨が続き、盛岡市内では石垣の決壊や浸水などが起こる《004-71》

◆04日(月)早朝：三十三間堂近くにあった中外日報社を訪問して聖徳太子の磯長の廟に行く道順を尋ね、高野に行く線に乗ることを教えられるが、分かりにくいために奈良線で奈良に向かう

◇14時：法隆寺駅で下車。法隆寺本堂・金堂・夢殿を参詣（磯長村叡福寺の聖徳太子1300年遠忌）

◇夕方：奈良へ向かい、春日神社入口近くの旅館に宿泊《004-72》

◆05日(火)：晴れた日で奈良の名所（大仏殿、春日神社、猿沢の池、若草山など）を観光し、奈良に宿泊《004-73》

◆06日(水)朝：東京へ出発《004-74》

◆07日(木)：東京に到着する。上野駅で父子別れる

■11日(月)：稗貫農学校入学式。前農蚕講習所1年修業者18名を2年生に編入し、1年生には入学志願者52名の中から43 or 44名を入学させた

●27日(水)：父町会議員当選

◆短歌56首

◆明治42年からの短歌約914首をまとめて「発表を要せず」と朱書

●トシ校長命で上京

○日本女子大で教員探し

○風邪で臥床

■稗貫郡立農蚕講習所が稗貫農学校乙種（高等小学校2年を終えたものを対象として2年間で卒業できるもの）に改称。同僚は堀籠文之進^{ほりごめぶんのしん}、佐藤慈秀ら（教諭3名、助教諭1名、書記1名、非常勤2名＝剣道師範と校医）の8名。生徒は講習所修了者18名（2年生）新入生44名（1年生で2クラス）。入学資格は高等小学校卒（14歳以上）

●トシ、体の具合が悪くなる

1921:5月

■橋場線小岩井駅竣工

■06日(金)：郡立稗貫農学校開校式。校長兼教諭として畠山栄一郎（35歳）が就任。各教諭が平均4、5科目、13、14時間の授業と、6時間の実習を受け持った；

職員	教諭	岩崎三男治（22歳，盛岡高農卒，新潟県出身）
	教諭	堀籠文之進（22歳）
	教諭	白藤林之助（32歳）
	書記兼助教諭心得	奥寺五郎（25歳）
	助手	小原慶治（21歳）
	剣道教師	照井謙二郎
	校医	阿部慎吾

■10日(火)：花巻高等女学校創立10周年記念

■25日(水)：郡立稗貫農学校開校式挙行。本館1棟（約50坪＝165㎡，教室2，事務室・職員室・校長室兼用の部屋，使丁室，宿直室），草葺き屋根の蚕室2棟，校庭（やっとなでできる程度の広さ）。生徒総数62名。隣接する県立花巻高等女学校が2階建ての堂々たる校舎であったこともあり，花巻界隈の人々から「クワッコ大学（桑っことも鋤っことも）」と呼ばれた。養蚕の時間は1年次週4時間，2年次週4時間計週8時間で農業科目中最も多い学習時間が配当されていた

1921:6月

■25日(土)：盛岡～雫石間の橋場線（現在のJR田沢湖線の一部）開通【岩手日報】

◆29日(水)：入院中の母の妹・瀬川コトを見舞う

◇イチ宛書簡「やはり私が，数年間，帰ることが必要ならば，すぐにも戻ります」《003-75》

◆短編『電車』『床屋』『図書館幻想』『ダルゲ』改稿

●トシ，微熱が続き，全身倦怠と食欲不振のため寝込むようになる《002-95》

1921:7月

■01日(金)：毛沢東による中国共産党の結成

◆近衛輻重兵大隊の保坂嘉内と面会し意見対立

◆13日(水)：関徳弥宛書簡「私は書いたものを売らうと折角してゐます。それは不真面目だとか真面目だとか云って下さるな。愉快的な愉快的な人生です。…近頃は飯を二回の日が多いやうです。…うちから金も大分貰ひましたよ。…これからの宗教は芸術です。これからの芸術は宗教です。」《003-76》

1921:8月

◆11日(木)：脚気の薬を買ってもらった関徳弥宛礼状「十月頃には帰る予定ですが，どうなりますやら。」《003-77》「7月初め頃から25日頃へかけて一寸肉食をしたのです。それは，第一は私の感情があまり冬のような具合になってしまつて燃えるような生理的の衝動なんか感じないように思われたので，こんなことでは一人の心をも理解しかねると思つて断然幾片かの豚の脂^{あぶら}，塩鱈^{しおだら}の干し物などを食べたために，それをきっかけにして脚が悪くなったのでした。然るに肉食をしたって別段感情が変わるわけでもありません。今はもうすっかり逆戻りしました。」《001-55/003-76》

●中頃：トシ，喀血（花巻高等女学校教諭）の電報「トシビョウキスグカエレ」《002-95/003-77》

- ◆書き溜めた原稿 3000 枚をトランクに詰め帰宅する《003-77》
- ◆7月末：花城小学校教師をしている照井が校庭に出て夜空を眺めているところを訪れ、星座を教える。翌朝、照井を訪ね星座図を献上する《004-77》
- ◆20日(土)：短編『竜と詩人』初稿
- ◆25日(木)：童話『かしわばやしの夜』初稿をトシに読んで聞かせる《001-93》
- ◆26日(金)：関豊太郎と土性調査
- ◇大迫町石川旅館泊（～30日）
- ◆30日(火)：石川旅館で打ち上げ慰労会

1921:9月

- ◆01日(木)：童話『あまの川』【愛国婦人 9月473号】《003-77》
- 12日(月)：トシが花巻高女を退職する《002-86》
- ◆14日(水)：童話『月夜のでんしんばしら』初稿を書く《001-93/003-77》
- 母の妹・ヨシ（通称セツ）の夫・梅津善治郎が4代目花巻川口町の町長に当選（～昭和8年10月）
- ◆15日(木)：童話『鹿踊りのはじまり』初稿《003-77》トシに読んで聞かせる《001-93》
- ◆19日(月)：童話『どんぐりと山猫』初稿《003-77》トシに読んで聞かせる《001-93》
- 26日(月)：郡制廃止に伴う郡立学校の処分について、学務課案が作成されて内務部長のもとへ提出された
- ◆トシ、前年成稿の「歌稿」（811 or 709 首）を推敲加除して浄書
- ◆斉藤宗次郎と接見

1921:秋

-
- ◆童話『蛙のゴム靴』『蜘蛛となめくじと狸』前駆形『めくらぶどうと虹』初稿
 - ◆年後半：童話『毒もみのすきな署長さん』『連れて行かれたダァリア』初稿

1921:10月

- ◆13日(木)：保坂嘉内宛書簡「お陰を以て妹の病気も大分に宜敷今冬さへ無事経過致し候はゞと折角念じ居り候。」《003-78》
- ◆花巻高等女学校教諭・藤原嘉藤治と知己となる
- ◆父方の従兄弟で楽器店を営む岩田豊蔵の家で初めて洋楽レコードを鑑賞。この頃ロッシーニの「ウィリアム・テル序曲」やピアノ曲であった。豊蔵から蓄音機（10インチ盤）を借りたが、クラシックは12インチ盤であったため木箱の脇を削って聴いていたという《001-66》
- ◆自由詩（心象スケッチ）の創作開始

1921:11月

- 04日(金)：平民宰相（政党内閣）・原敬が東京駅で刺殺される
- ◆10日(木)：童話『注文の多い料理店』初稿を書く《003-78》。トシに読んで聞かせる《001-93》
- 11日(金)：盛岡大慈寺で原敬の葬儀が行われる
- 25日(金)：大正天皇病気のため皇太子・裕仁（昭和天皇）が摂政に就任

- ◆童話『狼森と策森、盗森』初稿《003-78》トシに読んで聞かせる《001-93》
- ◆短編『図書館幻想』を改稿《003-78》
- 石丸悟平『人間親鸞』

1921:12月

- ◆01日(木)：童話『雪渡り その1(子狐の紺三郎)』【愛国婦人 12月号】《003-78》

稗貫農学校時代

- ◆春画の収集は積み重ねると30, 40cmの高さになるほどで、これを農学校にもちこんで、同僚達に得意になって見せていた《001-84》
- ◆農学校の二階に昇った所にセザンヌやゴッホの複製を飾り、生徒達に観賞させていた《001-85》
- ◆授業の時にも滅多に黒板に字を書かず「おれあ、年々字が下手になるようだな。」と言っていた《001-87》

- ◆稗貫郡長・葛博(葛精一の父)の口利きと父政次郎とも親交のあった郡視学官・羽田正

の助言を受けていた畠山校長と路上で邂逅し、農業教科担当岩崎三男治の兵役退職に伴う後任として郡立稗貫農学校教師に就任するよう依頼した。賢治は当初「教師に向かない」と固辞したが「かねて私が一番尊敬している関先生と真正面から喧嘩されるくらいの校長先生のおられる学校で働けるのでしたらやらせていただきます。」と承諾した《004-81》政次郎は「唐人の寝言のようなものを書くよりはよいことだ。」とあって喜ぶ

◆03日(土)：養蚕室で赴任式が行われ、丸坊主で洋服を着た賢治は校長の紹介の後に壇に登り「ただいまご紹介いただいた宮澤です。」と一言挨拶をして壇を降り、農学校教諭となる(初任給80円八級俸岩手県)。代数・化学・英語・作物・土壌(膠質化学, コロイド, ブラウン運動, ゾルとゲルなどの最新の内容であった)・肥料・気象・農産製造の週14時間の講義と水田稲作・花壇の週6時間の実習指導を担当する。この時25歳, 身長5尺4寸(164cm), 胸囲3尺(91cm), 体重16貫(60kg)前後, 丸坊主, 肩幅広くがっしりとした体つき, 高くはない良く通る声であった

■当時の生徒の平均身長5.01尺(150.3cm), 体重12.08貫(45kg), 胸囲2.53尺(75.9cm), 最大身長5.51尺(165.3cm), 体重16.42貫(61.58kg), 胸囲3尺(90cm)であった

■1クラス2年制の学校であったため, 6人の教師のうち2人が授業を担当している間は, 4人は教員室で過ごすことになり, 比較的ゆったりとした生活であった《002-89》

◆最初の頃は, 授業に慣れておらず, 早口にしゃべり, 黒板に英字や図を縦横に素早く書き, わずかの時間に黒板は余すところなくなるほど書いた。生徒はなかなか授業についてゆけなかった。保坂嘉内宛書簡「毎日学校へ出て居ります。何かからかにからすっかり下等になりました。…学校で文芸を主張して居ります。芝居やをどりを主張して居ります。けむたがられております。笑われて居ります。授業がまづいので生徒にいやがら

れて居りまする。」《003-79》

◆中甸：稗貫農学校に隣接する花巻高等女学校の音楽教師・藤原嘉藤治(トシと入れ違いに着任)を訪れ、自分の童話や詩を見せて評価を求める《002-90》 藤原嘉藤治は音楽の、賢治はドイツ語の交換教授が始まる《003-80》 藤原嘉藤治談「私は宮澤さんと、大正十年の十二月にはじめて会いました。…私はそのころ岩手毎日新聞に詩を出していたので、宮澤さんは私の名前を知っていたのでしょうか。ある晩、原稿を持ってひょっこり花巻女学校の宿直室に私を訪ねてきました。自作の詩を読むから、聞いてくれ—ということでした。童話も読んで聞かせました。そして、どういうものだろうと、批判を求められましたが、私は何もいえませんでした。ただ圧倒されたような感じです。これから交際してくださいといわれました。…宮澤さんの詩は、よく分からなかった。」(森荘巳池『宮澤賢治の肖像』)《003-80》

◆同僚・堀籠文之進との親交も始まり、法華經^{じゅりょうほん}寿量品を斉唱する《003-80》堀籠文之進談「宮澤さんは、私の下宿にしょっちゅうやってきました。仏教の話をつつもきかされましたが、英語の研究を二人でやろうといたします。夜の十時ごろきました。十二時ごろまでいて帰りました。私は独身だから、かまわなかったのですが、とし子さんの亡くなる近くで、とてもとし子さんの苦しんでいる姿をみるに忍びなくて、気をまぎらわせるために来るようでした。学校でも気持ちの晴れない日などは講堂に行き、外を見ながら声高らかに寿量品を読経しておりました。」(森荘巳池『宮澤賢治の肖像』)《003-80》

◆21日(水)：童話『烏の北斗七星』初稿《003-80》トシに読んで聞かせる《001-93》

■本正稗貫部長は、通常郡会において県立移管を前提とする農学校の敷地校舎新築及びその他の施設に要する予算案を上程、満場一致で可決された

◆詩の習作『冬のスケッチ』

◆31日(土)：職務勲励で金5円を賞与される《002-89》

1922(大正11)年 26歳

■金田一国土の発案で花巻温泉が人工的に開設される。母方叔父・恒治もその設立に関係し、政次郎も株主兼取締役となる《003-143》

◆『うろこ雲』『床屋』、『沼森』『猫』草稿、『畑のへり』『「みあげた」』断片(～大正12年)、『ひかりの素足』『柳沢』『ラジュウム』現在草稿

1922:冬

■雪の日、農学校で飼っていた2、3匹の豚のうち1頭を、ピッグとあだ名されていた畠山校長がマサカリの一撃で殺し、内蔵などは生徒が寄宿舎で取り出し、雪の中に埋め、3～4日後に養蚕室ぶち抜いた教室でイモノコ汁を作って皆で食べる。

◆童話『フランドル農学校の豚』(～大正12年晩夏)

1922:1月

◆01日 11時：新年拝賀式が挙行された。式次第は以下の通りであった。

- 1 開式の辞
- 2 君が代二唱
- 3 勅語奉読：賢治は教育勅語を恭しく捧げ持って中央壇上の畠山校長へ手渡す。
- 4 訓話
- 5 閉式の辞

◇01日：『雪渡り その2（狐小学校の幻燈会）』【愛国婦人】1月号。生前唯一の原稿料5円を受領する《002-231/003-82》

●02日：妹シゲ（21歳）が岩田豊蔵（父の妹ヤスの長男）と結婚《002-96》

◆06日：小岩井行。記録的な寒冷月（水沢の緯度観測所によると-5.6度）で小岩井農場には3～4尺（90～120cm）の積雪をみる。【春と修羅】の巻頭を飾る心象スケッチ（以後「詩」と表示）『屈折率』『くらかけの雪』（後に『くらかけ山の雪』と改題）を執筆する《003-82》

◆09日：『日輪と太市 or 太一』《003-82》

◆12日：『カーバイト倉庫』（岩根橋のカーバイト工場舞台）『丘の幻惑』を書く《003-82》 『コバルト山地』

◆19日：童話『水仙月の四日』を書く《003-82》

◆短編『花椰菜』の初稿を書く《003-82》

◆短編『あけがた』を書く《003-82》

◆ドイツ語とエスペラント語の独習

1922:2月

■06日：九カ国条約

□海軍軍縮会議調印

■18日：大暴風雨と洪水に見舞われる

◆藤原嘉藤治と吹張町「やぶや」で談笑。賢治は天ぷらそばが好物

◆『精神歌』『応援歌（エスペラント風）』『黎明行進曲』『角礫行進曲』（後2者にはいずれも精神歌の副題が付く）を書く《003-82》 『精神歌』は、初め題はなかったが、稗貫農学校は一部茅葺きの校舎で、隣接する花巻高女に見劣りするため「クワッコ大学」と嘲笑されていたこともあり、生徒達の学校意識を高め、更に学校全体の精神的一体化を進めたい気持ちから作る《001-69》

精神歌

日は君臨し輝きは
白銀の雨そそぎたり

我等は黒き土に俯し

真の草の種まけり

日は君臨し輝きの
太陽系は真昼なり

陰しき旅の中にして

我等光の道を踏む 《002-92》

◆岩田豊蔵から蓄音機やレコードを借用して聞いていたが、殊にヴェルディの「アイーダ」を繰り返し聞いたためレコードがすり切れ、申し訳ないと思ったかその後は自分でレコードを買い始めた《001-67/003-82》賢治はポリドールの社長から感謝状を貰うほど多くのレコードを購入する（佐藤隆房『宮澤賢治』）《003-95》

◆藤原嘉藤治の音楽教室で土曜日午後にレコード・コンサートを開催する。この他に、賢治が中心となったレコード・コンサートは岩手軽便鉄道駅上の精養軒支店、花巻共立病院などでしばしば行われた。「レコードを聴いてゐる彼の幻想の素晴らしさと云ったら、実に側にゐる僕は音楽よりも身振りや、口走る言葉、目の輝きにさらはれて行く程であった。ワグナー、シュトラウス、ドビッシイに至っては音楽色彩を帯びた幻想的印象が益々顕著になって来て、各楽器の独特な音色や協和絃、不協和絃の交替や、旋律、力律、動律などの時間展開が、彼独壇場の幻想演劇に参画して色と光りを伴った風景を描出するものであった。たしかに彼は色彩と光りを目からも耳からも感じた幸運な男であった。」（藤原嘉藤治『彼の音楽印象』）「（第九の）第一楽章アレグロの中頃…の曲譜を見ただけでも全く圧倒されずには居られぬ物凄い迫力に至っては、賢さんは目の色を変へて飛び上がった。『おゝ怖い怖い。』『手に手に異様な獲物を振りかざしておそいかゝる悪鬼迫る幻想。』一賢さんは耳から入る音楽が直ちに色や形の表象となる事をいつも云ってをられた。」（宮沢幸三郎『スーヴェニール』）《003-95》

1922:3月

◆02日：詩『ぬすびと』《003-83》

■03日：京都で水平社の創立大会が開催

◆20日：『恋と病熱』《003-83/85》

●清六、盛岡中学卒業

◆『精神歌』に賢治の同僚堀籠文之進の友人、賢治とは小学校同級の川村悟郎が北海道庁の勤務先から休暇で花巻館坂通りの祖母宅に遊びに帰っていたおり、その祖母宅に下宿していた堀籠、賢治、川村は互いに気心の知れる仲であるため話がすぐまとまり3日ぐらいで作曲する。「種マケリ」の箇所には三人で何度も手を入れて完成した。稗貫農学校第一回卒業式にあたり、当時は県立中学校にしかなかった校歌に匹敵するものとして17名の卒業生の^{はなむけ}饒にした。畠山校長はこの歌詞に感動し、学校の挙式の時の式歌にすることになり、次いで校歌にしたい意向を賢治に相談したが、賢治はそういう気持ちで作ったものではないからと固辞する。精神歌の楽譜は二種存在しており、①藤原嘉藤治採譜による4分の4拍子のものと、②沢里（高橋）武治の記憶に基づく8分の6拍子のもの（花巻では②で歌う人が多い）堀籠文之進談「はじめは音楽好きのグループの生徒たちだけで練習していましたが、三月の式に間に合うように、全部の生徒に歌わせ、卒業式には、りっぱに歌いました。校長さんは、宮澤さんに校歌にしてくれるように言いましたが、宮澤さんは遠慮深い人ですから、遠慮して校歌にしませんでした。」（森莊巳池【宮澤賢治の肖像】）《003-83》

■23日：文部大臣中橋徳五郎宛の申請文書（稗貫発第7号）にて学校の位置変更を申請

◆24日（金）：農蚕講習所から編入して2年生となった17名に対する稗貫農学校第1回卒業式が挙行された。応募者数62、入学者数44（農家の子弟32名、他12名）、卒業生数

36 名

◆修学旅行に参加しなかった生徒 10 名ほどが、演劇をして参加組を迎えることになり、賢治はその年 4 月の英国皇太子来日をテーマにして戯曲を制作する

1922:春

◆『山地の稜』（心象スケッチの手法に関する説明的作品）

1922:4月

◆07 日(金)：童話『山男の四月』初稿《002-231/003-83》稗貫農学校入学式

◆08 日：詩《003-83》or 心象スケッチ mental sketch modified『春と修羅』（ベートーヴェンの運命交響曲を聴いたことが刺激となって書き出したといわれる)

■09 日：神戸において日本農民組合が創立

◆10 日：詩『春日 or 光呪咀』《003-83》この中に髪が黒くて長く頬が薄赤く瞳の茶色、という言葉で出てくるが、佐藤勝治によると、この女性は賢治の友人の妹で 4 歳年下の花城小学校教師の大畑ヤス子ではないかと推測されている。大畑ヤス子は藤原嘉藤治と行っていたレコード・コンサートや音楽会の中心メンバーの一人で、大畑の友人の熊谷里子は、大畑から賢治との恋愛について打ち明けられていたといわれる。ヤス子の近親者は「賢治の相手として宮澤家から結婚の申し込みがあった。」と証言している《001-41》

◆13 日：詩『有光』《003-83》

□岩手郡渋民村で石川啄木の記念碑が除幕される

■農学校入学式。川村俊雄、沢田忠雄ら入学

■15 日(土)：文部省岩見 9 号を持って稗貫農学校新校舎建設が許可され、敷地は花巻川口

町^{いたちつべい}鼈幣（現花巻市若葉町 339 or 333 番地）に決定《003-83》

◆20 日：詩『谷』《003-83》

◆23 日：詩『陽ざしとかれくさ』《003-83》

◆丸坊主を止めて髪を伸ばし、ポマードをつける

1922:5月

■稗貫農学校助手の小川慶治退職。その後に小野寺政太郎が就任

■02 日(火)：工兵第八大隊がシベリアに向かう

◆10 日(水)：詩『雲の信号』《003-84》

◆12 日(金)：詩『風景』『手筒』《003-84》

◆14 日(日)：詩『習作』『休息』《003-84》

◆17 日(水)：詩『おきなぐさ』『かはばた』《003-84》

◆18 日(木)：詩『真空溶媒』《003-84》

◆20 日(土)午後：農学校同僚の堀籠先生との間に齟齬があり、自宅に招待するも来なかった。詩『蠕虫舞手〈アンネリダタンツェーリン〉』《003-84/004-82》

◆21 日(日)10 時：小岩井の気温 15.5 度(最高気温 19.0 度、最低気温 6 度)

◇10 時 54 分：橋場軽便鉄道線小岩井駅到着、網張街道、小岩井農場入口。本部から耕耘部に行く近道が通っている場所を der heilige Punkt「聖なる場所」（Beethoven の手記に“田園にいれば…一つ一つの樹木が私に向かって‘神聖だ、神聖だ heilig, heilig’”と語りかけ

るよう…”と記載。)と呼んだ。耕耘部，育馬部，この頃から降雨(しかし当日の岩手県降雨量データからは降雨の可能性低い)本部と気象観測所(1923〈大正12〉年盛岡測候所の開設に伴い撤去)，育牛部，予定の行程をはずれて育牛部から東に延びる道に入る。雨のため小岩井農場北辺(現在の農場遊園地「まきば園」のあたり)でまたもや引き返す(予定では小岩井駅→小岩井農場→姥屋敷→鞍掛山→柳沢→滝沢駅 20時41分発東北線→22時花巻駅着)耕耘部に戻る。^{とうもろこし}玉蜀黍の種まきを目撃(詩「小岩井農場」では燕麦播きとしている)。威銃という作業(トウモロコシの種をついばみに来る鳥を追う仕事)する男を目撃(詩「小岩井農場」では「…^{フライシュッツ}自由射手は銀のそら／ぼどしぎ〔=オオジシギ〕どもは鳴らす鳴らす…くろい外套の男が／雨雲に銃を構えて立ってゐる／あの男がどこか気がへんで／急に鉄砲をこっちへむけるのか…射手は肩を怒らして銃を構へる」；これは Weber の^{デア・フライシュッツ}「摩弾の射手」を連想)本部，トロ馬車，591行の長編詩心象スケッチ『小岩井農場』『〔堅^{ようらく}い櫻珞はまっすぐに下に垂れます〕』を執筆

橋場軽便線—大正11年4月時刻表(盛岡～雫石間 大正10年6月開線)

下り					料金	駅名	哩	上り				
AM	PM							AM	PM			
6:10	10:30	1:10	4:40	6:50		盛岡		7:55	11:53	3:10	6:15	8:30
6:25	10:43	1:25	4:55	7:05	10銭	大釜	3.7	7:45	11:44	3:00	6:05	8:20
6:40	10:55	1:40	5:10	7:20	18銭	小岩井	6.6	7:34	11:35	2:49	5:54	8:09
6:50	11:04	1:50	5:20	7:30	25銭	雫石	10.0	7:20	11:24	2:35	5:40	7:55

◇詩『小岩井農場』『〔堅^{ようらく}い櫻珞はまっすぐに下に垂れます〕』《003-84》詩『イーハト一ボ農学校の春』

1922:6月

■始め：稗貫郡長は稗貫農学校校舎新築認可申請書を県に提出

◆02日(金)：詩『厨^{くりやがわ}川停車場』《003-84》

◆04日(日)：詩『林と思想』『霧とマッチ』《003-84》

◆07日(水)：昇級し7級俸90円を給与される(岩手県)

◇詩『芝生』《003-84》

◆12日(月)：詩『青い槍の葉<^{そうおう}挿秧(田植)歌>』を書く。労働歌として生徒に歌わせる《003-84/85》

◆15日(木)：詩『報告』《003-84》

■16日(金)：岩手県指令学2098号をもって校舎新築が認可される

◆20日(火)：コミックオペラ『生産体操』(後『飢餓陣営』と改題)草稿を書く《003-85》

□裕仁皇太子（昭和天皇），良子女王とのご結婚

◆25日（日）：詩『風景監察官』《003-84》

◆27日（火）：詩『岩手山』『高原』『印象』『高級の霧』《003-84》

1922:夏◆初夏:『台川』

◆髪を伸ばす。時々坊主頭にしたり伸ばしたり繰り返す

◆花巻駅を出発し，平泉で宮澤寛一（大正11年転校）と同道して日暮れ時に仙台に到着した。イギリス海岸で見つけた偶蹄類の足跡，化石などの標本を東北大学に預けた。その後，東一番丁の盛り場を人波にもまれながら本屋をあさり，楽しみにしていたレコードを4，5枚買い求めた。それから映画を見て仙台駅前に宿を取った。遅くなったが二人は夕食をとるために夜の街に出て，小さいが粋な作りの割烹店の二階で済ませて，静かになった街をぶらついて帰った

◇翌朝1番列車で塩釜に行き，塩釜神社に参拝してから遊覧船に乗って松島に出ることにした。ところが遊覧船が渡船場で転覆し，賢治は海に投げ出され，レコードなどの持ち物を全て海に落としてしまった。水上警察がランチをとばして救助にやってきたがレコードを探してほしいと頼んだため警官に怒鳴られた《004-87》警察署で火をおこしてもらい，衣服を乾かし，また警察の世話で海水で止まった懐中時計を質屋で金に換えようとしたが証明がないので受け取ってくれず，途方に暮れていたら先ほど救助に来て怒鳴った警官が3円を貸してくれた《004-88》or 腕時計を質屋で5円に換えて旅費とした。次の遊覧船で松島に渡り，帰りの切符を買うだけの金を残してうなぎ丼を焼け食いして花巻に帰った

◆花巻農学校の生徒を連れて岩手登山をする。松田奎介^{けいすけ}が経済的な理由で登山に参加できないことを知り，養蚕室に連れてゆき賢治は岩手登山の旅費として50銭札で4，5円を与える。柳沢から広い裾野を歩きながら，「精神歌」を歌う。松田奎介が「精神歌」を知らないため，賢治が赤ペンで書いてやる。翌日の夜明け前に松明を持って登り始めるが，3合目当たりから強い雨になったため下山する《001-144》

1922:7月

■精養軒という洋食屋が開業。

◇アイスクリームを買ってトシのもとに走って届ける《004-112》

●06日（木）：母の看病疲れと，トシの臥床した部屋が8畳の部屋で小窓も高く，暗くて陰気であったこともあり《003-88》，下根子桜の別荘（明治末に建設，二階建て，階下は八畳・六畳・台所・風呂場）に移り《003-85/004-112》，畳を敷いたケヤキづくりの寝台が八畳間に置いてあり，そこで保養する。それまでに4人の看護婦が関わったが，結核を恐れたことと蚊帳を吊ったり屏風で困ったりして陰気なこともあったためか辞めている。料理は岩田家の配慮でシゲがする

●盛岡の日影門に「大正看護婦会」があり，そこから細川キヨがトシの看病のため派遣される。豊沢町の宮澤家に着くと病人は下根子桜にいるとのことで案内される

◆06日：農学校生徒5人と北上川小舟渡に遊び，岸边からバタクルミ（学名ジュグランス・シネレア *Juglans cinerea* L.）の化石（学会未発表の珍品）2個を発見

◆07日：花巻町小舟渡し北上河岸（イギリス海岸）で腕に赤い布を巻き鉄挺を持った救助係と対話

◇第三紀層泥岩層から偶蹄類足跡を発見。その地層がドーバー海峡と似ていたため、イギリス海岸と愛称する

◆08日午後：イギリス海岸で偶蹄類足跡標本採集

◆09日：『イギリス海岸』

◆トシの病状が良くなく、学校が終わると豊沢町の自宅で夕食をすまして看病のため下根子櫻の別荘の2階で寝た

■15日（土）：盛岡市毒蛾大発生（～22日）

◇これを素材として短編『毒蛾』を書く。後に『ポラーノの広場』の一部になる《003-85》

□日本共産党の非合法結成

□盛岡～橋場間の橋場線が開通

■盛岡測候所完成

●下旬：小野寺（旧姓遠藤）智恵子トシを見舞う

◆花巻農学校の実習作業として大麦脱穀作業後に16名の生徒と共に猿ヶ石川へ水泳にゆき「人間はなぜこの世に生まれたか」という質問を賢治が出し討論の後「私はこの問題をこのように考えています。人間は何故生まれてきたかということを知らなければならないためにこの世に生まれてきたのです。そしてこの問題を本気になって考えるか考えぬかによってその人の生存価値が決定すると思います。」

1922:8月

◆07日：イギリス海岸で偶蹄類の足跡の化石を見つける。

◆08日午後：イギリス海岸で第3紀偶蹄類の足跡標本を生徒と共に学校の標本室へ運ぶ。採集した化石は岩手師範学校（現岩手大学教育学部）で大正11（1922）年～昭和20（1945）年の間教鞭を執った博物学者・鳥羽源蔵（陸前高田市出身、賢治の『猫の事務所』で「トバスキー」「ゲンゾスキー」として名前が借用されている）に送る。この化石は鳥羽から東北帝国大学地質学古生物学教室助教授（理博）・早坂一郎（1891<明治24>～1927<昭和52>年8月19日）へ転送された

◆09日：短編『イギリス海岸』《003-85》

◆17日：詩『電車』『天然誘接』《003-85》

◆18日：詩『東岩手火山』《003-86》

◆25日：『かしはばやしの夜』

◆30日夜：種山ヶ原で馬と一緒に野宿して地質調査を行う

◆31日午後：種山ヶ原から岩谷堂町（江刺）に下山して田原村（江刺）の原体部落で剣舞連をみる。その前にある農家の前を通ったときに香気を漂わせるずんばいの実がなっているのを見て、母親が好きであったことを思いだし、その農家を訪ねて分けてもらう《004-88》

◇詩『原体剣舞連』《003-85/004-90》

■有島武郎が北海道狩田農場400町歩（400ha）を小作人に無償開放《003-89》

■農学校新築工事が花巻川口町^{いたちっぺい}鵜幣（現、花巻市若葉町）で始まる《003-85》江刺郡岩

谷堂（現江刺市）の及川千歳組が請け負い、総建築坪 775.75 坪（2230 m²）、総工費 54714 円で、本館、寄宿舎その他附属建物全部の工事に着手した。校舎建築予算が十分ではなかったため、建築材は営林署より払い下げ、用材は敷地付近に製材所を設置して経費の節減を図った。この大鋸屑おがくずの山が後に生徒達の相撲の土俵となった

◆賢治の叔父、宮澤恒吉が農学校の敷地問題（候補地として本城か西公園＝鼈幣か本館かの誘致問題）を平賀千代吉、高瀬新太郎などと協力して西公園に決定し、併せて県立移管の運動を起こし、知事宛陳情書の草稿を賢治に依頼し、花巻川口町長、梅津善次郎（恒治の姉婿で、蚕業講習所で教鞭を執ったこともある。）にもってゆき署名を依頼した。梅津は役場の職員を派遣して鉄道沿線の一関までの関係町村長の署名を全部とりまとめて連署で提出した。校舎の南側に沿って岩手軽便鉄道が走り、道路を隔てた西側には稗貫郡役所があった。その北側には県立花巻高等女学校（明治 44＝1911 年開校）があり、農学校の宿直室と女学校の音楽室は隣接していた。女学校音楽教師藤原嘉藤治は、宿直の夜になると校舎の前の芝生に椅子を持ち出してセロやバイオリンを弾いた。校舎の一部は茅葺きで、廊下は雨戸に障子というみすばらしいもので、コの字型の建物に囲まれた中庭はテニスコート 1 面がかろうじてとれる広さで、東側には農具舎が 1 棟あり、後ろは崖藪がけやぶになっていた。

北側の建物の裏には堆厩肥舎たいきゅうひしゃと豚舎があり、数頭の豚が飼育されていた。農学校の周囲には桑園が約 4 反 6 畝ほ（46 アール）あり、その奥に寄宿舎があった。下台は麦畑約 2 反（20 アール）になっていた。農学校より徒歩 20 分、北側にあたる沖積地、四日町の東、瀬川の近くに農場があり、水田約 1 反歩（10 アール）、東に少し離れて 2 反歩（20 アール）ぐらいの野菜畑、その前にはまっすぐに小舟渡部落こぶなとに通ずる路があった

職員 校長兼教諭 畠山栄一郎（36 歳）

盛岡高農卒、山梨県立農林学校教諭、新潟県立巻中学校教諭、西浦原郡立実科高女教諭、稗貫郡立農蚕講習所、宮城県出身
修身、畜産、法制経済（8 時間、実習 6 時間）

教諭兼舎監 堀籠文之進（23 歳）

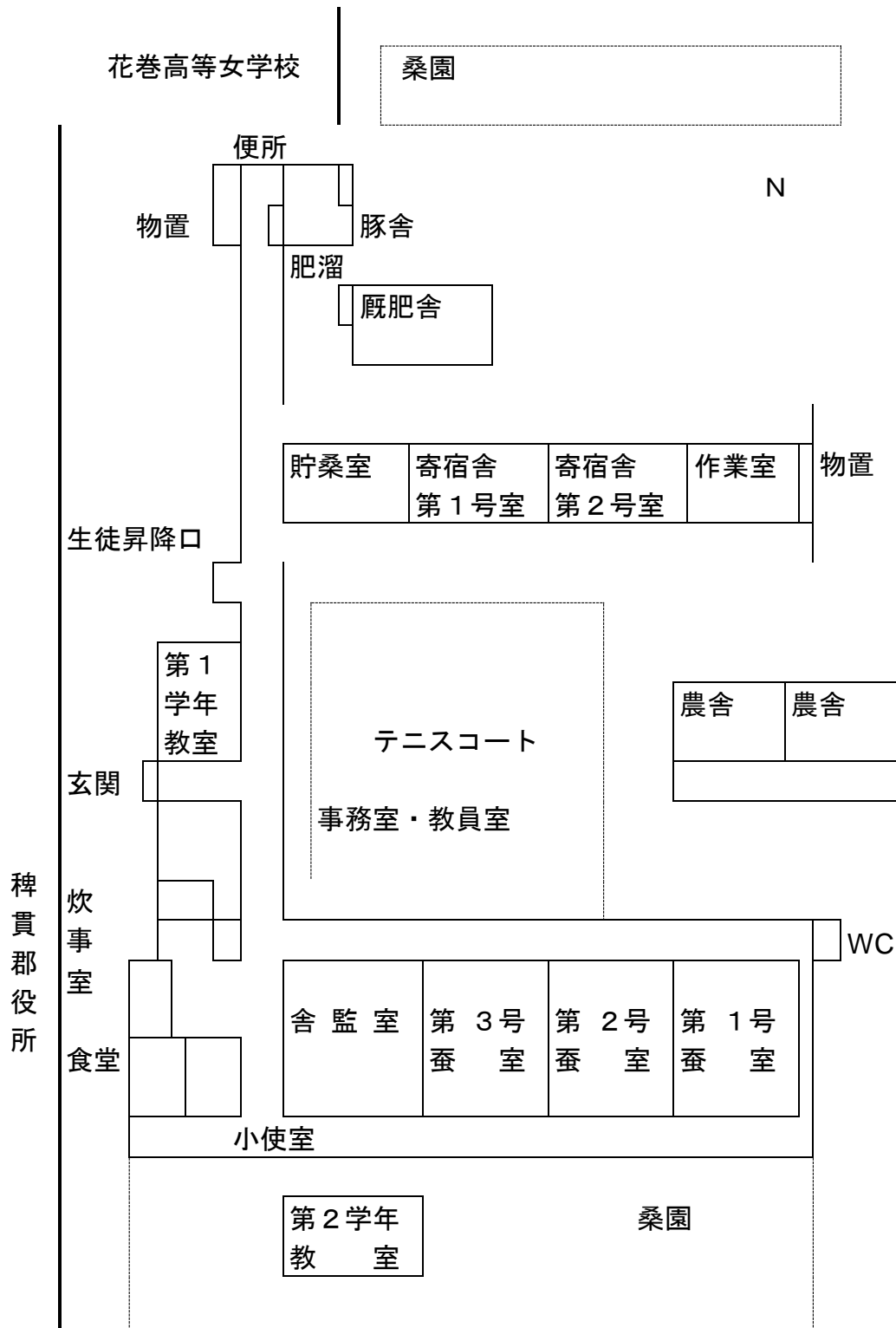
盛岡高農卒、宮城県出身
英語、作物、園芸、林学、虫害、作病（12 時間、実習 6 時間）

教諭 宮澤賢治（26 歳）

盛岡高農卒、岩手県出身
英語、化学、代数、作物、土壤肥料、気象（14 時間、実習 6 時間）

教諭兼舎監 白藤滋秀（32 歳）

岩手師範本科第 1 部卒、京都平安仏教専修学院卒、盛岡、湯口各尋常高等小学校訓導、湯口農業補習学校訓導、岩手県出身
国語、算術、幾何、物理、博物、体操（17 時間）



書記兼助教諭心得，舎監心得 奥寺五郎（26歳）

岩手県東磐井郡立東磐井蚕業学校本科卒，県蚕業取締所，千厩支所書記，
稗貫郡蚕業講習所，紫波郡蚕業講習所技手兼書記，
県蚕業取締所水沢支所吏員，稗貫郡農蚕講習所技手兼書記，岩手県出身

養蚕，博物（9時間，実習6時間）

助手 小川慶治（22歳） 5月退職

稗貫郡蚕業講習所卒（大正7年），同農蚕講習所書記，同郡技手，
岩手県出身（実習6時間）

分掌

教務部 宮澤賢治，白藤滋秀

庶務部 小川慶治

実習部 （農業部）堀籠文之進
（養蚕部）奥寺五郎

舎監部 宿直員の交代兼務

生徒数 76名（地主10，自作48，自小作11，小作1，他6）

◆『化物丁場』初稿

■末：稗貫農学校の小野寺政太郎が退職

1922:9月

◆07日(木)：詩『グランド電柱』『山巡查』『電線工夫』『たび人』『竹と酒』《003-87》

◆14日(木)：『月夜のでんしんばしら』

□県議会開催

◆15日(金)：『鹿踊りのはじまり』完成

■16日(土)：内務大臣・水野錬太郎，文部大臣・鎌田栄吉宛の答申書を提出し，稗貫農学

校の県立移管は県会を通過した。他に胆沢^{いさわ}，気仙，九戸が県立移管された

稗貫農学校の 大正11年度才入才出予算並びに9月15日現在の職員調

才入才出予算；

1	才入	なし	
2	才出	俸給	6408円
		雑給	1407円
		校費	860円
		農蚕実習費	682円
		修繕費	50円
		国庫納金	64円
		生徒費	150円
		計	9621円

職名		俸給額	氏名
長兼教諭	年	1600円	畠山栄一郎
教諭	月	90円	堀籠文之進
〃	〃	90円	宮澤 賢治
〃	〃	70円	白藤 滋秀
書記助教諭心得	〃	65円	奥寺 五郎

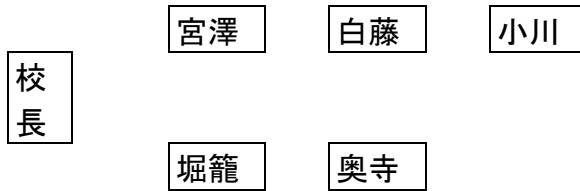
校舎 農場施設 209坪2号（690.4㎡）

校地 1町3反5畝18歩（135.18a）

敷地 3反5畝18歩 (35.18a)

農場 水田9畝(9a), 畑地4反4歩24歩(44.24a), 桑園4反6畝6歩(46.6a)

職員室, 机配置



◆16日(土)午後: 草鞋履きに雨具, 防寒具, 提灯, 3食分の握り飯持参で岩手山に登るため, 従業終了後に藤原健太郎ら生徒5~6人をつれて花巻を出発して出かける。賢治はこれで16回目の登山という

◇18時頃: 滝沢で下車, 山麓柳沢に到着, 登山口の入口の民家で休息をとり, そのおばあさんに天ぷらを頼み, 生徒の持参した握りをもらって夕食を済ませ, 岩手山登山を始める《001-145》

◆17日(日)03時: 岩手山の9合目まで登り, 山小屋で仮眠をとり, 山頂を極める。賢治は山頂近くで法華経を唱える。下山途中の3合目あたりで東岩手火山の「焼走り溶岩」をみる

◇詩『銅線』『滝沢野』《003-87》

□花巻まつり

◆18日(月): 『東岩手火山』

■24日(日): 稗貫農学校県立移管可決の記事が掲載される【和賀新聞】

◆27日(水): 『犬』

■『岩手県稗貫郡地質及土性調査報告』が刊行される

◆短編『花椰菜』『あけがた』『山地の稜』

■上旬: 風水害が発生

◆末: 農学校で劇『生産体操(飢餓陣営)』『異稿植物医師』を上演。『飢餓陣営』の配役はバナナン大将・藤原健太郎, 特務曹長・福田留吉, 曹長・鈴木操六であった。『飢餓陣営』は最初『バナナン大将』という題であったが, 賢治が浅草でみたオペレッタ『チョコレートの兵隊』(バーナード・ショウ作)に挑発されて書いたといわれる。また『植物医師』の配役は, 植物医師にきったい爾薩待正・川村俊雄, 貴公子・小田島国友, 貴婦人・高橋忠治, ギャング・佐藤専一, 農夫・吉田八十八, 石屋・平野長英らが扮した

1922:秋

◆農学校の生徒・池沢金一が窃盗のため警察に逮捕され, 賢治は同僚と他一名と当局に奔走して穏便に解決した。池沢の卒業したとき, 賢治はある大会社に就職させ, 背広一揃いを餞別として与えた《004-92》

1922:10月

◆05日：『まなづるとダリア』

◆10日：詩『マサニエロ』《003-87》

■13日：日蓮に立正大師の諡号しごうが宣下される

◆15日：詩『栗鼠と色鉛筆』《003-87》

■25日：シベリア出兵は樺太を除き撤退を完了

■31日：イタリアにムッソリーニのファシスト政権が成立

◆花巻農学校の生徒を連れて岩手山に登山をする。新聞紙を服の間に挟んで暖をとることを生徒に教え、旧の十三夜の名月の下で山頂を目指す。山頂で読経《004-95》

1922:11月

■18日(土)：アインシュタイン来日《003-89》

●19日(日)：母いちが風邪気味で家に戻って休養することになり《004-112》、加えて食物を運ぶ道も悪くなってきたため、トシ、豊沢町実家へ戻る。トシは「あっちへ行くと、おれ死ぬちゃ、寒くて、暗くて嫌な家だもん」といていたが、皆が難儀をすることを思い同意する《003-88》トシの居室は宮澤家の隣にあった八畳と7畳半の粗末な家で、佐藤友八から大正8年に買い取る。主家と廊下でつながっており、八畳間にトシの病室があったが、雨漏りやすきま風に悩まされるため、1年を通じて屏風を立て蚊帳を吊っていた。その上、窓が小さく、暗く陰気であった。

◇賢治も一緒に移り、2階の部屋に住む

■23日(木)：新嘗祭にいなめさいの祭日で、学校農場の水田からとれた米で赤飯を作り、職員と生徒一同全員で会食

●27日(月)：朝からみぞれの降る寒くて嫌な天気の日で、キヨがトシの脈を診ると10秒2つばかりしか打たないため、親戚や医者に伝える方がよいと賢治に伝える。賢治は仲町の藤井謙蔵医師へ電話をする。羽織袴の医師が来診し、危険が知らされる。トシは「あめゆちゆとてちてけんじゃ。」とみぞれを賢治にとって来てもらい食べる。添えられていた松の針で激しく頬を刺しながら「ああいい、さっぱりした、まるで林のながさ来たようだ。」と喜ぶ

○20時：トシ、母親に食事を望み2膳を食す《004-113》

○20時30分：トシ、少し寒くなり、母いちが湯たんぽを取りに家を出ようとしたときに、気がかりになり戻ってみると「耳がなるようだ、きたいだな。」と小さな声でつぶやく。

○21時：トシ静かに息を引き取る《004-114》 トシ死去(享年24歳) 賢治はトシの上半身を抱きかかえて「トシさん、トシさん、キヨさんもいるよ、おどさんも、おがさんもいるよ、みんないるよ、トシさん、トシさん。」と大声で叫ぶが、トシの目は見開かれたままで返事をしなかった。賢治はトシの耳元で南無妙法蓮華経と大きく叫ぶとトシは二度ほど頷いたように見える。賢治は押入に首を入れて号泣する。母はトシの足元の布団に泣き崩れ、シゲとクニは抱き合って泣く。岩田ヤスは「泣なかさるんだ、泣なかさるんだ(泣くのはもっともだ、泣いた方がいいんだ)」といい、母は「ヤスさん、トシさんをお嫁に

しないで悔しい。」と号泣する。やがて賢治は膝にトシの頭を乗せ、乱れた黒髪を火箸で
ごしごし梳く《003-89》宮澤家の階下には浄土真宗の、2階には日蓮宗の仏壇があり、賢
治はその曼陀羅に祈り続ける《002-98》詩『永訣の朝』『松の針』『無声慟哭』

●29日(水)：寒い風の吹く日、鍛冶町安浄寺（真宗大谷派）でトシの葬儀が行われる。花
巻高等女学校2年以上が門前両側に整列し、校長の追悼の辞がある。賢治は宗旨が異なる
ために出ず、棺を火葬場へ送り出すとき、街角から現れて棺に手をかけて運ぶ。農学校の
生徒を代表して10人ほどの生徒が参列する。鍛冶町（現在の藤沢町）地蔵寺側の池端で、
野天で火葬（火葬場焼失のため）する。安浄寺僧侶による簡単な回向

◇賢治は棺が焼けるまで法華経を読誦する。賢治は持参の小缶に分骨（後に静岡県三保の
国柱会本部へ納骨）し自分の部屋に安置する

◆童話『貝の火』を及川留吉が筆写

◇教室で『貝の火』を読み聞かせる

◆短編『花椰菜』『あけがた』『山地の稜』

1922:12月

◆02日：職務勲励二付キ金七拾円賞与ス

■30日：ソビエト社会主義共和国連邦成立《003-89》

1923（大正12）年 27歳

◆下旬：『手紙四』（～大正13年初旬）

◆後半：『けん十公園林』『四又の百合』

◆『精神歌』に生徒の川村悟郎が作曲

◆16時：清六と浅草で映画「ミラクルマン」（ロン・チェニー主演）観賞

◆二人で山道を行くときに賢治は「何かの音がする」と言うが連れには何も聞こえない
《004-96》

◆生徒と共に登山をしているときに「炭を焼く臭いがする」と言うが生徒には全く臭いが
しない。そのうちに炭焼き窯に行き当たる《004-96》

◆野路を行くとき「杏^{あんず}の花の香りがする」と言ってからしばらくして杏の花が現れる《004-
96》

◆妹とし子が亡くなってから寝る前に必ず読経をして仏壇の前で寝起きしていたが、ある
日読経が終わって休むと枕元にとし子の姿がありありと現れたので読経したら見えなくな
る。次の日も姿が見え、それ以降は見えなくなる《004-97》

◆先輩の金野医師に、早池峰山^かの河原^らの坊に岳川^{たけがわ}の岸边に天台宗の寺院の跡があり、去年

そこで大きな石に腰掛けて休んでいると山の方から錫杖^{しゃくじょう}を突き鳴らしながら、白く長い
眉毛の高僧が降りてくるのが見えたと話す《004-97》

◆住職の佐藤氏に、チャイコフスキーの交響曲をレコードで聴いているとき、その音楽の中から「私はモスコ音楽院の講師であります。」という言葉をはっきり聞き、音楽百科事典で調べたらその作曲の年はチャイコフスキーが講師の時であった。」と述べる《004-98》

■及川四郎宅（東北薬剤研究所）で集会

■社陸出版部を「光原社」と改名

◆『インドラの綱』『ガドルフの百合』『雁の童子』『皮トランク』『税務署長の冒険』下書、『谷』『チュウリップの幻術』『土神と狐』『鳥をとるやなぎ』『二十六夜』『バキチの仕事』『化物丁場』『林の底』『茨海小学校』『ビヂテリアン大祭』『二人の役人』『蜘蛛となめくじと狸』『マグノリアの木』現存稿、『みぢかい木ペン』

冬

◆『耕耘部の時計』

1月

●正月：清六、家業に対する嫌悪とトシの死去から父の了解を得て上京し、東京本郷竜岡 or 辰岡 or 龍岡町に下宿して、研数学館で数学・科学などの勉強

◆初旬：清六を訪ねる。茶色のズック張り大トランクに詰めた童話原稿『風の又三郎』『ビヂテリアン大祭』『檜ノ木大学士の野宿』等を清六に「この原稿をどこかの雑誌社へ持って行き、掲載さしてみろじゃ」と言いつけた

◇夜：上野のレストランでサザエ料理を兄弟二人で会食し、賢治は花巻に帰る

●数日後、清六は【婦人画報】の東京社編集部・小野浩に会い、賢治の原稿をみてもらうが、出版を断られる。その後、【月刊絵本コドモノクニ】という雑誌社にも売り込むが結果は同じであった《001-94/003-89》

◆国柱会で田中智学作の国柱劇を観劇《003-89》

◆09日：賢治は静岡県三保の国柱会本部（現在は東京都江戸川区一之江にある）を訪れ、トシの戒名（教澤院妙潤日年善女人）授与し、妙宗大霊廟にトシの納骨手続きをする《003-89》

◆清六に預けたトランクを受けとり花巻に帰る

■夜：両親のいない教え子Sがある事件の嫌疑で警察署に留置

◆賢治の嘆願でS不起訴

◇校長説得して退学処分撤回させる

2月

■06日：稗貫農学校書記・高橋与五兵衛（庶務会計）が発令された

3月

■10日：大した雪が残る

■第2回卒業式において藤原嘉藤治の指揮で生徒が『精神歌』を歌う（大正11年夏休み以降に歌唱指導がなされた。）卒業生30名

■30日（金）10時：校舎及び付属建物の新築落成式と卒業式挙行。応募者数94，入学者数42，卒業者数34名 or 30名（農業に従事した者15名，就職した者7名，他に進学した者

8名で、初めて「精神歌」によって送られた)。新校舎にはイギリス海岸から採集した化石などが陳列され、賢治は来客に説明する。挙式は以下の通り；

- 1, 開式の辞 三田 憲 郡視学
- 1, 工事報告 佐藤 郡技手
- 1, 式 辞 本正吉三郎 郡 長
- 1, 告 辞 牛塚虎太郎 知 事
- 1, 答 辞 畠山栄一郎 校 長
- 1, 閉式の辞 三田 憲 郡視学

□13時～14時30分：校舎新築協賛会主催の祝宴；

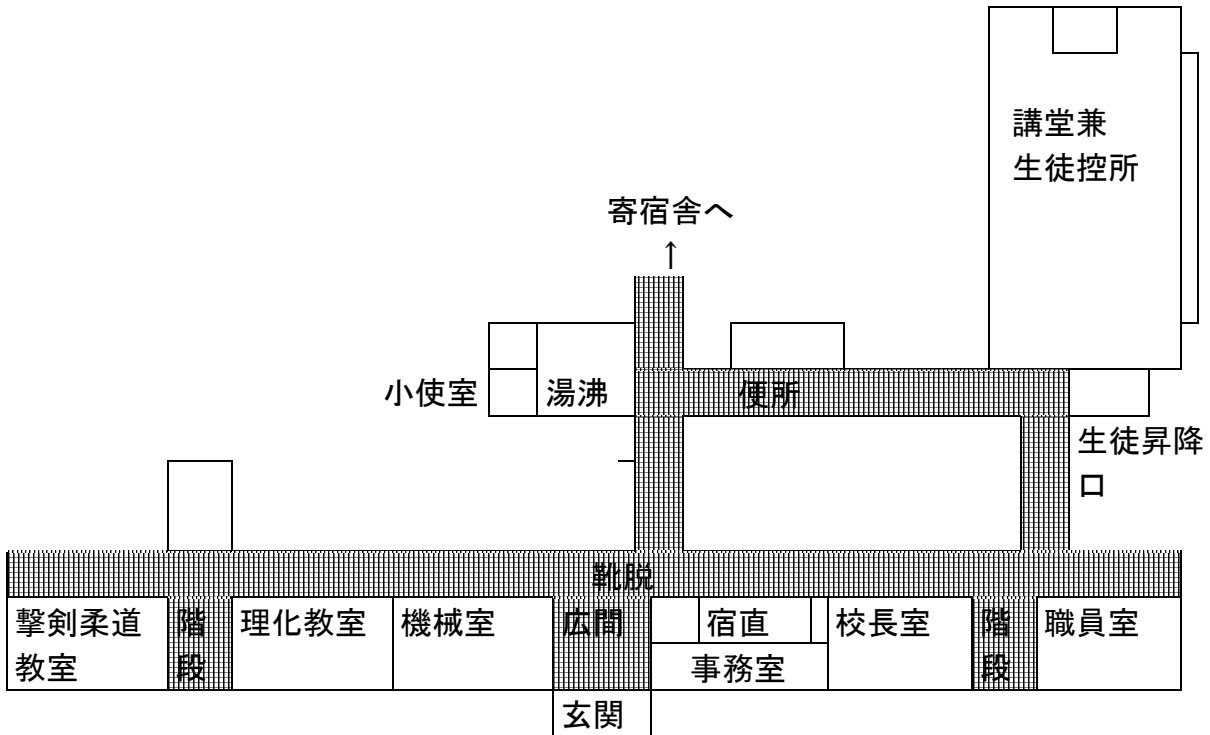
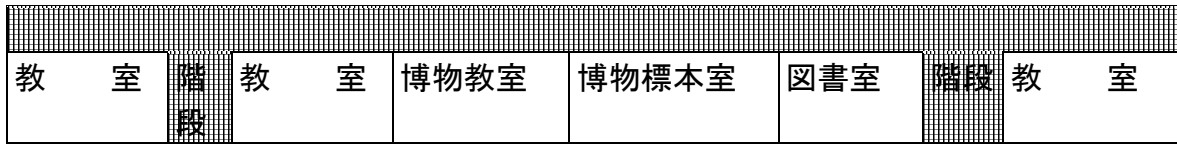
- 挨拶 梅津善次郎（花巻川口町長）
- 祝 辞 鏡 保之助（盛岡高等農林学校長）
- 祝 辞 牛塚虎太郎（岩手県知事）
- 挨拶 畠山栄一郎（稗貫農学校長）
- 万歳三唱 鏡校長

この他の来賓として、金田一（盛岡銀行頭取）、三鬼（軽便鉄道監査役）、柳原・高橋（県会議員）、吉野（判事）、花巻川口町及び花巻の町会議員、平賀千代吉らで、出席者は450名を越える。「夜来の春雨名残りなく晴れ、花火の上がるのも景気能く本当の開校日和だ。稗貫農学校の新築落成で、花巻川口両町を挙げてお祭り騒ぎである。各戸に国旗を掲げ、また学校前通り鍛冶町には、万国旗を蜘蛛の巣の如く張り廻し、いやが上にも景気を添えている…」【岩手毎日新聞】

新校舎の規模（坪＝3.3 m²）；

本校舎	階上	165 坪	階下	165 坪
玄関		2 坪		
講堂兼生徒控所		60 坪		
湯飲所便所其他		45.75 坪		
寄宿舍廊下其他		107.05 坪		
養蚕室	階上	44 坪	階下	44 坪
農舎		32 坪		
堆肥舎		6 坪		
豚舎		4 坪		
総建坪		675.75 坪		(2252.5 m ²)
総工費		54714 円		
校舎敷地		3000 坪		(1 ha)
実習地		6000 坪		(2 ha)
水田		(2000 坪)		
畑		(2000 坪)		
桑畑		(2000 坪)		

階上平面図



階下平面図

□寄宿舎の日課は、起床7時、朝食8時、昼食12時、夕食午後6時、自習時間午後7～8時、消灯9時と定められていた。自修室には1室に4～5名が入室

□町村別生徒数；

花巻川口町 14, 花巻町 4, 大迫町 0,

内川目村 1, 外川目村 1, 亀ヶ森村 1, 新堀村 1, 八重畑村 4, 矢沢村 8, 好地村 1, 八幡村 2, 湯本村 6, 宮野目村 4, 根子村 3, 湯口村 6, 丸田村 6

和賀郡：更木村 7, 飯豊村 2, 中内村 1, 二子村 1, 立花村 1

江刺郡：羽田村 2

合計 3郡3町19村 76名

□生徒家庭調（職業別）；

地主 10, 自作農 48, 自作兼小作農 11, 小作農 1, その他 6

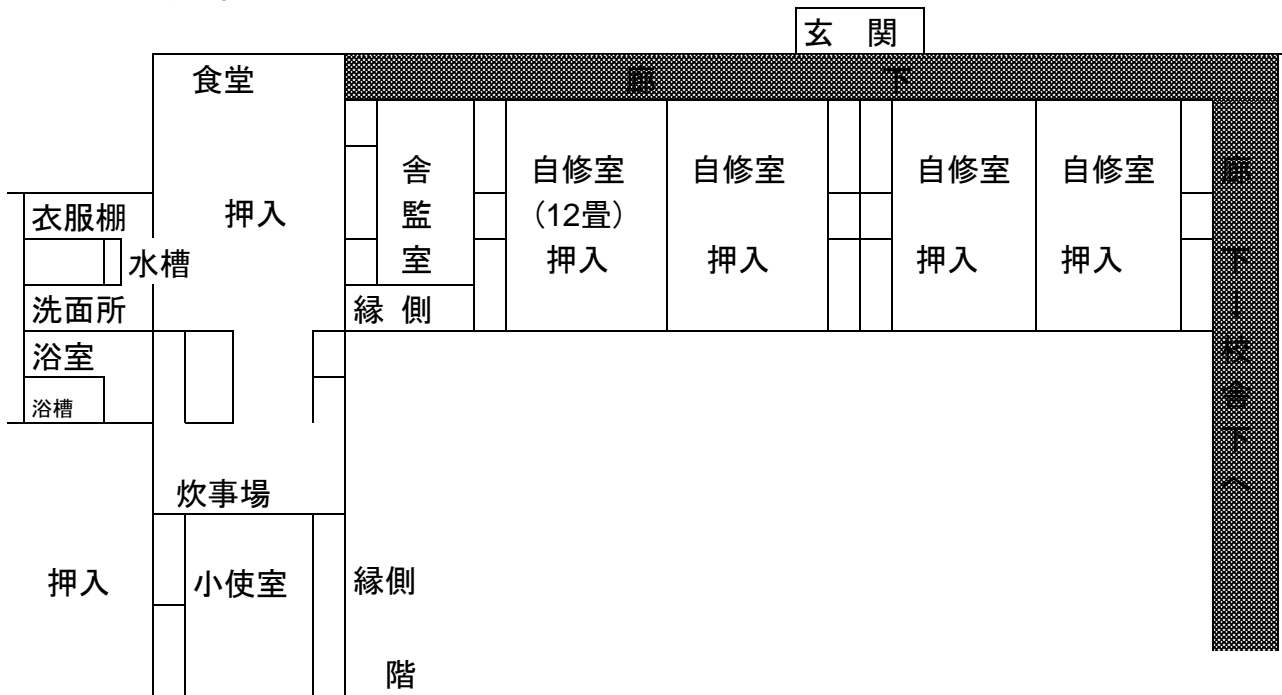
計 76名

□授業日数；

第1学年 年間 213日 (79, 81, 43)

第2学年 年間 190日 (70, 77, 43)

寄宿舎平面図



□身体検査調；

年齢 (数え)	人員	身長 (尺—30.3 cm)		体重 (貫—3.75 kg)		胸囲 (尺—30.3 cm)	
		最大 (尺)	最小 (尺)	最大 (貫)	最小 (貫)	最大 (尺)	最小 (尺)
15 年	40	5.33	4.40	14.400	8.100	2.70	2.18
16 年	31	5.45	4.61	15.510	9.500	2.90	2.35
17 年	2	5.42	4.72	14.100	9.720	2.67	2.50
18 年	2	5.19	5.00	13.100	11.240	2.65	2.40

■31日：郡制が廃止

告示第 119 号

大正 12 年 4 月 1 日より左記郡立学校を岩手県に移管し学校名を列記の通り変更す

岩手県知事 牛塚虎太郎

現在の名称

岩手県稗貫農学校

岩手県胆沢農学校

岩手県気仙農学校

岩手県九戸農林学校

岩手県胆沢実科高等女学校

上閉伊郡実科高等女学校

二戸郡実科高等女学校

以下略【県報】

移管後の名称

岩手県立花巻農学校

岩手県立水沢農学校

岩手県立盛農学校

岩手県立久慈農林学校

岩手県立水沢実科高等女学校

岩手県立遠野実科高等女学校

岩手県立一戸実科高等女学校

■石割桜が天然記念物に指定

●清六、蔵前にある東京高等工業学校電気科に合格。進学について父の了解が得られてい

なかったため入学を捨念して家業を継承《003-89》

◆末：同僚の堀籠文之進と共に一関へ出かける

◇16時～22時：歌舞伎を観劇するが、帰路の汽車がないため、磐井川の橋を渡り、川端の飲屋街に出た。そこで2時間ほど過ごした後、月夜を幸いに平泉まで夜道を歩く。信仰の話に及んだとき、「あなたはどうしても私と歩んで行けませんか。私としてはどうにも耐えられない。でも私は諦めるから、あなたの身体を打たしてくれませんか。」とって堀籠の背中を打った。「ああこれで私の気持ちが収まりました。痛かったです。許してください。」という。

◆0時：平泉駅に着き、待合室のベンチで休む

◇夜明けとともに盛岡行一番列車に乗り花巻まで車中で一睡する

春

◆学科試験後畠山校長と共に口頭試問

◇賢治の面接時の質問「あなたはどこの学校を卒業しましたか。」「あなたは何のためにこの学校に入りたいのですか。」「あなたの手の中を見せてください。」

●晩春：政次郎、妹シゲを伴ってトシの遺骨を静岡県三保の国柱会本部に納骨《003-91》

4月

■01日(日)：郡立稗貫農学校は岩手県に移管され、岩手県立花巻農学校と改称《003-92》
門標も湯口村長遊座俊次郎の筆で書き換えられる。乙種(小学校尋常科6年、高等科2年、計8年卒を対象として2年間で卒業)であったため、甲種(小学校8年卒、入学3年で卒業)とは異なり上級学校に進学する資格はなかった。平来作*, 晴山亮一ら入学

□各郡立の農学校は全て県立に移管

*平来作：明治41年6月1日～昭和61年7月16日。大正13年農学校2年生の時、「バナナン大将」を演じる。大正14年3月に花巻農学校卒。国民高等学校に学び、羅須地人協会メンバーとなり、農業一筋に努力し、各種役職を務めた

■02日(月)：大風害発生

□東西両本願寺では親鸞七百年忌法要が行われる

■05日(木)：入学式。定員40名に対し94名の応募があり、47名を入学させる

■06日(金)：新学期開始

◇受持学科(英語, 化学, 代数, 作物, 土壌, 肥料, 気象)の他, 農場は水田を担当

◆08日：心象スケッチ『外輪山』(後, 『東岩手火山』として【春と修羅】に収録)と童話『やまなし』を【岩手毎日新聞】に発表《003-92》

■12日：英国皇太子が横浜港に到着

◆15日：童話『氷河鼠の毛皮』を【岩手毎日新聞】に発表《003-92》

◆中旬：北海道の就職を教え子杉山芳松に斡旋

5月

◆初旬：農場実習終了後に2円をもち汽車(50銭)で盛岡に行く。夕食代50銭。盛岡劇

場で上演中の東京大歌舞伎を観劇（観覧料 1 円）

◇22 時 30 分：歌舞伎終演。帰りの汽車賃がないために 40km の道程を徒歩で帰花。

◇23 時：盛岡発

◇翌日 01 時：古館あたりに到着する。同僚・白藤慈秀談「1 時頃古館あたりにきたとき、後ろから誰かついてくるというのです。宮澤さんが止まると止まり、歩くと歩く、松の木の下にちょっと寄って詩を書いていると、その人は、ひらめくように走って行ってしまったということでした。」（森荘巳池『宮澤賢治の肖像』）《003-92》

◇03 時：石鳥谷^{いしどりや}駅で仮眠

◇07 時：花巻に帰着

◇06 時《003-92》or 07 時 30 分：農学校舎監室に到着し 1 時間ほどの仮眠をとり、第一時間目の教壇に立つ《003-92》

◆11 日（金）：童話『シグナルとシグナレス（1）』【岩手毎日新聞】（以後、23 日まで 11 回にわたり分載；16 日と 19 日は休載）《003-92》

◆25 日（金）：県立農学校昇格祝賀記念日（以後、創立記念日）に劇『異稿植物医師』（最初英語劇で場所も米国、主役の爾薩待を川村俊雄が演ずる）と劇『飢餓陣営』（略称『バナナン大将』）を昼夜 2 回監督上演《003-92》植物医師爾薩待を愛称カボチャこと川村俊雄が、トマトの診察依頼に来る農民を山田（佐藤）傳四郎が演じた。この時の舞台は岩手県で、貴公子や貴婦人などの役はなかった。村の人よりも町の人が多く、鍛冶町や豊沢町などから観劇に来た

◆作詞作曲『牧歌』『イギリス海岸』

◆毎週日曜日、午後 1 時から 4 時頃まで盛岡肴町の大谷良之（高農同級生）を麦藁帽子、農民服、草履ばき姿で訪ねる。これが大正 13 年の初めまで続く

6月

■01 日（金）：花巻農校の夏服制服（当時 6 円）に替える

□花巻川口町と隣の根子村が合併（人口約 9000）

◆03 日（日）：詩『風林』《003-92》

◇夜：月明かりの下に生徒を引率して滝沢から柳沢までの道を夜通し歩いた

◆04 日（月）：詩『白い鳥』『無声慟哭』以来半年ぶりの作詞《003-92》

◆05 日（火）：政次郎の友人・斎藤宗次郎、「朝日新聞」配達時に農学校日直中の賢治と教員室で教育・農村改革を論談、正午近くに離別

◆『おきなぐさ』『報告』、コミックオペレッタ『生産体操』（後に『飢餓陣営』と改題、『バナナン大将』ともいう）『風景観察官』『岩手山』『高原（叫び）』『印象』『高級の霧』

■養蚕室前に生徒の自主的作業でテニスコートが 1 面作られた

夏

◆初夏昼下がり：友人の藤原とゴム靴をはいて田から飛び歩きながら町の料理屋に入る。サイダー 2 本と梨を注文。給仕の女性二人を相手に気炎を上げていたがその女の一人が心にわだかまりのあるような顔色であることに気づき、「何かの足しになるだろうよ。」と

いって 10 円札を与える。空財布で出た二人は本屋の芳文堂に立ち寄った。新刊本を借りに
してもらい、二人の話を聞いた本屋の主人は「お前たち二人は、よい徳弁（徳は知的障害
者、弁は変質者であるが二人は無二の親友で大正から昭和の初めまで花巻の人気者。）だ
べちゃ。」といいはなった。これがいわてたいむすの「馬の足」というゴシップ欄に掲載
され、弟の静六が「俺の兄を侮辱するにもほどがある。徳弁とは何事だ。」と芳文堂書店
に怒鳴り込んだ《004-129》

◆夏以降：『さいかち淵』『サガレンと八月』

◆22 時：試胆会（肝試し会）。学校から 500 歩ばかり北側の杉木立の繁みの中に 30～40
基ばかりの墓があり、その南側には古ぼけた棺小屋があった。そこに行って墓石に白墨で
○印を書いてこいと指示された川村俊雄は先陣を切って出かけるが、賢治の仕掛けた白衣
と明滅する豆電球に怯えて学校に駆けて帰る

◇翌朝：肝試しに失敗したことで養蚕室の 2 階の屋根から畑に飛び降りる肝試しをさせた
7 月

■北上平野一帯にいもち（稲熱病）が発生した

■下旬：連日雨の日が多くなり、水害を受けるところも出始める

◆29 日（日）：詩『角礫行進歌（花巻農学校精神歌）』国柱会機関誌【天業民報 868 号】
《003-93》

* [M=ますむら・ひろし 1995/H=堀尾青史 1977/S=佐藤隆房 1943/I=入沢康夫 1996/
W=渡部芳紀]

◆31 日（火）21 時 59 分 [M*I*] or 14 時 31 分 [H*] or 14 時 28 分 [M] or 夕《004-120》：
花巻駅をナーサルパナマの帽子に洗いネクタイ、真白のリンネルの背広、赤革の靴、シャ
ープペンシルとノート、黒革の鞆の姿で出発する《004-120》

◇15 時 28 分 [M] (H*案に基づくとき) or 23 時 08 分 [I]：盛岡発。好摩から八戸（当時は
「尻内」）まで高等農林の後輩で岩手県庁山林課に務める向井田重助と同席（向井田は県北
の山林調査に出張中）

◇22 時 10 分 [H] (M による)：青森着

◇23 時 55 分 [M] (H 案に基づくとき)：青森発

8 月

◆01 日（水）0 時 00 分 [W*] 頃：沼宮内付近を通過。月齢 18.1，日の出 4:31

◇4 時 37 分 [W]：小湊通過

◇4 時 53 分 [W]：浅虫通過

◇5 時 20 分 [MI]：青森着

◇7 時 55 分 [MI] or 0 時 30 分 [H] or 真夜中《004-121》：青森発

◇昼過ぎ [M] or 5 時 00 分 [H] or 6 時 10 分 [M] or 早朝《004-121》 or 12 時 55 分 [I]：
函館着

◇13 時 45 分 [I]：函館棧橋発

◇13 時 49 分 [I]：函館発。急行で 6 時間半後に札幌着 [HS]

◇夜 [HS] or 23 時 53 分 [I]：札幌発。旭川着 [M]

- ◇詩『青森挽歌』『津軽海峡』『青森挽歌三』？
- ◆02日(木)早朝[H]《004-123》 or 4時55分[I]：旭川着。
- ◇早朝[M]：旭川農事試験場
- ◇11時54分[I]：旭川発
- ◇21時14分[I]：稚内着
- ◇22時30分[W] or 23時30分[I]：稚泊連絡船乗船，船員に自殺者と誤られる《004-125》
- ◇詩『駒ヶ岳』『旭川』『宗谷挽歌』
- ◆03日(金)6時30分[W] or 7時30分[I]：サハリン亜庭湾の大泊港に到着する。大迫から東海岸線に乗り，大迫滝—栄町—大迫—楠溪町—一ノ沢—貝塚—新場—中里—豊南—大沢を経て，1時間で樺太庁所在地の豊原駅《004-126》に到着する。豊原市の王子製紙会社に細越健を尋ね，農学校生徒・瀬川と杉山芳松の就職を依頼する《004-126》
- ◇詩『樺太鉄道』
- ◆04日(土)11時15分《004-125》：豊原より北豊原—草野—小沼—富岡—深草—大谷—小谷—落合を経て栄濱に赴く
- ◇詩『オホーツク挽歌』『樺太挽歌』
- ◆07日(火)：樺太八景の1つの鈴谷平原（鈴谷を中心として，旭が丘，豊原公園を含む。）に遊び植物採集をする《004-126》
- ◇詩『鈴谷平原』『黎明行進歌（花巻農学校精神歌）』【天業民法 874 号】
- ◆08日(水)朝：稚内到着《004-127》
- ◆09日(木)：札幌から岩見沢または長万部（6時間）《004-127》
- ◆10日(金)夜：長万部から二等の汽車に乗り室蘭へ移動（6時間）《004-128》
- ◆11日(土)未明：内浦湾（噴火湾）を見て，列車でひた走りに走って函館到着。友人に料亭に招待され，芸者をあげての宴会となるが，懐中の全額を芸者にやっしまい，青森までの汽車賃を出してもらう。青函連絡船で青森へ。青森では身の回りの物売り盛岡までの汽車賃を捻出する。青森から盛岡まで6時間。
- ◇詩『噴火湾（ノクターン）』
- ◆12日(日)：盛岡駅に到着し，汽車賃がないため，途中2，3回は松の根で休んで眠りながら，徒歩にて花巻へ帰る《003-92》
- ◆16日(木)：『青い槍の葉（挿秧歌）』【天業法民 882 号】
- ◆28日(火)：詩『不貪欲戒』
- ◆31日(金)：詩『雲とはんのき』
- 校内テニス大会が開催される
- 天候不順のため米価騰貴し，1升=1.5kgが40銭になる
- ◆作曲『牧歌』『イギリス海岸』『原体剣舞連』
- ◆『噴火湾』

9月

- ◆「手紙四」を印刷し無名で配付
- 01日(土)：盛岡測候所が落成
- 関東大震災
- 04日(火)：震災後の東京で朝鮮人虐殺事件

◆10日(月)：六級俸給与(100円)に昇給

◇『火薬と紙幣』

◆12日(水)：齊藤宗次郎を新築校舎に招待し、レコード鑑賞と清談

□「帝都復興ノ詔書」が出される

◆16日(日)：詩『宗教風の恋』『風景とオルゴール』『風の偏奇』『昴』《003-95》

◆29日(土)：岩手県中等学校教育研究会「肥料並びに昆虫」が花巻農学校で開催され、県下の実業学校、中学校、女学校から40人近くの教師が参加し、賢治が二年生に行った肥料の授業(硫酸アンモニアの性質や施肥法など)が公開される。「その頃の中学校や実業学校などではイオン記号などを使う授業などは、どこでもしていなかったものです。宮澤先生はそれをどんどん使っているのに驚かされました。」(森荘巳池『宮澤賢治の肖像』)《003-95》

◆30日(日)：詩『第四梯形』《003-95》

□校医・阿部慎悟に代わり中島米八(39歳、仙台医専卒)が発令

◆震災見舞状の下書紙片に『銀河鉄道の夜』初期稿

秋

◆『車』『黒ぶどう』

◆学校の10坪ほどの実習室で10数人の生徒が藁をなえる実習を始めると賢治の詩を皆が唱和し、実習が終わると生徒たちを連れ出して雲を見に行く《004-131》

10月

■03日(水)：北上川の「杉土手の杉の木」の伐採問題【岩手日報夕刊】

◆10日(水)：詩『火薬と紙幣』《003-95》

◆15日(月)：詩『過去情炎』《003-95》

◆28日(日)：詩『一本木野』『鎔岩流』《003-95》岩手山麓を歩く

11月

■10日(土)：「国民精神作興ニ関スル詔書」発布

■11日(日)：「児童の遊び場を作ってやってください」という投書【岩手日報夕刊】(度十公園林の子供の遊び場となる杉林)

◆22日(木)：詩『イーハトーヴの氷霧』《003-95》

◆27日(火)：国柱会による「国難救護 正法宣揚 同志結束」基金(関東大震災の救護)に10円を寄付し記名が掲載される【天業民報】《003-95》

12月

■稗貫農学校教諭岩崎三男が兵役に服するため花巻を発つ

◆04日(火)：詩『冬と銀河鉄道』《003-96》

◆10日(月)：『冬と銀河ステーション』

◆20日(木)：童話集【注文の多い料理店】刊行の意志を持ち『序』を書く。近森善一が自著の宣伝で農学校を訪れたとき、賢治から童話原稿が沢山あることを聞かされ、出版の話しになる《003-96》

◆25日(火)：賢治担当の水田が硫安(当時は新しい化学肥料であった)と籾殻を使って栽培が功を奏して、反当たり7俵(10アール当たり420kg)の米を収穫したこともあり、職

務勲励二付キ金百円賞与（岩手県）を受ける

■賢治の同僚で小学校の同級生でもあった奥寺五郎が結核のため退職し、仙台の大学病院に入院する。奥寺は母親と二人暮らしで、教員をやめて収入がなくなったことを心配した賢治は100円ほどの月給の中から毎月20、30円を届け、後には毎月50円を渡していた。これが1年も続いた頃に賢治が売名行為をしていると勘ぐり、奥寺は賢治の行為を断る。賢治は友人の堀籠氏に頼んだりして金を渡そうとしていた。その後3ヶ月して奥寺は死亡したが、賢治への感謝を母親に残した《004-184》

1924（大正13）年 28歳

■鈴木東蔵婦人の叔父で小岩井農場の技手として務めていた鈴木（河村）貞助から、石灰石粉を農場に売り込んでという話が持ち込まれた。貞助の兄、鈴木貞三郎と共に東北砕石工場を設立。以後、小岩井農場は最大の得意先になる

◆当時、流行していた座談会を月1回、仲小路の高日義海花巻高等女学校校長宅で開催。参加者は藤原嘉藤治、賢治、白藤慈秀、阿部繁、小原弥一、多田辰己、羽田正ら。自由に教育や時事問題を語り合った

◆～大正14年：『紫紺染について』

◆『毒もみのすきな署長さん』

◆『山猫学校を卒業した三人』

◆短編『祭りの晩』

冬

◆『氷と後光』

1月

◆初め：冬休み中に堀籠文之進の結婚式が料亭万福で行われ、賢治は新郎の介添役として紋付羽織袴で出席し接待に当たった。新夫婦の結婚披露宴は岩手軽便鉄道花巻駅階上の精養軒で行われた。賢治は赤い実の付いた宿り木で部屋を飾り、テーブルには当時珍しかったアスパラガスを添えた。郡視学・羽田正、校長、同僚、親戚など15、6名が出席し、賢治はユーモアたっぷりの話題で会を賑わした

■伊福部隆輝「農民芸術の提唱」

■11日（金）：冬休終了後の始業日

◆12日（土）：縞のシャツ（農民シャツ）にジャンパーをはおり、両手を前に組んで椅子にかけて写真を撮る

■16日（水）：奥寺の後任に、教諭兼舎監心得・阿部繁が着任し、養蚕・農産製造・博物・気象を受け持つ

◆20日（日）：詩集【春と修羅】の序文を刊行の目的で書く上げる《002-232/003-98》

□レーニン死去

■26日（土）：皇太子・裕仁（22歳）と良子女王（20歳）のご成婚

◆書きためた詩を本にするため、原稿を花巻川口町の吉田印刷所に依頼し、発行所は東京

の関根書店の予定で出版する予定を組む。また併せて童話集【山男の四月】の出版計画を持ち、知り合いの及川四郎の関係する「東北農業薬剤研究所」から出版する予定であった。しかし名前が出版社らしくないという理由で「光源社」という名を提案する《002-107》

2月

- 04日(月)：叔母・瀬川コト(母・イチの妹)29歳で仙台の大学病院で死去
- ◆07日(木)15時：齊藤宗次郎を農学校に招いて『妹の死』という一編の詩を提示
- 11日(月)：紀元節
- ◆12日(火)：農学校の廊下で会った農学校1年松田浩一(大正14年卒)に、夜、賢治の家に来るようにと告げた。食後、松田が尋ねると『風之又三郎』を書いた150枚ほどの赤い原稿用紙と、同じ量の新しい原稿用紙を置いての筆写を依頼し、原稿1枚につき2銭の筆耕料を支払う。筆写は、新しい原稿用紙の升目の間の細長いルビ付け用の場所に小さな文字で書き写すようにという変わった依頼であった
- 松田は家に持ち帰って一晩で全部読み通した
- 13日(水)夜：3日間をかけて毎晩、不眠不休で賢治の『風之又三郎』を清書した
- 19日(火)：国道4号線の松並木伐採問題に対する地元の農民たちの主張は、自分たちは並木によって耕地が日陰になる等の迷惑を被ってきたと主張【岩手日報】(虔十公園林の平二の主張に反映されたのか?)
- ◆20日(水)：【春と修羅】第2集の巻頭となる詩『2 空明と傷痕』を書く《003-98》
- ◆27日(水)：齊藤宗次郎を農学校に招き自作詩とレコード鑑賞
- 倉田潮「農民からの芸術」

3月

- ◆09日：詩『陽ざしと枯草(幻聴)』【友 or 反情《003-99》2号】(海野草二編集、花巻町^{かん}館小路反情社)

■23日：岩手県立花巻農学校最初の卒業生(農学校3回)36名が巣立つ。農業自営者18名、他に就職した者13名、進学した者5名

- ◆24日：詩『14 湧水を呑もうとして』『16 五輪峠』『17 丘陵地を過ぎる』《003-99》
- ◇鱒沢、五輪峠、人首(植林の指導)、水沢(観測所に寄る)を歩く(～25日)
- ◆25日：詩『18 人首町』『19 晴天恣意』《003-99》

◇【春と修羅】第1集印刷。大正11(1922)年1月6日『屈折率』～12(1923)年12月10日『冬と銀河ステーション』に至る作品69編を収容。原稿は丸善製四百字詰用紙150枚に浄書され組方の指定をつけて、吉田忠太郎(明治20年1月8日～昭和41年1月8日)の印刷社《大正活版所》(花巻駅通り川口町109番地)に持ち込まれる。小さな活版所であるため活字がそろわず、その都度活字を注文して組み上げると校了しにして、ばらして次を組むというやり方であった。用紙は賢治が上質紙を東京から買い入れて印刷所にもたらず。表紙は鋼鉄色のあらい布地を使いたいと関登久也に話すが、望み通りの布地が手に入らず、商用で大阪に出た友人に頼み、あらい布地を見つけたが色は黄土色であった。背文字は賢治の師にあたる歌人尾山篤二郎に依頼し、マッチの軸で書くが、心象スケッチを詩集と書く(後に賢治はブロンズの粉で「詩集」の文字を抹消する)。表紙に関登久也が

依頼した広川松五郎の描いたアザミの図案を印刷するがうまく載らなかった。外箱の文字と表紙絵は花巻駅前で紙器を製造販売し、劇を上演したときに背景を頼んだ阿部芳太郎（明治25年12月5日～昭和21年2月5日）が描く。四六判箱入り布装320頁。印刷費は3回ほどの分割払いで、豊沢町の納豆商・大内商店から400円借り、その返却に困っていたといわれる〔根子吉盛（大正15年卒）談〕

◇水沢緯度観測所の天頂儀見学

◆30日：詩『19 塩水撰・浸種』『21 痘瘡』『25 早春独白』《003-99》

■県立花巻農学校の応募者数94，入学者数45，卒業生数40名

■県立農学校の設備備品；

機械類	585点	1198.810円
標本類	430点	690.400円
器具類	2209点	3013.720円
図書	199点	851.080円

◆末：卒業生の照井謹二郎（大正12年卒）を誘って、生徒募集の目的で、近村の飯豊、笹間、太田などの役場が主催する農事講習会や相談会に出かける。つば広の帽子、カーキ色の作業服、ゴムのたるま靴で残雪を踏み歩きながら、「精神歌」や「種山ヶ原」を口笛で吹く

●末の妹・クニが花巻高女補習科を卒業

春

◆『タネりはたしかにいちにち噛んでみたやうだった』

4月

■杉山芳松（明治40年3月25日～昭和34年1月31日、花巻農学校第3回卒業生），瀬川嘉助と共に樺太に赴き、賢治の仲介により王子製紙に就職

■授業時間割；

第1学年	第1限	第2限	第3限	第4限	第5限
月	修身	国語	英語	植物	畜産
火	養蚕	算術	畜産	化学	国語
水	作物	算術	畜産	林学	英語
木	英語	植物	国語	作病	養蚕
金	作物	養蚕	林学	作病	体操
土	算術	農製	化学	虫害	養蚕

備考 第6限 毎日実習

第2学年	第1限	第2限	第3限	第4限	第5限
月	園芸	代数	養蚕	国語	鉱物
火	修身	肥料	養蚕	物理	英語
水	作物	気象	法経	土壤	体操
木	幾何	肥料	英語	法経	物理
金	代数	幾何	作物	国語	法経
土	養蚕	英語	国語	鉱物	園芸

備考 第6限 毎日実習

■大正13年度校友会（現生徒会）役員；

会長	校長	畠山栄一郎	
副会長	教諭	宮澤賢治	
学芸部長	教諭	堀籠文之進	
弁論部委員長	農二	臼崎吉太郎	
雑誌部委員長	農二	高橋倉吉	（現在の図書部に相当）
運動部長	教諭	白藤林之助	
庭球部委員長	農二	松田浩一	
剣道部委員長	農二	菊池信一	
卓球部委員長	農二	太田代潔	（野球部が廃されて卓球部となる）
雑技部委員長	農二	藤岡七郎	（陸上競技部と相撲部を包含したもの）
会計係部長	教諭	阿部繁	
委員長	農二	長嶺恵孝	

■01日（火）：隣町の黒沢尻に中学校（現黒沢尻北高）が開設

◆04日（金）：詩『29 休息』《003-99》

■05日（土）：入学式。入学志願者57名から選抜された45名が入学。父兄30名来学。この中に瀬川哲男、根子吉盛、斉藤盛らが含まれる。2学年36名で全生徒二級81名。この年の岩手県下の農学校生徒総数は712名。郡立時代は無料であったが、県立学校となって授業料は月額1円50銭となった。寄宿舎に5名が入舎して2学年2名と併せて7名となった。舎費は月額11円

◇この年、賢治は舎監も兼務。英語、代数、化学、作物、土壌、肥料、気象など13時間を担当した

◆06日（日）：『35 凶歳第1稿』？ or 詩『35 測候所』『40 鳥』『45 海蝕台地』『46 山火』《003-99》

◆10日（木）：詩『53 嬰兒』『53 休息』《003-99》

◆19日（土）午後：徒歩で盛岡へ。北上山地の外山高原（～20日午前）

◇詩『69 [どろの木の下から]』『171 [いま来た角に]』《003-99》

◆20日（日）：詩『73 有明』『74 [東の雲ははやくも密のいろに燃え]』『75 北上山地の春』《003-99》

◇心象スケッチ【春と修羅】を発行。四六判箱入布装320頁。定価2円40銭。発行部数1000部。自費出版の費用800円は借金と父からの援助でまかなう。収録詩篇は『序』の他に『春と修羅』19篇、『真空溶媒』2篇、『小岩井農場』1篇、『グランド電柱』20篇、『東岩手火山』4篇、『無声慟哭』5篇、『オホーツク挽歌』5篇、『風景とオルゴール』13篇の計8章69篇である。発行所は配本の関係から関根書店（東京都京橋区南鞆町17番地）に頼り、発行人・関根喜太郎《003-99》は500部の販売を委託されたが、ゾッキ本に出したらしく、古本屋では5銭で販売されていたといわれる。北原白秋など有名詩人に送られた他、関徳弥はあちこちに声をかけて100冊ほど販売するが《002-108》、関根は「難儀して当時100冊ぐらい売りました」というに終わる

◇「私という現象は／仮定された有機交流電燈の／ひとつの青い照明です／（あらゆる透

明な幽霊の複合体) / 風景やみんなといっしょに / せはしくせはしく明滅しながら / いかにもたしかにとりつづける / 因果交流電燈の / ひとつの青い照明です / (ひかりはたち その電燈は失われ) 【春と修羅】序。自己存在は有機物で組成される肉体という電燈によって支えられる現象=照明である。自己存在の本質は、いつか失われる肉体にあるのではなく、それを媒介として行われる現象=生にある。そしてその生は、因果によって他の肉体を得ることによって永遠に保たれる。このようにして自己存在は、電流=法(仏教でいう統一原理)によって、過現未という時間軸上の、また現在という空間軸上の全存在とつながっている一つの現象なのである。要するに、心象スケッチとは、全存在とつながる「私」の心に生起する一切の現象をとらえたものであり、それは「法」をとらえるための手段であるということになる《003-101》

◆27日(日): 詩『春』《003-99》

■29日(火): 職員生徒一同和賀郡六原軍馬補充部方面へ遠足

■30日(水): 体格検査施行

◆(日): 寄宿舎生をつれて先に開設された花巻温泉大通りにサクラの苗木を植える

◆花巻病院(院長: 佐藤隆房) 花壇設計造園

◆近森善一(大正8年盛岡高農農科卒)が同級生の及川四郎と共同で『病虫害駆除予防便覧』という50銭のパンフレットと「チカモリン」なる農業用薬剤を製作し、その売り込みに花巻農学校に訪れ、【春と修羅】の話がでた折、童話原稿を見せる。近森は原稿を盛岡に持ち帰り、及川に見せる。近森は出版を計画するが、父親の選挙違反で郷里の高知県に戻ることになったため及川が独力で出版することになった。そこで及川は郷土出身で東京の出版社に勤めていた吉田春蔵に製作見積もりを依頼する。経費800円、宣伝費200円がかかると見積もる。童話の出版社としてふさわしい社名として賢治が提案した光源社を採用し、吉田の家を「東京光源社」とした。及川が吉田へ送金して製作した。当初は【山男の四月】としてを四六判150頁程度で定価1円として発行する予定であった(大正13年12月1日に【注文の多い料理店】と改題して出版)

◆前年の、盛岡高農農芸化学実験助手に世話した福田(及川)留吉に1月12日撮影の写真に署名して送る

■末: 国道4号線の松並木伐採問題が岩手県の臨時県会で議論される【岩手日報】

■武者小路実篤「新しき村の今後」刊行

5月

■03日(土): 郡青年団聯合運動会を農学校校庭において行う。数千名の観覧者応援団雲集、好天気のため非常な賑わいを示した

◆04日(日): 詩『86 山火』《003-101》

◆06日(火): 詩『90 [祠の前のちしゃいろした草はらに]』《003-101》

◆08日(木): 詩『93 曠原淑女[日脚がぼうとひろがればの先駆形]』《003-101》

◆『ふたりはおんなじさういふ奇体な扮装で』

■13日(火): 大霜害に見舞われる

■14日(水): 大霜害に見舞われる

◆16日(金): 詩『99 [鉄道線路と国道が]』《003-101》

■17日(土): 大霜害に見舞われる

◆18日(日)：詩『106 〔日はトパーズのかけらをそゝぎ〕』《003-101》

□校長全国校長会議へ出席

◇10時18分：白藤慈秀（明治22年～昭和51年，花巻川口町生まれ，賢治より8ヶ月早く農学校の教諭となった同僚，退職後盛岡願教寺〔住職は島地大等〕の院代となる）と二人で2年生26名の生徒と父兄3名を引率して北海道修学旅行へ出発する。旅費は見学予定費用一人あたり18円50銭，実費一人あたり17円である。20円ぐらいかかる。不参加者は学校で養蚕実習を行う

◆19日(月)朝：青函連絡船までの1時間，海岸の漁業冷凍庫を見学した後，田村丸（1500トン）に乗船して津軽海峡を渡る

◇正午：函館に到着。直ちに煉瓦会社，過燐酸工場，五稜郭，函館夜景を見学し，公園で自由解散して小憩

◇23時：函館を出発し小樽に向かい，車中泊

◇詩『116 津軽海峡』『118 函館港春夜光景』《003-102》

◇浅草劇団の巡業観劇

◆20日(火)09時：小樽駅に到着し，直ちに丘上の小樽高等商業学校を参観する

◇10時30分：小樽高等商業学校を辞し，小樽公園で小樽湾に停泊する駆逐艦1隻と潜水艇2隻を眺望し，30 or 40分間解散する。蟹をゆでて売る者やバナナを売る者などがいる

◇11時 or 12時30分：小樽駅を出発する。車中に軍人数名が乗車しており，何処の生徒かなどと尋ねる。生徒達は校歌集を送り，順次，校歌を合唱して乗客が喜ぶ

◇13時40分：札幌駅に到着する。駅前の山県屋旅館に宿泊を約し，直ちに大学附属植物園・博物館に向かい，ヒグマの剥製，完備した鳥類標本，2階のアイヌに関する標本，札幌付近の雑草の標本などを参観する。車中で2泊して疲労しているため，ここに泊まり，園丁から芝刈り機を借りて遊んだりする

◇夕刻：閉園近くに退出し，北海道道庁構内を通り，旅館に戻る

◇白藤慈秀は東本願寺の布教師であったため講演の約束があり，講演会場に赴くが，賢治は希望者を引率して電車で中島公園へ出かける。途中の街路樹，花壇，星，羅燈影など「ビューティフル・サッポロ」の真価は夜になって発揮される。また生徒は初めてボートを漕ぐが，船は蛇行する。後，公園音楽堂で合唱する

◇21時30分：狸小路の夜店を見ながら帰宿する

■21日(水)07時30分：快晴。旅館の山県屋を出発し，札幌麦酒会社を見学する。次いで帝国製麻会社を尋ね，茶菓の接待を受けるとともに標本を使って支店長が製麻業に関する講演を行う。奇数日は社則で工場参観ができないため辞す

◇10時30分：北海道帝国大学に至り，門を入ると学生2名が出迎え，講堂に案内される。総長・佐藤昌介（花巻出身，身長5尺7寸＝175.7cm，体重18.6貫＝68.9kgの巨軀）は旅行日程を延期して歓迎する。総長の得意な大農論に関する訓辞を聞いた後，賢治は答礼し，花巻農学校を県立に昇格するよう演説する。その後，生徒は学生食堂で菓子牛乳を供される。各学部，実習場・農園，医科教室などを見学する。農事試験場参観の予定であったが，時期が早いために見学の効果もないと思われたことから参観を中止して，電車で中島公園の植民館に行き，開拓関係の農具等を見学する。停車場に向かう途中，石灰岩末を販売する北海道石灰会社の建物を見て，石灰岩抹の製造や使用を考える。ガイドを勤めてくれた

北大学生に感謝の意を込めて、市内を精神歌や黎明行進歌を合唱しながら一列横隊で行進する。札幌停車場、駅前のアイヌ木彫りの熊を見物する

◇16時03分：札幌駅を出発して、樽前火山を見る

◇20時：苫小牧に着。駅前の富士館に宿泊する

□県青年団聯合運動会見学のため堀籠、阿部両教諭1学年引率水沢へ向かう

◆22日(木)：苫小牧の製紙工場を見学し、白老に至る。白老酋長宅参観、白老小学校と白老海岸を経て室蘭に到着する

◇16時：室蘭市内見学

◇17時：青森行きの定期船に乗船する。船中では深い睡眠をとる

◇詩『123 馬』『126 牛』《003-102》

◆23日(金)夜明け：青森湾

◇06時18分：青森駅を出発する。岩手県内に入った頃に、修学旅行中大切に持ち歩いていた手帳を汽車の窓から落とし、賢治は随分と悔しがる

◇13時50分：花巻に到着する。駅には堀籠先生、修学旅行不参加残留生徒が出迎える。旅行団は駅前で解散する

◇詩『133 [つめたい海の水銀が]』『139 夏』《003-102》

◆25日(日)：詩『145 比叡(幻聴)』《003-102》

◆3月に卒業した川村俊雄の生計の一助とするため、童話原稿『黄いろのトマト』の一部、『紫紺染めについて』の一部、『[ポランの広場]』の筆写稿を依頼《003-102》

◆午後：鍛冶町方面で火事が発生し、学校の2階から目撃した賢治は生徒をまとめて消火のために授業を中断して町に馳せ戻った。火事はすぐに鎮火して賢治達は学校に戻るが、玄関先で意識を失って転倒した。宿直室で寝かされた《004-144》

●清六が徴兵検査で甲種合格

■田中智学、衆議院議員選挙に立候補し、5月落選

■伊福部隆輝「農民芸術論と郷土芸術の交涉及び限界」「農民芸術の論議とその方向」

6月

■01日(日)：タゴールが上海から来日

■03日(火)：「郊外に拓け／行くこの頃の盛岡／農場やら工場の設立で／著しい発展ぶり」と地域の開発を報道【岩手毎日新聞】

■13日(金)：築地小劇場が開設

◆21日(土)：詩『27 鳥の遷移』《003-102》

□山開き；

◇午後：生徒を連れて花巻を出発して岩手登山に出発する。これが恐らく最後の岩手登山になる《001-147》

◆22日(日)：詩『152 林学生』《003-102》

◆藤原嘉藤治に相談して、【注文の多い料理店】の装幀挿絵を菊池武雄に依頼することとし、原稿と宣伝ポスターの下書を菊池に送る

■東京音楽学校演奏会でベートーヴェン第九初演

7月

- ◆05日(日)：詩『154 垂細垂学者の散策』『155 [温く含んだ南の風が]』『156 [この森を通りぬければ]』《003-102》『夏夜狂燥』『寄鳥想亡妹』
- ◆12日(日)：『夏幻想』，盛岡では最高気温の37.1℃を観測
- ◆13日(月)：『夏』
- 14日(火)：園芸，畜産教授法研究会出席のため校長と堀籠教諭が盛岡農学校に出向く
- ◆05日～15日：詩『157 [ほほじろは鼓のかたちひるがへるし]』《003-102》
- ◆15日(水)：詩『158 [北山川は^{けいき}熒気をながし]』【春と修羅2集】《003-102》
- ◆17日(金)：詩『166 ^{かいろせい}薤露青』《003-102》
- 18日(土)：農学校学芸部学芸会
- 23日(水)：辻潤，『惰眠洞妄語(2)』で【春と修羅】を絶賛する《003-103》「この詩人は全く特異な個性の持ち主だ。…若し私がこの夏アルプスへでも出かけるなら私は『ツアラトウストラ』を忘れても『春と修羅』を携えることを必ず忘れはしないだろう。」【読売新聞】
- 早魃のため各地に水喧嘩起こる《002-111》

8月

- 05日(火)：「花巻の素人／田園劇／十日夜同地で」の見出しで「稗貫郡花巻絵画研究会雑草社同人より2,3年前から計画されていた田園劇は，…宮澤氏雑草社同人生徒29名により10日午後6時より同地に公開されることとなった。『ポロン《ポランの誤記》の広場』は，イタリアの夏の或夜祭りを扱ったもので，背景は平原の夜の景で非常な大きいバックを用し，照明の応用に甲虫の鳴音等に留意して，最も自然を演出されるさうで，『農園研究室《植物医師の誤記》』は盛岡の郊外に材を得たものでこれも非常に背景演出に苦心を用いているらしく，…」【岩手日報朝刊】《003-103》
- ◆初旬：劇の練習後，イギリス海岸での水泳中に平来作が溺れ失神する
- ◆10日(日)～11日(月)：昼夜2回にわたり自作劇『飢餓陣営』『ポランの広場』第2幕郷土劇『植物医師』『種山ヶ原の夜』を農学校講堂で自費上演（一般公開）《003-103》観衆はいずれも200名ほどの町内の人で満員となり，最後の上演では母・イチや妹たち，帰省中の友人・阿部孝（英文学特に戯曲研究家）がいた。舞台の背景には阿部芳太郎ら美術愛好家の協力を得る。賢治は白手袋をして舞台左の袖で高い台に座って張り切って指揮演出をし，幕前に白藤慈秀が簡単な解説を行う。上演の費用一切は賢治の自費である。「大正13年8月10日，11日の2日間，宮沢教諭作田園劇同志指導の下に校友会有志約30名出演開催した。開会午後6時というに定刻には既に見物人を以て講堂を充たした。講堂正面に舞台を設け可成的最新式の装置をなし左のプログラムにより劇を進めた。この劇は田園の娯楽を主眼とせるは勿論なるも種々の諷刺を含み観賞者に多大の感激を与えた。」【花農校友会会報 第2号】
- 第1幕 飢餓陣営（児童劇）；
- 時：1920年代 處：欧州西部戦線

人物：二聯隊軍曹《後註：高橋倉吉》，バナナン大将《平来作》，特務曹長《菊池信一》，曹長《松田浩一》，兵卒 12 名《太田代潔，平賀喜次郎，藤原一夫，小原二三，川村与左衛門，小原忠，斎藤忠勝，藤原長命，宮川(市川)久五郎，佐藤孝一，渡辺要一，宮沢(臼崎)吉太郎》

第2幕 植物医師(郷土喜劇)1年生組；

時：1920 年代 處：盛岡郊外

人物：爾薩待正(植物医師)《伊藤庄左衛門》ペンキ屋徒弟《加藤勝夫》，農民 6 人《菊井清人，中村(平賀)末治，根子吉盛，泉沢芳武，他》

第3幕 ポランの広場 第 2 幕(ファンタジー)2年生組；

時：1920 年代 處：イーハトーヴ県ポランの広場

人物：キュスケ(博物局 16 等官)，ファゼロ(キュステの甥)《藤原一夫》，山猫博士《晴山

りょういち

亮一，渡辺要一，藤原春治(交代)》，楽長《平来作》，給仕，農夫，牧夫，紳士男女数名

第4幕 種山ヶ原の夜(夢幻劇 or スケッチ)2年生組；

時：1922 年 8 月 31 日 処：岩手県種山ノ高原

人物：日雇草刈り《小原忠》，ススキ《川村与左衛門》，農夫 3 人，放牧地見回人(夢幻中)《渡辺要一》，雷神《小原二三，藤原春治，藤原哲郎(砲丸を転がす役)》，樹霊《工藤克己，関良助》，数人。劇中の原体剣舞連は舞台上手の袖の陰に隠れていた賢治が歌う

■11 日(月)：舞台に使った道具のたぐいを全て校庭に持ち出して燃やし，賢治と生徒は炎を周りながら踊る

◆13 日(水)：「花巻農学校の／田園劇／1^(ママ)0の両日 稗貫郡花巻農学校の農民劇第 1 回試演は 10,1 の両日同校内に於いて開催され 10 日午後 7 時予定より少し遅れたけど約 300 名の観覧入場者はいかにという期待をもって待たされた畠山校長は一場の挨拶として農村と娯楽学校劇と田園劇との当を得た感想を述べられそれより白藤教諭の劇梗概があつて初幕『飢餓陣営』(児童劇)第二幕「植物医師」(郷土喜劇)，第三幕『ポランの広場』(ファンタジー)，第四幕『種山ヶ原の夜』(スケッチ)を演じた。」【岩手日報 夕刊第 1 面】

◆16 日(土)夜：野宿

◆17 日(日)：早池峰山に登頂。詩『179 [北いっぱいの星ぞらに]』『181 早池峰山巔^{さんてん}』《003-103》

■21 日(木)：6 月 23 日からこの日まで降雨日は 1 日のみで，旱天が 58 日も続いた。この干害による被害は畑が 10 割の 76000 畝，水田 2.46 割の 12900 畝に及んだ。稲作は稗貫，和賀，江刺の各郡の被害が最もひどいものであった。稗貫郡下の水稻被害面積は 51.7%，畑作被害面積は 50.0%に達する。

◆22 日(金)：詩『184 春』『184 「春」変奏曲』《003-103》

■犬田卯「再び土の芸術の意義を説く」

9 月

◆06 日(土)：詩『91 風と杉』《003-104》

◆09 日(火)：詩『198 雲』《003-104》

◆10 日(水)：詩『195 塚と風』『196 [かぜがくれば]』《003-104》

■13日：文部大臣・岡田良平が学校劇禁止令を發布する。脂粉を施すなどの仮装は学芸会の粋をはみ出しており、教育上好ましくないという理由だった。「岡田文相／学校劇禁止／更に厳命通牒」【岩手日報 夕刊第2面】

◆16日(火)：詩『301 秋と負債』《003-104》

◆17日(水)：詩『304 〔落葉松の方陣は〕』《003-104》

□文部大臣・岡田良平による学校劇禁止令が發布される《003-104》

■18日：鳥谷崎神社参拝

□午後：卒業生集合して会議を開催する。田園劇に出演した生徒30名以上を豊沢町の自宅に招待して豪華な慰労会を開催する

◆27日(土)：詩『307 穂のない粟をとり入れる人（〔しばらくぼうと西日に向ひ〕の先駆形）』《003-104》

□農学校二年制から三年制（甲種）に延長するため、花巻川口町長・梅津善次郎が先頭に立ち、稗貫郡下の花巻町長・瀬川壮太郎、湯口村長・阿部晁など12の町村長に呼びかけて著名をまとめ、県知事・後藤祐門宛請願書を提出した

■29日(月)：全校職員生徒台温泉へ遠足

■中村星湖「児童文芸と農村文化の問題」

10月

■横手～黒沢尻間に横黒線（現北上線）の東西の連絡が完成し、岩手県と秋田県が結ばれる

◆02日(木)：詩『309 アルモン黒（〔南のはてが〕の先駆形）』《003-104》

◆04日(土)：詩『311 昏い秋』《003-104》

◆05日(日)：詩『313 産業組合青年会』『314 業の花びら（〔夜の湿気と風がさびしくいりまじり〕の先駆形）』《003-104》

◆11日(土)：詩『317 膳 or 善鬼呪禁』《003-104》

◆12日(日)：詩『320 ローマンス（断片）』《003-104》

■23日(木)：歩兵第5聯隊演習のため校庭へ集まる。機関銃も参加し、時ならぬ銃声が四囲に轟く

◆24日(金)：詩『331 凍雨』《003-104》

■25日(土)：博物授業研究会出席のため校長、阿部教諭が盛岡の師範学校に出向く

◆26日(日)：滝沢駅→柳沢→小岩井行。詩『329 母に云う（〔野馬がかってにこさえたみちと〕の下書稿）』【春と修羅第二集】。詩『330 〔うとうとするとひやりとくる〕』『938 〔ふたりおんなじさういふ奇体な扮装で〕（5月8日付の『93 〔日脚がぼうとひろがれば〕の改稿形）』《003-104》

◆29日(水)：詩『324 郊外』《003-104》

11月

■01日(土)：演習見学のため職員生徒一同黒沢尻方面へ向かう

◆02日(日)：詩『313 命令』《003-104》

■03日(月)：陸上競技会開催

◆10日(月)：詩『305 〔その洋傘だけでどうかな〕』《003-104》イーハトヴ童話【注文

の多い料理店】印刷。

◆12日(水)午後：生徒5～6人と、穀物検査所にこれを運んで青年検査員・千葉恭(19歳)に検査を依頼した

◆14日(金)夜：検査員・千葉恭の下宿に電話して学校に誘い、宿直室で原稿を書いていた賢治は、散歩に連れだして蕎麦屋の「やぶや」へ案内してご馳走した。

■22日(土)15時15分：小使・平賀善次郎、急病のため永眠

◆23日(日)：詩『331 孤独と風童』《003-104》

■24日(月)：平賀善次郎の葬儀のため職員生徒が参列

●26日(水)：岩田豊蔵に嫁いだ妹・シゲが長男・純蔵を出産

■27日(木)：賢治の小学校の同級生であり農学校の同僚でもある奥寺五郎が宗青寺裏のリング畑の一軒家で療養を続けていたが、結核のため28歳で死亡(戒名、学海智成居士)し、職員生徒が参列して葬儀が行われた

●28日(金)：5月の徴兵検査で甲種合格になった清六が弘前歩兵第31聯隊に1年志願兵として入隊するため、200人あまりの人たちに見送られて花巻駅を出発する

■犬田卯「土、百姓、文芸」

12月

◆01日(月)：当初の【山男の四月】を改題した【注文の多い料理店】刊行。全12巻のイーハトヴ童話集の第1巻とする計画。序①どんぐりと山猫(1921.9.19)、②狼森と笹森、盗森(1921.11)、③注文の多い料理店(1921.11.10)、④烏の北斗七星(1921.12.21)、⑤水仙月の四月(1922.1.19)、⑥山男の四月(1922.4.7)、⑦かしはばやしの夜(1921.8.25)、⑧月夜のでんしんばしら(1921.9.14)、⑨鹿踊のはじまり(1921.19.15)。初版1000部、印税代の100部受領。発行者・近森善一、発行所・杜陵出版部(盛岡市厩川館坂56)、印刷者・吉田春蔵—東京光原社(東京巢鴨宮下179 or 1794)、装丁挿絵・菊池武雄、四六版本文194頁、定価1円60銭。賢治の希望を生かして用紙にコットンペーパーを使う。及川が吉田に送金した金は1500円を要し、本ができると賢治は印刷代代わりに100部を送る。「イーハトヴは1つの地名である。…実にこれは著者の心象中に、このような情景を持って実在した日本岩手県である。」【広告チラシ】この他、イエハトブ、イーハトーボ、イーハトブ、イーハトーヴォ、イーハトーブなどの別称がある《003-96》

◇【注文の多い料理店】出版のため父から380円を借りた《004-161》

○清六が弘前歩兵第31聯隊に1年志願兵として入営した

□佐藤惣之助が「十三年度の詩集」と題して、賢治の【春と修羅】について詩誌として最初の評を書く【日本詩人 第4巻第12号】《003-104》

◆【注文の多い料理店】販売不振と出版社の窮状で父から300円借り200部買取。

◆『銀河鉄道の夜』第一次稿成立。

■青森県技師・島善憐氏のリング栽培講演聴講のため第2学年堀籠教諭が統導して郡役所へ向かう。

■21日：第1学年堀籠教諭が統導して花巻町馬匹共進会へ見学に行く。

◆26日(金)：職務勲励二付キ金87円賞与(岩手県)

■佐藤惣之助が【春と修羅】を本年度最大の収穫して激賞する「この詩人は、気象学鉱物学植物学地質学で詩を書いた。奇犀、冷徹、その類を見ない。」【日本詩人12月号】

- 橋場線の開通に伴い小岩井農場のトロ馬車が小岩井駅まで延長
- 橋田東声「土に生くる芸術」
- 室伏高信「土に還る」刊行

1925（大正14）年 29歳

■この年豊作。

■～大正 15 年：花巻農学校前に日蓮宗教会設立（昭和 21 年身照寺）

■鈴木実述「東北砕石工場は、大正十四年に大船渡線が摺沢^{すりさわ}まで開通になったとき、小岩井農場に炭酸石灰を輸送しようと陸中松川駅前に設立されたものでした。鈴木東蔵、鈴木貞三郎の共同経営でした。貞三郎の弟貞助が小岩井農場の技師をしておりましたので、そのアイデアによるものでした。…砕石工場は常時十二人位の従業員でしたが、松川駅近辺には小さな石灰窯があるのみで、その地方の貴重な生産工場でした。」【宮沢賢治と東山】《003-168》

◆～大正 13 年：『紫紺染について』

●宮澤家の資産は以下の通り【岩手県紳士録】；

不動産	水田	5 町 7 反 (5.7ha)	
	畑	4 町 4 反 (4.4ha)	田、畑はいずれも小作に出していた
	山林原野	10 町 (10 ha)	
	宅地	2820 坪 (9306 m ²)	
納税負担	地租	129 円	
	営業税	97 円	
	所得税	151 円	花巻での納税順位第 8 位

冬

◆東京から母を見舞いに帰郷していた菊池と藤原嘉藤治と 3 人で、花巻公会堂の大広間(料亭)で祝宴を開き、恐らく【注文の多い料理店】出版記念祝賀というつもりで賢治が歓待した。そこでオーバーから『銀河鉄道の夜』の原稿を出し、二人に読んで聞かせる

1 月

■01 日(木)：鈴木三重吉の厚意で【注文の多い料理店】の 1 頁広告が鈴木三重吉編集童話雑誌【赤い鳥】（大正 14 年 1 月 1 日発行）に無料掲載される《003-108》

□四方拝の式を講堂にて挙げ、生徒一同へお汁粉の馳走あり

◆05 日(月)：汽車で三陸地方へ一人で旅行する

◇午後：乗り継いで陸中八木駅。詩『338 異途への出発』《003-108》

◆06 日(火)：徒歩で吹雪の中を久慈、安家、行商人相手の木賃宿泊。詩『343 暁^{ぎょうきゆう} 穹への嫉妬』《003-108》

◆07 日(水)：譜 or 晋代、羅賀、宮古行き発動汽船。トドガ崎の燈台。宮古湾。詩『348 〔水

平線と夕陽を浴びた雲] (断片)』《003-108》

◆08日(木)0時：釜石行き三陸汽船乗り継ぎ

◇昼前：釜石。港近くの飯屋で昼食。映画館。叔父岩田磯吉宅泊。詩『351 発動汽船(断片)』『発動汽船一、二、三』『356 旅程幻想』《003-108》

◆09日(金)午前：釜石発。仙人峠。詩『358 峠』《003-108》 帰花

■15日(木)：富永太郎の知人宛書簡で「近頃発見した面白い詩をお目にかける。それは宮澤賢治といふ人の【春と修羅】という詩集の中にある。その中のすべてがこれほどの傑作だといふわけではないが、近頃大へん立派な詩集だと思っている。」と記し、『蠕虫舞手』が同封されている《003-109》

◆18日(日)：詩『401 氷質の冗談』《003-109》

■20日(火)：日ソ基本条約調印

◆25日(日)：詩『407 森林軌道』『408 [寅吉山の北のなだらで]』『409 [今日もまたしやうがないな]』《003-109》

■30日(金)：職員一同矢沢方面へ雪中行軍

◆岩手県開設国民高等学校囑託

◆上京して高村光太郎訪問

◆及川四郎は吉田春蔵(東京光源社)への追加金300円を恩師に借金したが、その返済に困り果てているのにみかねた賢治が、300円を父から借りて200部を買い取り、及川はやっと返済できた《002-112》

2月

◆05日(水)：詩『409 冬』《003-110》

■08日(土)：水沢対農学校のピンポン試合が行われる

◆09日(日)：詩誌【^{かお}貌】の編集発行を計画している森佐一(筆名・荘巳池)の寄稿依頼に答えて、自分の書いたものは詩や文芸とはいえず、「機会ある度毎に、色々な条件の下で書き取って置く、ほんの粗硬の心象のスケッチでしかありません。私はあの無謀な【春と修羅】に於て、序文の考を主張し、歴史や宗教の位置を全く変換しやうと企画し、それを基骨としたさまざまの生活を発表して、誰かに見て貰ひたいと、愚かに考へたのです。」と送稿を辞退する《003-110》その後再度の要請があり、『スケッチ2篇』(鳥、過労呪禁)を送る

■10日(月)13時30分：阿部教諭が2年生を統導して製糸場を見学

■13日(木)：県より畠山校長に生徒募集定員増加の申請に対して14年度から80名を100名に増員をし、新学年から50名を募集して差し支えないことの通達があった

◆14日(金)：詩『90 風と反感』《003-110》

◆『祠の前のちしやのいろした草はらに』

◆15日(土)：詩『410 車中』『411 未来圏からの陰』『415 [暮れちかい 吹雪の底の店先に]』『419 奏鳴的説明』《003-110》

◆19日(水)：森佐一宛書簡「しかもいま Misanthropy(人間嫌い)が氷のように私を襲ってゐます。」《003-110》

■21日(金)：学芸会

◆夕刻：牡丹雪の降る日、森の家を尋ねる。盛岡劇場隣のレストラン「大洋軒」に森を案内してご馳走し、科学や宗教の話をする。自作の『星めぐりの歌』『ポラーノの広場の歌』『飢餓陣営の歌』『種山ヶ原の歌』などを堂々と歌い、休憩時間中の隣の劇場の客を驚かせる。ハترون封筒から 10 銭銀貨をざらざらと出してテーブルの上に小さな山をつくって支払いを済ませる

3月

■02日(月)：普通選挙法成立

■03日(火)：第1学年教室において卒業生送別会

■07日(土)：治安維持法案修正可決

■10日(火)：陸軍記念日に全校生徒を引率して花城において軍事講話傍聴する

■22日(日)：謝恩会

◆24日(火)10時：花巻農学校第2回（稗貫農学校からは第4回）卒業式。卒業生数34名（進学5名，農業技術員4名，小学校代用教員4名，会社員2名，官公吏2名，農業自営者17名）である

■県立花巻農学校の応募者数69名，入学者数54 or 50名

◆28日(土)：農業をする平来作と菊池信一の卒業を祝って自宅に招き，この時「農業に親しむ体の丈夫な人を嫁にするんだよ。」と話し，写真に署名し，【春と修羅】と【注文の多い料理店】を与えた

□入学試験

■29日(日)：入学試験結果の発表にて50名入学許可。2年生40名と併せ全生徒90名；在学生父兄の職業別人数：農業71，商業8，交通業2，官公吏3，教員1，自由業5
寄宿舎定員32名中14名収容・経費1日35銭・会費1月1円，図書214点（909円85銭）

◆「生ぬるいことをしているわけにはいかない。」「本統の百姓になります。」と教え子の杉山芳松に手紙を書く

◆盛岡中学4年生・森佐一（17歳，筆名・北小路幻）と石川善助が賢治宅を訪問する

◆夕方：雪のちらつく中，賢治は森佐一の家を訪問する。自分と同じくらいの年格好と想像していたが，中学生であることに驚く。外に連れ出して盛岡劇場の隣にあるレストラン2階の1室で文学から宗教，科学など色々の話題を話し合う。賢治は「ポラーノ広場の歌」を立ち上がって歌い始め，休憩時間でもあったためか向の劇場の窓から客が顔を出す者もあった。食事後，賢治は封筒を取りだし，10銭銀貨をテーブルの上に山盛りにして「これだけあれば大丈夫でしょう。」と言って店を出る。森はその行動に呆気にとられている《002-112》

4月

■01日(火)～04日(土)：春の農場実習

◆02日(水)：詩『508 発電所』『504 [硫黄いろした天球を]』『506 [そのとき嫁いだ妹に云う]』『511 [はつれて軋る手袋と]』《003-111》

◇賢治による地質土壤演習

◆05日(日)：詩『15 朝食』《003-111》

□農学校入学式

■08日(水)：「農民歌」を練習

◆13日(月)：樺太の杉山芳松宛書簡「わたしはいつまでも中ぶらりんの教師など生温いことをしてゐるわけに行きませんから多分は来春はやめてもう本統の百姓になります。そして小さな農民劇団を利害なしに創ったりしたいと思うのです。」と書く《003-112》

□陸軍現役将校配属令の公布され、学校で軍事教練が始まる

■15日(水)：「アザリア」の同人・河本義行の詩集『夢の破片』が出版され、賢治に送られる

◆18日(土)：詩『520 [地蔵堂の五本の巨杉が]』《003-111》

◆20日(月)：詩『326 [風が吹き風が吹き]』《003-111》

◆21日(火)：詩『327 晴明どきの駅長』《003-111》

■22日(水)：治安維持法公布

■24日(金)：校友会(生徒会)のための予算会議、役員会議が開催される

◆25日(土)：校内討論会を開催する。岩手県が盛岡市の県庁の隣接地に県公会堂を建設するため、財源として県内を南北に縦貫する国道4号線の松並木を伐採して、その売却金を資金に充てるという発表があり、県民の間に賛否両論がわき起こる。賢治は松並木の景観を高く評価して伐採には反対であったが、同僚の白藤は財政の乏しい岩手県としてはやむを得ないという考えであった。それならばこの問題を取り上げて討論会を開くことに両者の意見が一致した。生徒を10名ずつの反対派と賛成派の2組に分かれて、講堂で向かい合いように座り、他の生徒は両論の成り行きをみるために背後の席に並んだ

■26日(日)：東京歌舞伎座で日露交換管弦楽演奏会(指揮・山田耕柞、近衛秀麿)が開演され、藤原嘉藤治が上京して観賞する

◆昨年9月に岡田文相によって出された学校演劇禁止令のため、上演できなくなった演劇に代わるものとして、入学間もない生徒をメンバーに校内楽団をつくる；

ヴァイオリン	菊井清人	(2年)
シロフォン	川村義郎	(2年)
同	根子吉盛	(大正15年卒)
明笛	柳原昌悦	(1年)
明笛 琴	朝倉六郎	(大正15年卒)
琴	高橋秀蔵	(昭和3年卒)
金笛、オルガン	高橋(沢里)武治	(1年)
セロ	高橋喜一	(2年)
オルガン	大隈喜久雄	(1年)
ハーモニカ	佐藤幸一	(2年)
口笛	大内喜助	(昭和2年卒)

●27日(月)：父政次郎、花巻川口町町会議員に最高点で当選。外祖父・宮澤善治も花巻川口町町議会議員に立候補した。賢治授業中に、職員室で政次郎の町会議員当選の話題が出た折り、畠山校長は「自分は政次郎に入れるよう照井に頼まれていたが、他の立候補者に入れた。」と話したところ、怒った照井謙次郎(剣道教師)は石で校長の顔面を打ち、昏倒させた

◇授業から戻った賢治はこの顛末を聞き、校長に詫びるとともに、照井をいさめる。事件の波紋は校長の転任や賢治の退職の原因の1つになる

■農学校第1学年時間割；

	I限	II限	III限	IV限	V限	VI限
月	修身	国語	英語	植物	畜産	実習
火	養蚕	算術	畜産	化学	論語	〃
水	作物	算術	畜産	林学	英語	〃
木	英語	植物	国語	作病	養蚕	〃
金	作物	養蚕	林学	作病	体操	〃
土	算術	農製	化学	虫害	養蚕	〃

◆樺太の教え子杉山芳松への書簡で来春辞職を予告、『春』

5月

■05日(火)：普通選挙法公布により25歳以上の男子に選挙権が与えられた

◆07日(木)：生徒を引率して小岩井農場へ遠足にゆく。詩『333 遠足統率』【春と修羅第二集】《003-112》

◆10日(日)：森佐一と岩手山麓へハイキングにゆく。仁王通りの小原静養堂で食パンを1本買い、汽車で小岩井駅へ到着する。駅前の蕎麦屋で蕎麦を2膳ずつ食べる

◇夜：小岩井農場を抜けて姥屋敷から山道を登り、松の木の下で野宿を試みるが寒さに震え、岩手山神社柳沢社務所の小屋で仮眠をとる。沼森。詩『335 [つめたい風はそらで吹き]』《003-112》

◆11日(月)朝：パンをちぎって食べ、高原と谷間を歩き、焼走り溶岩流を見、また残ったパンを食べる

◇夕：^{おおぶけ}大更を経て汽車で^{こうま}好摩へ向かう。詩『336 ^{しゅんこくぎょうが}春 谷暁臥』【春と修羅第二集】、詩『337 国立公園候補地に関する意見』《003-112》

◆24日(日)：盛岡に森佐一を尋ね、連れだって高等農林学校 or 植物園に行く。花壇を縁取る桃色の丸い小さな花を根っこから抜き取り、紙に包んでポケットに取った後、「花泥棒ですね。」という。農芸化学科助手の小原忠を誘って森に紹介する。その後、二人を盛岡一流の西洋料理店・日盛軒で定食をご馳走する

◆25日(月)：詩『340 [あちこちあをじろく^{にわとこ}接骨子が咲いて]』《003-112》

◆31日(日)：詩『345 [Largo や青い雲蔭 or やながれ]』《003-112》

6月

■06日(土)午前：晴れ、田植実習、畑実習、養蚕実習を正午までに終え、昼食は祝宴のため全校生徒、全職員同席で赤飯を食べる。その後、蓄音機による楽音(レコード・コンサートの意味)がある。選曲(「天国と地獄」)は賢治が行い、生徒は解説付きで傾聴した

■07日(日)：職員生徒一同にて田植えを行う

◆08日(月)：詩『350 図案下書』《003-112》

◆12日(金)：詩『258 湯水と座禅』《003-112》

◆20日(土) : 10:51 花巻発

◇12:05 盛岡発

◇15:35 八戸(尻内) 着

◇18:44 青森着

◇19:20 青森発

◇20:41 弘前着

◇入営中の弟清六に面会

◆24日(水) : 岩手詩人協会宣言が掲載され、顧問及び会員 35 名中 3 番目に賢治は名を連ねる【岩手日報】

◆25日(木) : 山梨県駒井村の保坂嘉内宛書簡「来春はわたくしも教師をやめて本統の百姓になって働きます。」《003-112》

◆27日(土) : 和賀郡二子村の斎藤貞一宛書簡「わたくしも来春は教師をやめて本統の百姓になります。」《003-113》

◆28日(日) : 高日義海花巻高女校長宅で定期輪読会が開催される

◆30日(火) : 5級俸(110円), 当分105円を給される

◆末 : 生徒・佐藤幸市(大正15年卒)が教室から廊下にかけて大暴れをし、これをとがめた畠山校長が有無をいわず鉄拳を飛ばす。双方の感情のもつれから全校ストライキになりかけた。このことを知った賢治が教室に入ってきて生徒から事情を聞いた後、校長の暴行については校長に謝らせるから生徒達も静かに反省すべきと「実に強い厳しさ」で叱る。賢治の生徒説得で事なきを得る。畠山校長は「林業」の授業時間に生徒に暴力を詫びた

◆『異稿蟻』

夏

◆鳥羽源蔵宅で紹介された早坂一郎をバタグルミの化石採集に案内

7月

◆04日(土)14時30分 : 賢治, 堀籠, 阿部の統導で生徒38名が花巻を出発する

◇16時 : 滝沢に到着し点呼を終えて岩手山に登る

◇柳沢

◆05日(日)02時30分 : 頂上に到達。火口原湖, 硫黄孔, 千俵岩, 外輪山で2つの直径1mを超える典型的な火山弾を見つける

◇15時 : 帰校

◆11日(土) : 羽田県属の学校視察

□佐藤政井(大正15年, 昭和2年)の『岩手山紀行(上)』【岩手毎日新聞】

■12日(日) : 佐藤政井の『岩手山紀行(下)』【岩手毎日新聞】

□東京放送局から本放送開始

◆18日(土) : 岩手詩人協会(編集発行人・森佐一)が詩誌【貌】(定価32銭)を発行し、森からの再三の依頼に応じて賢治は『鳥』(後に『寄鳥相亡妹』と改題)『過労呪禁』(後に『善鬼呪禁』と改題)の2題を発表し《002-112/003-114》, 同人費3円を送る

◆19日(日) : 詩『366 鉦染とネクタイ』『368 種山ヶ原』『369 岩手軽便鉄道七月(ジ

ヤズ)』《003-114》, 詩『ジャズ夏のはなしです』

◆24日(金): 試験1日目。2年生の1校時は賢治の代数, 2校時は堀籠の園芸, 3校時は白藤の国語

◆25日(土): 試験2日目。校長の修身, 賢治の英語, 阿部の養蚕

■26日(日): 大船渡線一関摺沢間が開通

■中国広州嶺南大学で学んでいた草野心平が帰国する《003-114》

◆草野心平(22歳)が同人誌【銅鑼】3号を送り, 彼の勧誘で同人になる。賢治は承諾の手紙「わたくしは詩人としては自信がありませんが, 一個のサイエンティストとして認めていただきたいと思います。」(草野心平『私の中の流星群』)《003-114》に1円の為替と詩2編を添えて送る

◆オルガン・セロの独習開始

8月

◆10日(月): 心象スケッチ『過去情炎』【貌 第2号】, 詩『370 [朝のうちから]』『372 溪にて』《003-115》

◇夜: 河原坊で野宿

◆11日(火)早朝: 早池峰山で日の出を迎える。詩『374 河原坊(山脚の黎明)』『375 山の^{しんめい}黎明に関する童話風の構想』《003-115》

◆花城小学校で詩の展覧会(岩手の新詩運動)が開催され, 賢治と森佐一らが出品する

■農学校の家畜舎1棟が落成する

9月

◆07日(月): 詩『377 九月』《003-115》

◆08日(火): 『心象スケッチ負景二篇』として『一命令—』『未来圏からの影』を発表し, 草野心平は編輯後記に「現詩壇で最も奇抜な2つの個性—三好十郎, 宮澤賢治両君が同人に加はった。…宮澤君は昨年【春と修羅】1巻を世になげつけたまま, 全くの沈黙をつづけてきた。／これからの両君の活躍が期待される。」と記す【銅鑼 4号】《003-116》

◆10日(木): 詩『378 住居』《003-115》

◆15日(火): 心象スケッチ『春二篇』として『痘瘡(幻聴)』『ワルツ第CZ号列車』(後の『春』と改題)を発表【貌 3号】《003-116》

■24日(木): 農学校の秋の行事・花巻温泉遊園地への遠足

◆青森県山田野演習場に旅行し音信のない清六に邂逅し, 将来を語り合い, それぞれの道を分担することを話し合う

◆大船渡線の一関~摺^{せんまや}崎の鉄道は開通していたが, 千厩までは工事中であったため門崎で下車してそこからバスで千厩の養蚕学校に到着する。途中バスが横転して桑畑に落ちたが怪我人はなかった。岩手県主催の農業 or 中等学校教育研究会に参加する。旅館で県視学・荒井正一郎 or 正市郎と知り合い, 談笑する

10月

◆08日(木)夜遅く: 農学校2年生26名が北海道修学旅行から無事, 帰花し, 賢治, 高橋

書記、寄宿生一同が駅に出迎える

◆18日(日)：詩『383 鬼言(幻聴)』《003-117》

◆20日(火)：検査員・千葉恭を初めて自宅に呼んで肥料、水稻栽培、花作り、地理などの話をし、レコードを聞かせたりした

◆25日(日)：第2班班長として土性調査実習。詩『384 告別』《003-117》農学校秋季大運動会で、賢治発案の「天狗の鼻取り合戦」が行われる。「天狗の鼻取り合戦」は1年生の集団演技で、全員を紅白2組に分け、稲藁で作った腰みのを着け、ボール紙で作った面に高い鼻を付けて顔にかぶる。相手方の鼻を先に取った方が勝ちという競技である

◆25日(日)《003-117》or 27日(火)：『休息』『丘陵地』（後に『丘陵地を過ぎると』と改題）【銅鑼 5号】《003-117》

◆『住居』

◆大演習を終えた清六を仙台に慰労する

11月

■10日(火)：尾形亀之助『色ガラスの街』出版記念会の席上で、尾形は草野心平に賢治の【注文の多い料理店】を勧められ、これをきっかけとして、賢治に対して雑誌【月曜】への原稿を依頼する《003-118》

■12日(木)：福島県立東白河農蚕学校長・中野新佐久(盛岡高農農学科第3回卒業生で畠山校長の3年先輩、校長室のないことを怒り作らせるような教条的権威主義者)が県立花巻農学校校長兼教諭に着任し、修身、林学、法政経済を担当する。9級俸下賜、年功加俸年額180円下賜(岩手県)

■13日(金)：花巻農学校校長畠山栄一郎(太っていたためピッグと呼ばれていたが性磊落で、賢治の才能を高く評価。)が福島県立倉棚(東白河 or 白河)農蚕学長に転任する

■15日(日)：畠山前校長が花巻を去る

■22日(日)夜：東北帝国大学地質学古生物学教室助教授・早坂一郎が花巻を訪れる

◆23日(月)：早坂をイギリス海岸に案内して北上川小舟渡でバタクルミの化石を採集《003-118》

□17時12分：早坂は花巻を発って仙台に帰る

■25日(水)：「花巻の胡桃化石 数百万年前の珍植物 早坂博士調査」【岩手毎日新聞】

■花巻温泉電気鉄道全通

12月

◆県教育会等主催で来春開催予定の岩手国民高等学校の講師を囑託される

◆教え子たちに教師生活が幾ばくもないことを語る

◆『休息』『丘陵地』【銅鑼 5号】

◆01日(火)：『冬(幻聴)』【虚無思想研究 1巻6号12月号】《003-119》弘前歩兵31聯隊にいる清六への書簡に「この頃畠山校長が転任して新しい校長が来たり私も義理でやめなければならなくなったりいろいろごたごたがあったものですから。」と書く《003-119》

■10日(木)：翌年開設される国民高等学校準備のため事務機関が花巻農学校に開設

■15日(火)：第2学期末試験開始

■22日(水)：早坂一郎の研究論文『岩手県花巻町化石胡桃に就いて』の最後に「伊藤博士並びに化石の採集に便宜を与えて下さった盛岡の鳥羽源蔵氏，花巻の宮沢賢治氏に感謝の意を表す。」と記す

◆23日(水)：森佐一宛の書簡で「学校を辞めて1月から東京に出る筈だったのです。延びました。夏には村に居ますから。」と書く《003-119》謄写版で刷ったスケッチを森と石川善助に送る

◆『ざしき童子のはなし』

◆下旬：石川善助と森佐一の来訪

◇座敷ぼっこの怪異を語り合う

◆【春と修羅 第2集】20編創作（1月～）

■農民労働党結成，書記長浅沼稻次郎，即日結社禁止

◆(土)02時頃：帰省せずに寄宿舎に残っていた寄宿生20名ほどに非常呼集をかけ，全員にゲートルを巻かせて7,8km離れた花巻温泉までひたすら直進して雪上行進をする。花巻温泉についても未明で旅館も開いていないため，温泉から数分のところにある緒ヶ瀬へ行き，滝壺に生徒全員と一緒に服を脱いでいる。夜明けに花巻温泉で最も大きな花盛館に行き温泉に入り，朝食をとる。花巻電鉄に乗って帰る。予め旅館に話を付けていたのではないかと思われ，賢治流の精神教育であり，辞職を決心していたために生徒への惜別の挨拶であったかも知れない

◆清六宛書簡「仕事の計画はいかにも実務的ではっきりしてみてひじやうに賛成です。わたくしも多少見当の付く方面ですから精一杯お手伝ひします。おとうさんも大へんよろこんでゐます。恐らくきみはその新鮮な情熱と透明な企画とでわれわれのしばらく疲れた家（わたくしの勝手から起こった）をはなばなしく楽しくしてくれるだろうとおもひます。」《003-136》

壮年時代～死去

1926（大正15／昭和元年）年 30歳

◆大正15年4月～：『大礼服の例外的効果』

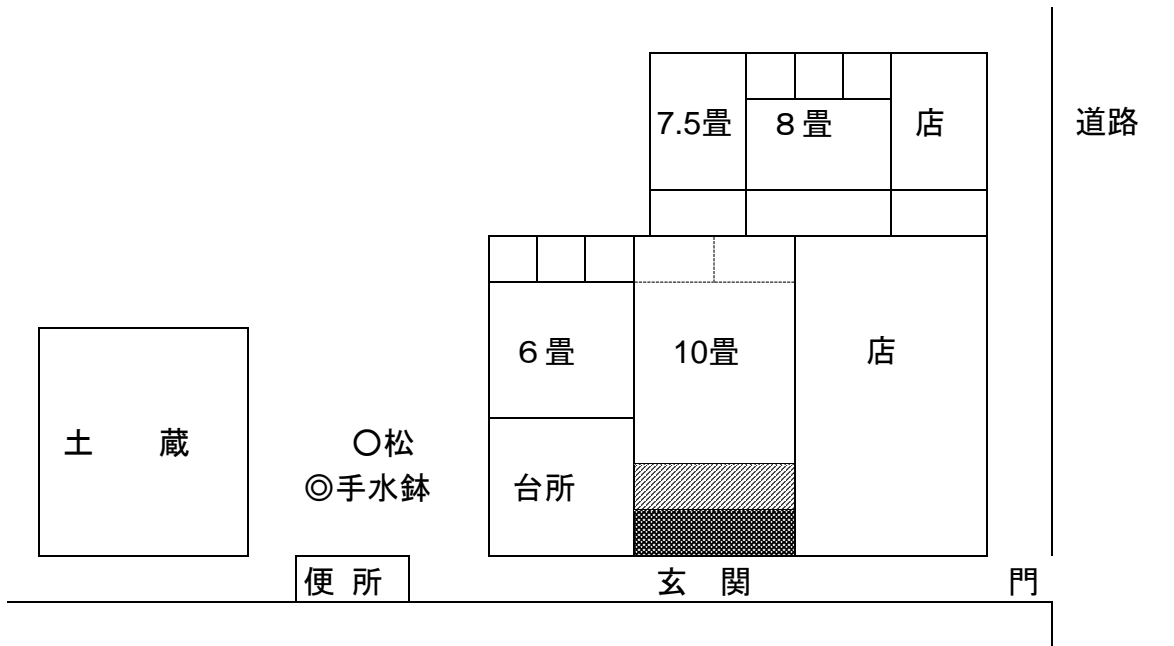
◆大正15年～：『龍と詩人』現存原稿

◆01日(金)：童話『オッペルと像』を発表する【月曜 創刊号】（東京恵風館，詩人・尾形亀之助の自費出版と編集の随筆雑誌）

◇心象スケッチ『昇しょうべき 羸銀盤』『秋と負債』を発表する【銅鑼 第6号】《003-124》

◇花巻農学校の職員7名の連名で「謹んで新春を祝す」の挨拶文を掲載し，賢治も益々校務に精励する旨を記す【岩手日報 朝刊広告】《002-116》

●宮澤家（豊沢町）の1階平面図；



1926:1月

◆10日(日)：「心象スケッチ二篇」として『雲（幻聴）』『孤独と風童』を発表する【貌第4号】《003-124》

◆14日(木)：詩『402 国道』《003-124》

■15日(金)11時～13時：花巻農学校で岩手国民高等学校開校式。来賓は瀨川貴族院議員，金子県会議員，菊池稗貫部長，久保川女師校長，高日花巻高女校長，中野花巻農学校長，梅津花巻川口町長，瀨川花巻町長，其の他郡内町村長有志等20余名。高野社会教育主事が挙式の辞を述べ，君が代2唱後，校長坂本内務部長の勅語奉読があり，関学務課長から開校の趣旨が述べられ，坂本校長は35名の生徒に対して訓辞をなし，次いで来賓の金子県会議員，菊池部長，久保川女師校長の祝辞があり，生徒総代の答辞の後に高野主事から閉式の挨拶がある。岩手県教育会，稗貫郡部会，岩手県農会，岩手県青年団体聯合会が主催し，高等小学校以上の学力があり，年齢は18歳以上で，将来地方自治に努力しようとする抱負のある者を各町村から2名ずつ募集する。同年3月末日までの3ヶ月に農村指導者を養成する目的で開校したことから，各村から優秀な農村青年35名が集まり全員寄宿舎で合宿した。経費は月額15円の予定であった。全期間を通じて終始生徒の指導監督に当たったのは，岩手県社会教育主事高野一司（水沢出身，東京帝大教授法学博士^{かけい} 克彦，友部日本国

民高等学校校長，加藤完治の薫陶を受ける）であった。教科目①修身（勅語・詔書の^{えんぎ} 衍義）40時間，②公民教育（憲法・自治制度・政治論）50時間，③古代史・国史の精神・郷土史論・世界の大勢45時間，④近世文明史論45時間，⑤最近科学の進歩45時間，⑥現代農村問題50時間，⑦産業組合30時間，⑧農業経営法40時間，⑨文学概論40時間◇国民高

等学校講師兼任。下根子櫻の別宅の改造を始め、仕事の終わった後、八重樫倉蔵、民蔵の兄弟大工の労をねぎらって静養軒で飲酒、喫煙をする。千葉恭（『イーハトヴォ』第2号）によると、別宅の特徴は、玄関や屋敷から土足のまま入れるようにしてあり、玄関は西側にあり、廊下式になっていて芝を立て廻してあった。まるで芝の穴に入っていきうように作られており、これを「山猫」と呼んでいた。奥の6畳は寝室で、万年床のベッドがあり、2階は3方がガラス戸で書斎になっていた。台所は裏の杉林の中に小さな掘立小屋を作り、煉瓦で炉を切り自在鍵で煮物をしていた《003-124》

校長 岩手県内務部長 坂本 暢

主事 同社会教育主事 高野一司

教科と講師；

修身、農村問題	社会教育主事	高野一司
農村経営法	検車会教育課長	福士 進
農業経営法	県農会技師	大森堅彌 ^{けんや}
産業組合法	県主事補	佐藤公一
公民科	学務課長	関 壮二
世界の大勢	県視学	新井正一郎
近世文明史	花巻高等女学校教諭	八木英三
古代史	女子師範学校校長	久保川平三郎《002-216》
国民の精神	師範学校教諭	鈴木勝二郎
最近科学の進歩	師範学校教諭	畠節重治
生理衛生	花巻農学校教諭	阿部 繁
文学概論	花巻高等女学校校長	高日義海
農民芸術	花巻農学校教諭	宮澤賢治
農民美術	花巻高等女学校教諭	中井彌五郎
音楽概論	花巻高等女学校教諭	藤原嘉藤治

課外講演；

調和の必要	盛岡高等農林学校長	鏡 保之助
緯度観測	水澤緯度観測所長	木村 栄（Z項の発見者）

花卉 ^{かき}	花巻農学校長	中野新左久
植物病理	花巻農学校教諭	堀籠文之進
理想論	花巻農学校教諭	白藤慈秀
自治制	法学士	伊藤正良
行政法	法学士	菅野一郎

学生名簿；

稗貫郡花巻川口町	矯風委員	伊藤	清一
内川目村		伊藤	富士太郎
矢澤村	会計委員	小原	国三郎
八重畑村		坂垣	亮一

湯本村		平	頼作
湯口村		佐藤	源内
亀ヶ森村		鎌田	彰吉
内川目村		佐々木	直見
大迫町		高橋	儀造
八重畑村		晴山	源一
大迫町		藤原	源三
好地村	会計委員	菊池	信一
大田村		平賀	幸七
新堀村		高橋	輿之助
湯口村		藤原	春治
外川目村		佐々木	春治
八幡村		鎌田	倉蔵
太田村	文芸委員	藤原	萬作
矢澤村		佐藤	源太郎
江刺郡玉里村		菊池	庄一
玉里村		平野	宗
福岡村		大瀧	勝巳
岩手郡川口村	炊事委員	佐藤	健吉
太田村	衛生委員	館澤	徳栄
西山村	文芸委員	瀧澤	勇吉
和賀郡立花村		多田	又四郎
笹間村		高橋	富雄
九戸郡長内村		日澤	義栄
久慈町		堀米	慎三
上閉伊郡鱒澤村		佐々木	研一郎
鱒澤村		菊池	幸吉
紫波郡飯岡村		三上	善二
東磐井郡奥玉村	矯風委員	畠山	辰次郎
下閉伊郡崎山村		前川	孫十郎

日課表；

6時	起床，点呼，洗面，掃除，国民体操，やまとばたらき，こころの力朗読
7時	朝食
9～12時	講義
12時	昼食
13～16時	講義，研究，見学など
18時	夕食
19～21時	課外講演，意見発表会，夜の集いなど
21時	消燈

国民体操は，枢密院副議長，法学博士・平沼騏一郎を団長とする修養団で松本稻穂が指導

したものに基づいたもので、まず駆け足で花巻川口町を一巡し、西公園天満宮で体操をするもの。やまとばたらき（皇国運動）は専任の高野主事が寛克彦編の『神あそびやまとばたらき抜刷』によって指導。「こころの力」は教室に入って正座し、小林一郎記述の『心の力』を精神修養の目的で、毎朝1章ずつ朗読する

◆17日(日)：詩『403 岩手軽便鉄道の一月』を《003-124》『銀河鉄道の一月』として発表【盛岡中学校校友会誌 第41号】

■29日(金)：文部省督学官が国民高等学校に来学

◆30日(土)：第1回「トルストイの芸術批評」と「最初の酒造」5幕物（第1幕「畑」、第2幕「地獄」、第3幕「穀物倉」、第4幕「酒造り」、第5幕「百姓の家」）について講義

◇夜：職員室と校長室の2つを開放してベートーヴェン百年祭レコード・コンサートを開催し、学校の職員、生徒、町の人と音楽を楽しむ。レコードだけでは興がないと思ったため花城小学校の某先生に独唱を依頼したが、その先生が訪れず、閉会後に賢治は泣いていた《004-164》

◆農学校退職後の構想を持って下根櫻別荘手入れを町大工に依頼

■岩手県最初の中学校軍事教練査閲が行われる

1926:2月

◆01日(月)：童話『ざしき^{ほっこ}童子のはなし』を発表する【月曜 2号】

◇心象スケッチ『朝食』を発表する【虚無思想研究 第2巻第2号】（発行所・東京芝区西久保町34新声社内虚無思想研究社、関根喜太郎）《003-125》

■02日(火)：国民高等学校の日課；

□午前6時：起床

□午前6時30分：駆足、国民体操、皇国体操

□午前7時：朝拝（君が代二唱・勅語奉読・天皇陛下の弥栄二唱）、静座（寄宿舍内で「心の力」朗読）

□午前7時30分：朝食

□午前8時30分：学科講義

□午後3時～午後4時：真影流の武道の型鍛錬

□午後5時30分：夕食、高野講師の農村視察談、賢治のレコード鑑賞

□午後7時：自習時間

□午後9時：礼拝、就床【岩手日報夕刊】

◆09日(火)：第2回講義「われらの詩歌」と題し、万葉集（人麿他）古今集（在原業平）、それぞれ1頁を引いて比較。岩手県の童歌、民謡、三重県の民謡を紹介

■11日(木)：紀元節の式典が学校で挙行される

◆18日(木)：第3回講義「水稻に関する詩歌」

◆19日(金)：第4回講義「稲と露」と題し稲と水分（降雨）の関係を述べる

□国民高等学校の特別講座として蘇民祭の見学が行われる

◆24日(水)：第5回講義「宅地設計」農家の構造設計を考える

◆27日(土)：第6回講義。本日より「農民（地人）芸術概論」始まる。「農民と云わず地

人と称し、芸術と云わず創造といたい。」と述べ、序論「我等は一緒にこれから何を論ずるか」を講じ、「世界全体幸福にならないうち、一人の幸福はあり得ない。」と述べる
□国民高等学校で水澤緯度観測所の木村博士の講演会

◆国民高等学校講義『われらの詩歌』『水稻作に関する詩歌』『稲の露』『宅地設計』『農民芸術概論』

■東北帝国大学助教授・早坂一郎が論文「岩手県花巻町化石胡桃に就いて」を发表【地学雑誌 第28巻444号】

◇賢治に論文の別冊が送られ、その末尾に「伊藤博士並びに化石採集に便宜を与えてくださった盛岡の鳥羽源蔵氏、花巻の宮澤賢治氏に感謝の意を表する(大正14年12月22日)」とある

◆(土)深夜：雪深い日に寄宿生らに非常呼集をかけて花巻温泉までの10kmの道程を行進する。帰省中の者を除く約20名が寄宿舎の玄関前に集合する。できるだけ直線的に進むことを話す

◇(日)夜明け前：花巻温泉に到着する。賢治は裸になって豊沢川に落ちている滝に打たれ、数人の生徒がこれに続く

◇夜明け：旅館の熱い温泉に浸かった後、朝食にありつく。経費は賢治が全て持つ《002-119》

1926:3月

◆01日(月)：第7回講義「我等は一緒にこれから何を論ずるか。」の後半。「我等は世界の誠の幸福を索ねよう。求道既に道である。」としてその道は仏教でいう菩薩行より他にないと論ずる

◇寓話『猫の事務所』を发表する【月曜 3月号】《003-125》

◆04日(木)15時30分：斎藤宗次郎が農学校職員室を尋ね、久野久子の月光曲、田園シンフォニー、ワグナーのエルサレム詣での曲を蓄音機で始めて聞く。諸先生が帰宅した後、二人で盛んに人生や宗教を論じた

◆05日(金)：第8回講義「農民芸術の興隆／本質」

■16日(火)0時30分：花巻川口町下町で火災が発生し、6棟11個が全焼、3戸が半焼した

◆20日(土)：第9回講義「農民芸術の分野」

◆22日(月)：第10回講義「農民芸術の主義」(農民芸術の製作)

◆23日(火)：第11回講義「農民芸術の批評」

■24日(水)：校長・中野新左久の下に乙種2年制課程最後の卒業式である岩手県立花巻農学校第5回卒業証授与式が開催されたが、卒業生40名中32名は新年度から発足する甲種農学校3年生として進学し、残りの8名のみが卒業する

◇18時30分：寄宿舎で夕食後、ベートーベン(1770～1827)100年祭(100年忌、大正15年3月26日)レコード・コンサートを教室で大火鉢を囲んで開催する。①クロイツェルソナタ、②交響曲第4番、③交響曲第8番、などの英国盤のレコードを使用する。

◇21時30分：コンサート閉会。

◇このコンサートで独唱を予定していた花城小学校教師(大畑ヤス子?)が欠席したためで会終了後賢治は椅子に腰掛けて涙を流していたといわれる《001-42》

■27日(土)13時：国民高等学校修了式が講堂で挙行される。修了生35名には岩手県内務部長従5位坂本暢の名において修了証書(修養鑑)が授与される。生徒総代伊藤清一が賢治の校閲した答辞を読む。国民高等学校はこれが最初で最後であった

◆31日(水)：花巻農学校依願退職(3級俸130円給与岩手県)

□文部省告示第199号で農校甲種三年制認可

◇小遣いの中村賀志が学校においた賢治の本を2回に分けて運び、賢治は自分で彫刻した大黒天を記念として贈呈する

○清六(22歳)は陸軍歩兵少尉に任官(高等官8等,正8位)して除隊し、弘前から帰花する

■応募者111,入学者数50,卒業者44名

■白藤慈秀も花巻農学校を退職するが離任式は開催されなかった

◆賢治は大工2人を雇い、下根子櫻の別宅の畳の部屋を板張りに改造する《002-120》

羅須地人協会時代

1926:4月

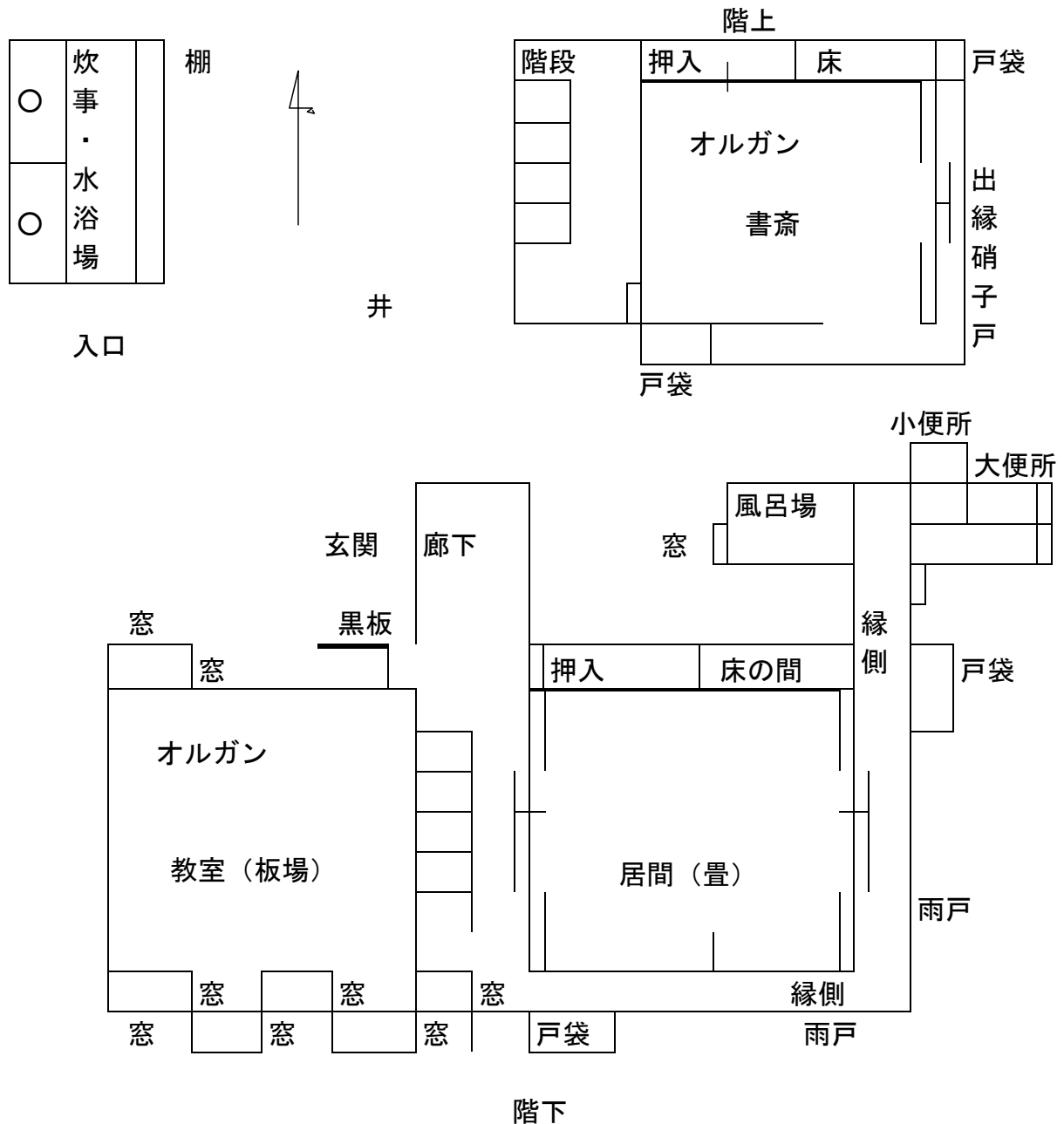
◆01日(木)：下根子櫻にある祖父の別荘で自炊生活と農耕を開始する。建物はほとんど全部の部屋に広いガラス窓があり、しかもその内側に障子が立ててあったため当時の貧しい農家に比べると、明るく暖かな住まいであった。広い庭には横浜の貿易会社に注文して外国から取り寄せたチューリップ、グラジオラス、ヒヤシンスなど当時では珍しい西洋の花々を植える。また家の壁にはツルバラを這わせる《001-182》別宅のある高台から300m先にある北上川沿いの畑では、トマト、ジャガイモ、トウモロコシを植え、当時は珍しかったチューリップやアスパラガスなどを畑の周りに植える。家の改修や、家の外に煉瓦を組んで炊事場を作り、自炊ができるようにする《002-122》当初は「農民芸術学校」と称する。「花巻川口町下根子に同志二十余名と新しき農村の建設に努力することになった。」「新しい農村の建設に努力する花巻農学校を辞した宮沢先生。」「きのう宮沢氏を尋ねると、現代の農村は確かに経済的にも種々行きつまっているように考えます。そこで少し東京と仙台の大学あたりで、自分の不足であった“農村経済”について少し研究したいと思っています。そして半年ぐらいはこの花巻で耕作にも従事し、生活即ち芸術の生きがいを送りたいものです。そこで幻灯会の如きは、毎週のように開催するし、レコード・コンサートも月1回くらい催したいと思っています。幸い同志20名ばかりありますので、自分が額に汗した努力で作上げた農作物の、物々交換を行い、静かな生活を続けてゆく考えです。と、語っていた。」【岩手日報朝刊】

○父(52歳)が町会議員当選する

□岩手県告示第150号をもって花巻農学校学則の修業年限を3年に延長

◆04日(日)：森佐一宛書簡「学校をやめて今日で四日木を伐ったり木を植えたり病院の花壇をつくったりしておました。もう厭でもなんでも村で働かなければならなくなりました。東京へその前ちょっとでも出たいのですがどうなりますか。」《003-126》

羅須地人協会間取図



■20日(火)：青年訓練所令公布

■28日(水)：賢治の後任として農高時代の同級生であり友人でもある工藤（佐々木）又治が教諭兼舎監として着任する

■盛岡に初めて方面委員（現民生委員相当）が置かれ、父・政次郎が常務委員に委嘱される

■花巻近郊の農村には「隠^{かくし}念仏」という宗教的^{かくし}秘密結社のようなものが存在し、根強い信仰があった。隠念仏とはクロボトケと呼ばれる親鸞像を本尊とする信仰で、岩手県地方を中心に広がるが、江戸時代には禁制とされた。人目を避けて儀礼を行うため秘事念仏とも

呼ばれ、他宗教に対して強い敵対意志を持っていた。法華経信仰の賢治が受け入れられないもう一つの素地があった《001-184》

■賢治教師時代の稗貫農学校志願者・入学者・卒業生の推移；

入学年	志願者数	入学者数	卒業年	卒業者数	備 考
大正 9	2 4	2 3	大正11	1 7	4 0名募集
大正10	5 2	4 3	大正12	3 0	
大正11	6 2	4 4	大正13	3 6	
大正12	9 4	4 2	大正14	3 4	この年より県立
大正13	9 4	4 5	大正15	4 0	50名募集
大正14	6 9	5 4	昭和 2	3 6	
大正15	1 1 1	5 0	昭和 3	4 4	

◆「ゆい」という部落の共同作業があるときに、参加できないときには賦役金を出して共同作業を免除してもらうが、賢治がすぐに金を出せることに地元の農民は反感を持つ《002-132》

1926:5月

◆02日(日)：詩『706 村娘』『709 春』【春と修羅 第三集】（大正15年4月～昭和3年7月の期間）《003-126》

◆15日(土)：詩『711 水汲み』《003-126》第1回レコード・コンサートを開催（ベートーヴェンの交響曲やバッハのオルガン曲）し、数人が集まる《002-122/003-128》

●清六、家業を相続する。古着・質屋商を廃業し、宮澤商会を開業する。鉄材・セメント・釘・針金などの建築材料、モーターなどの自動車部品、ラジオ等の電動器具を販売する《002-233/003-136》or 4月《002-137》

●宮澤商店（建築材料・自動車部品・ラジオ等の販売）開業

◆毎週土曜日の晩に、グリム、アンデルセンなどの童話を原著のままあるいは翻訳しながら（伊藤克己談）読み聞かせ、あるいは自作の童話を読み聞かせて子供らの批評を求める（伊藤忠一談）「子供会」を始める《002-124/003-130/131》

◆毎週火曜日の夜は部落青年6人前後で楽器練習会を開く《002-124/003-127》

楽団メンバー	第一ヴァイオリン	伊藤克己
	第二ヴァイオリン	伊藤 清 or 清一
	第二ヴァイオリン	高橋慶吾
	フルート	伊藤忠一
	クラリネット	伊藤与蔵
	オルガン、セロ	宮澤賢治《003-130》
時に	マンドリン	平 来作, 千葉恭
	木琴	渡辺要一

◆演奏に疲れたときには、地質学や肥料の話、詩や劇の話、思想家ラスキンにも話が及ぶ

1926:6月

- ◆18日(金)：詩『714 疲労』《003-128》
- ◆20日(日)：詩『715 〔道への粗朶に〕』『718 蛇踊』《003-128》
- ◆『農民芸術概論綱要』起稿《002-233》
- ◆国民高等学校の教え子・菊池信一が賢治の書いた地図を頼りに賢治を訪問する。陽にやけた顔，網シャツの下に見える黒い肩，蚊に刺されて黒い点いっぱいの腕，かかとの破れた靴下，その穴から見える大きな切り傷。「農学校と国高（註：国民高等学校）の卒業生の中からと，それに近在の篤農老青年を網羅し，尚（註：羅須地人協会の）設立の日を旧盆の十六日（註：8月23日）と決定し，爾後もその日を農民祭日として記念することなども語られた。」【菊池信一『石鳥谷肥料相談所の思ひ出』】羅須地人協会の構想を語り，「羅須」の意味は花巻を花巻と呼ぶように何の意味もないと説明する《003-128》昼には井戸につるした3日前の飯を椀に盛って暖めたみそ汁をかけて沢庵をおかずにして食べる《002-125》旧盆の16日に「羅須地人協会」を設立し，その日を「農民祭日」とすることを語る。

1926:7月

- ◆01日(木)：詩『春』【貌 7月号篇】《003-129》
- ◆08日(木)：詩『718 井戸』《003-129》
- ◆14日(水)：詩『728 風景』『727 〔アカシアの木の洋燈（ランプ）から〕』『728 〔サンズイ+聚〕雨（カダチ）はそそぎ』《003-129》

1926:8月

- ◆天候不順のために稲作指導に東奔西走する
 - ◆お盆の中日を農民祝日にしようとするが結局実現せず
 - ◆01日(日)：『心象スケッチ二篇』として『風と反感』，『「ジャズ」夏のはなしです』【銅鑼 7号】
- 口草野心平による評論『三人』には「現在の日本詩壇に天才があるとしたなら，私はその名誉ある「天才」は宮澤賢治だといひたい。世界の一流詩人に伍しても彼は断然異常な光を放つてゐる。彼の存在は私に力を与へる。…文壇の新感覚派の諸君は，諸君の先導を務めてゐる「春と修羅」1巻に習ふべき多くのものをもってゐる事を私は告げたい。」【詩神 2巻8号】《003-130》
- 06日(金)：NHK 設立ラジオ聴取者 35万人
 - ◆08日(日)：詩『730 〔おしまひは〕』《003-131》
 - ◆15日(日)：詩『730ノ2 増水』《003-131》
 - ◆20日(金)：詩『731 〔黄いろな花もさき〕』《003-131》
 - ◆23日(月)：旧盆の16日にあたる日に羅須地人協会を設立する。羅須は①修羅の逆読み，②アイヌ語の松の意味，③英語の Russia，④木摺壁の芯になる金網 Lath の意で協会が地と人を合流させ結びつける基礎になることから，⑤羅も須も教典によく出てくる字で意味のない合成語，⑥人名ラスキンに関わるとされ，地人は内村鑑三の「地学考」後の「地人論」に基づく。会員は最年長の佐々木円五郎（32歳）を含めて農校卒の若者 20人程度，月3回（10日、20日、30日）午前10時～午後3時に「農民講座」（農業化学、土壌学、

植物生理学、肥料学、エスペラント、地人芸術概論など)を行う。

◆27日(金): 詩『733 休息』『734 [青いけむりで唐黍^{とうきび}を焼き]』《003-131》

◆無料の農事講演や肥料設計事務所を開設《003-131》

◆『ワルツ第CZ号列車』【銅鑼6または8号】

◆花巻町と近郊数カ所に無料肥料設計事務所を開設

◆妹・シゲとその長男・純蔵, 末妹・クニと共に八戸鮫駅に旅行をする

◇陸奥館泊し夜の食事に出たウニに卵を絡ませた「カゼ」という料理に堪能する

◇2日目: 車で種差海岸に行き1日遊ぶ

◇3日目早朝: 浜で大きなアワビを数個購入。船でウミネコ繁殖地の蕪島^{かぶ}を訪れる(3日間)《003-131》

1926:9月

◆03日(金): 詩『735 饗宴』《003-132》

◆05日(日): 詩『736 [濃い雲が二きれ]』《003-132》

◆10日(金): 詩『738 はるかな作戦』《003-132》

□早稲田大学建築科の佐藤功一博士の設計による岩手県公会堂(盛岡市)が起工する。総工費43万8000円

◆13日(月): 詩『739 [霧がひどくて手が凍えるな]』《003-132》

◆23日(木): 詩『740 秋』《003-132》

1926:秋

◆川村尚三にレーニン『国家と革命』の教授を依頼し, 交換に土壌学を講じる《001-191》

1926:10月

◆01日(金): 詩『ワルツ第CZ号列車』【銅鑼第8号】《003-132》

◆09日(土): 詩『741 煙』『741 白菜畑』《003-132》

◆10日(日): 詩『742 圃道』《003-132》

■11日(月): 高村光太郎から水野葉舟宛書簡「宮澤氏からの本(註—【春と修羅】か?)」

先日女中さんに托しましたが, 此前の【注文の多い料理店】は黄瀛君^{こうえい}(註—銅鑼同人)に返却しなければなりませんから, お手許に出して置いて下さい」《003-132》

◆13日(水): 詩『743 [盗まれた白菜の根へ]』《003-132》

◆1月~: 【春と修羅 第三集】348編創作。

1926:11月

◆04日(木): 詩『744 病院』《003-133》

◆15日(月): 詩『745 [霜と聖さで畑の砂はいっぱいだ]』《003-133》

◆22日(月): 羅須地人協会定期集会の案内状(29日の講義と10年1日の定期集会)発送。案内状の書き出しに「今年は作も悪く, お互ひ思ふやうに仕事も進みませんでした, いづれ, 明暗は交替し, 新しいいゝ年歳も来ませうから, 農業全体に巨きな希望を載せて, 次の支度にかかりませう」《003-133》

◆29日(月)09時～15時：羅須地人協会で講義を開催する。「われわれはどんな方法でわれわれに必要な科学をわれわれのものにできるか」1時間と「われわれに必須な化学の骨組み」2時間である《002-139》「肥料原理習得上必須ナ物質ノ名称」などの謄写版刷り資料を配付。協会員・伊藤克己述「その頃の冬は楽しい集まりの日が多かった。近村の篤農家や、農学校を卒業して実際家で農業をやっている真面目な人々などが、木炭を担いできたり、餅を背負ってきたりしてお互先生に迷惑をかけまいと、熱心に遠い雪道を歩いてきたものである。…みんな丸い椅子に腰掛けたが、椅子の足りない時には蜜柑箱に腰を下したりして兎に角皆んな気楽にしてみた。部屋は階下の廊下の西側で壁には農学校の劇で使用した青色の木綿の幕を張って、縄で一尺位宛の間隔でそれを押へ、南と北はガラス窓で天井は高かった。床には防腐剤が塗ってあったため、いつまでもその匂いがしてあった。」(伊藤克己『先生と私達』)《003-133》

1926:12月

◆01日(水)13～16時：羅須地人協会定期集会を開催する《002-139/003-134》その内容は「冬間製作品分担の協議／製作品、種苗等交換売買の予約／新入会員に就ての協議／持寄競売…本、絵葉書、楽器、レコード、農具、不要のもの何でも出して下さい。安かったら引っ込ませるだけでせう。」《003-134》。詩『永訣の朝』【銅鑼 9号】《003-134》労働

農民党(略称・労農党)^{ひわ}稗和支部が党员30余名で結成される《003-134》シンパとして精神的、経済的に協力して本家・宮右の長屋を党事務所として斡旋し、保証人になる《003-134》机、椅子や謄写版を寄付し、八重樫賢司を通して毎月その運営費のようにして家賃まで出して金円のカンパをして応援する。実質的な中心人物となる《001-191/003-134》

◆02日(木)：170円で購入したセロとカバンを持って地人協会から花巻駅に直行する。愛弟子・沢里武治が花巻駅まで見送る。東京での滞在費用200円を政次郎に無心する《002-134/003-135》

◆03日(金)夕：東京に到着する。東京神田錦町3丁目19番地上州屋2階6畳に下宿する
◆父宛書簡「毎日(註：上野)図書館に午後2時頃まで居てそれから神田へ帰ってタイピスト学校(註：東京YMCAタイピスト学校でタイプライターの個人授業)数寄屋橋側の交響楽協会(註：NHK交響楽団の前身の新交響楽団の練習所)とまわって教わり(註：オルガンの練習)午後5時に丸ビルの中の旭光社というラヂオの事務所で工学士の先生からエスペラントを教はり《002-136》、夜は帰って来て次の日の分をさらひます。」《003-134》アルス版『西洋音楽講座』中の平井保三著『ヴィオロン・セロ科』の必要な部分を筆写する

◆チェロを大津三郎(荏原郡調布村=現大田区千鳥町)に指導を受ける。第1日目は楽器の部分名称、調子の合わせ方、ボーイング。第2日目はボーイングと音階。第3日はウェルナー教則本第1巻の中の易しい曲の弾き聞かせ。お別れの茶話会で「どうしてこんな無理なことを思い立ったか。」と尋ねたら、「エスペラントの詩を書きたいので、朗読伴奏にと思ってオルガンを自習しましたが、どうもオルガンよりもセロの方がよいように思いますので。」と答えた。賢治のセロの腕は音階すら危ういという程度であった

◆12日(日)：YMCAタイピスト学校で知り合ったインド人シーナの紹介で東京国際倶楽部に出席し、フィンランド公使ラムステット博士と農村問題・方言について談話する。この

公使から「やっぱり著述はエスペラントによるのが一番だ。」と言われたことが直接のきっかけでエスペラントを習得しようとする《003-135》

◆父にさらに200円送金するように頼んでいるが、さすがに気が引けたらしく父宛書簡に「1時間も無効にしては居りません。音楽まで余計な苦勞をするとお考へでありませうがこれが文学殊詩や童話劇の詞の根底になるものでありまして、どうしても要るのであります。…けれどもいくらわたくしでも今日の時代に恒産がなく定収のないことがどんなに辛くひどいことか、むしろ大きな不徳であるやうのことは1日1日に身にしみて判って参りますから、いつまでもうちにご迷惑をかけたりとあとあとまで累を清六や誰かに及ぼしたりするやうなことは決していたしません。」《003-135》

◆18日(土)：本郷区駒込千駄木林町155番地にある高村光太郎(43歳)のアトリエを訪問し、先客の手塚武(【銅鑼】同人)と共に語り合い、夕方に上野の聚楽で鍋をつつきながら芸術について語り合う《003-135》or時間がなく玄関先で立ち話をして光太郎が「是非ゆっくり話し合いをしたかった。明日また来てくれ。」と頼み、賢治は「それでは後でまた参ります。」と丁寧に挨拶をして去った

◆築地小劇場でゴーリキーの「どん底」や歌舞伎座で観劇する《002-136》

◆20日(月)：賢治から名画の複製57葉と額縁大小2個が農学校に寄贈される

■25日(土)：天皇崩御(48歳)し、昭和と改元《003-136》

◆29日(水)：東京発帰花

1927(昭和2年)年 31歳

◆立松房子という東京の音楽家が、判事の夫が職務上の事件を起こしたことで夫を助けるための地方巡業として、花巻の朝日座で音楽会を開いた折、少女から手渡された花束(花にアスパラガスをあしらったもの)は賢治の手作りのものであった

◆『なめとこ山の熊』

1927:1月

◆『序』【春と修羅 第二集】

◆01日(土)：『陸中挿秧之図』【無名作家 2巻4号】(高涯幻二編集発行)、「国語及びエスペラント 音声学」「本年中セロ1週1頁 オルガン1週1課」【手帳断片A】《003-138》

◆10日(月)10時～15時：羅須地人協会講義「農業に必須な化学の基礎」《003-138》

◆20日(木)10時～15時：羅須地人協会講義「土壌学要綱」《003-138》

◆30日(日)10時～15時：羅須地人協会講義「植物生理要綱 上部」《003-138》

口草野心平、彼の夢想する「宮澤農場」(羅須地人協会)で働かせてもらうつもりで家出するが、新潟行きの列車に乗って賢治との邂逅は実現しなかった《003-139》

1927:2月

■01日(火)：「農村文化の創造に努む／花巻の青年有志が／地人協会を組織し／自然生活

に立返る 花巻川口町の町会議員であり且つ同町の素封家の宮澤政次郎氏長男賢治氏は今度花巻在住の青年三十余名と共に羅須地人協会を組織しあらたなる農村文化の創造に努力することになった地人協会の趣旨は現代の悪弊と見るべき都会文化に対抗し農民の一大復興運動を起こすのが主眼で…これと同時に協会員全部でオーケストラを組織し、毎月二三回ずつ慰安デーを催す計画で羅須地人協会の創設は確かに我が農村文化の発達上大いなる期待がかけられ、識者間の注目を惹いてゐる。」と顔写真入りの記事【岩手日報 タ刊二面】《003-139》

◆2月《002-233》or 3月：社会主義教育の疑いで花巻警察署に呼び出され、数回の事情聴取を受ける。その後は楽団を解散して、集会も不定期となる。専ら肥料相談に限られるようになる《003-128/003-139》

◆新聞記事に感動した高等農学校後輩の松田甚次郎が賢治を訪問し、賢治から「小作人たれ、農村劇をやれ」と励まされる

◆10日(木)10時～15時：羅須地人協会講義「植物生理要綱 下部」《003-138》

◆12日(土)：詩『1001 汽車』《003-139》

◆18日(金)：詩『1002 [氷のかけらが]』『1003 実験室小景』《003-139》羅須地人協会に対する一農民の激励投稿【岩手日報】

◆20日(日)10時～15時：羅須地人協会講義「肥料学要綱 上部」《003-138》

◆21日(月)：詩『冬と銀河ステーション』【銅鑼 10号】《003-139》

◆28日(月)10時～15時：羅須地人協会講義「肥料学要綱 下部」《003-138》

◆『1003 [ソックスレット]』《003-139》

■田中義一内閣の治安維持法下

◆羅須地人協会では、必需品の自給自足を志し、農民服の研究、木琴やルパシカ（労働服）の制作、帽子の制作、木工・衣服の修理制作、食料品の加工、美術工芸品の製作などを行い、生産協同体を目指す

■茨城県友部に日本国民高等学校開校、校長加藤完治

1927:3月

◆04日(金)：詩『1004 [今日は一日明るくにぎやかな雪降りです]』《003-140》

◆15日(火)：詩『1005 [鈍い月明かりの雪の上に]』『1006 [こんやは暖かなので]』《003-140》

◆16日(水)：詩『1007 [たんぼのなかの稲かぶり八列ばかり]』『1008 [赤い尾をしたレオポルドめが]』『1008 [土も掘るだろう]』『[いろいろな反感とふぶきの中で]』《003-140》

◆19日(土)：詩『1009 運転手』『1010 [火がかがやいて]』『1011 [ひるすぎになってから]』《003-140》

◆21日(月)：詩『1012 [甲助 今朝まだくらあに]』『1013 [洪積世が了って]』《003-140》

◆23日(水)：詩『1014 春』『1015 [バケツがのぼって]』《003-140》

◆26日(土)：詩『1016 [黒つちからたつ]』《003-140》

◆27日(日)：詩『1017 開墾』《003-140》

◆28日(月)：詩『1018 [黒と白との細胞のあらゆる順列をつくり]』『1019 札幌市』

『1020 〔労働を嫌忘するこの人たちが〕』 『1021 〔あそこにレオル星座が出てる〕』
《003-140》

◆31日(木)：詩『〔いくつの天末の白びかりする環を〕』 《003-140》

◆月末：藤原と二人で東京に夜行でイタリアオペラを観に行こうと計画するが、時計を質に入れようとするが資金繰りがつかず前沢駅で途中下車して花巻に戻る。夕刻、残念会のつもりで夕食をとるため洋食屋に入った。そこで2,3人の女給の中に岩手弁とは違う歯切れのよい丸顔の女給(かよ子)がおり、藤原が好意を寄せたようであったため賢治が結婚を斡旋する約束をする《004-139》

◆上旬：『早春について』（場所は横黒線の和賀仙人か岩手軽便鉄道沿線）

◆花巻温泉南花壇の造園

◆羅須地人協会で「地人芸術概論」を講義する。伊藤忠一談「先生は、要項だけボードに書き、まだ草案に過ぎないから、筆記してはいけないと申され、当時の私には、この講義はむづかしすぎて途中でみねむりしたりしてみたのですから」《003-141》

◆桜の家に一泊した白藤滋秀述「開放された座敷の中に横臥してみれば、野天に寝たも同様で空の星影もきらきら光って見える、宮澤さん何だか童話の世界にあるやうな二人ですねといふた時、彼も思はず苦笑してゐた、…朝起きると二人で分担して私は掃除を受持ち彼は朝食の用意にかゝつた、二、三十分も経ぬに用意完了といふ、…お飯なら心配はない、沢山あるといふて裏の井戸端に行き釣瓶を引き上げた時、ザルも一緒に釣りあがってきた、ザルの中にお飯が入ってゐる、…彼は得意の面持ちで例の料理論を説いて料理は結局水に

味を付けたものですよと言ふてゐた、…お皿には高^ち苣^さにソースをかけ、他のお皿には何があつたか記憶はないが兎に角簡素であつたことは忘れない、…併し彼のやうに、心身酷使をする人の生活は、これでエネルギーの補強工作出来得るものか甚だ疑はしい、…元来頑健な恵まれた体格も、斯うした無理を加へて死を早めたでないかと思ふと、彼れの無謀的な実行力の余りにも強かつたことを、嘆かずには居られない。」《003-140》

◆平来作述「昼飯時間となった。先生はしばに赤くなって居るトマトを四つ五つナイフでとって私にくれた。そして先生は井戸から飯をとりあげ井に盛って醤油をかけ、そして私にすゝめるので二人で食べた事がある。」【ありし日の思ひ出】《003-142》

◆菊池信一述「一坪の台所で焦げた冷めたい御飯に汁を灌ぎそそぎ碎き乍、原形そのままの沢庵漬けを左手に囓りかじり、美味しかった夕飯を戴いて。」【石鳥谷肥料相談所の思ひ出】

◆佐藤隆房述「納豆を買ってきた時は納豆ばかり、豆腐を買ってきた時は豆腐ばかり、何もない時は醤油をかけて御飯を食べました。…叔母さんは、賢治さんに『賢さん、お前、も少し、滋養のあるものをとらないと、身体に悪いもな。』と申しますと、笑いながら答えました。『僕は茄子の漬物が好物でね、それさえあれば、何もいらぬもす。』五本も六本も食べます。…家では皆々が心配して、何か食物をこしらえて持って行ってやろうとするのですが、百姓と同じく暮らしたい賢治さんは、それを好みませんでした。」【宮澤賢治】

1927:4月

■高村光太郎【ロダン】刊行《003-148》

- ◆01 日(金) : 詩『1022 〔一昨年四月来たときは〕』《003-142》
- ◆02 日(土) : 詩『1023 〔南からまた東から〕』『1024 〔ローマンス〕』《003-142》
- ◆04 日(月) : 詩『1025 〔燕麦の種子をこぼせば〕』《003-142》
- ◆05 日(火) : 詩『1027 雑草』『1029 〔あんまり黒緑なうろこ松の梢なので〕』『1030 春の雲に関するあいまいなる議論』《003-142》
- ◆07 日(木) : 詩『1031 〔あの大もののユークシャ豚が〕』《003-142》
- ◆08 日(金) : 詩『1033 悪意』『1034 〔ちゞれてすがすがしい雲の朝〕』《003-142》
- ◆09 日(土) : 花巻温泉遊園地事務所の^{とみてはじめ}富手一に南斜花壇の設計書と所要種苗表を送る
《003-142》
- ◆11 日(月) : 詩『1035 〔えい木偶のぼう〕』『1036 燕麦播き』《003-142》
- ◆13 日(水) : 詩『1037 宅地』『1038 疑う午』《003-142》
- ◆18 日(月) : 詩『1039 〔うすく濁った^{あさぎ}浅葱の水が〕』《003-142》
- ◆19 日(火) : 詩『1040 〔日に暈ができ〕』『1041 清潔法施行』《003-142》
- ◆20 日(水) : 詩『午』《003-142》
- ◆21 日(木) : 詩『1042 〔同心町の夜あけがた〕』『1043 市場帰り』《003-142》
- ◆屋間は協会の崖下の畑を自分で耕し、主に野菜や花を栽培した。また作物をレアカーに乗せて、花巻の町に売りに行ったが、売れ行きはかんばしくなかった。また近くの村へ農事講演や肥料相談に出かけることも多かった《003-128》
- ◆22 日(金) : 詩『1044 〔青ぞらは〕』《003-142》
- ◆24 日(日) : 詩『1045 〔桃いろの〕』《003-142》
- ◆25 日(月) : 詩『1046 悍馬』『1047 〔川が南の風に逆らって流れてゐるので〕』《003-142》
- ◆26 日(火) : 詩『1046 〔レアカーを引きナイフをもって〕』『1049 基督再臨』《003-142》
- ◆28 日(木) : 詩『1050 〔何もかもみんなあしくじったのは〕』『1051 〔あっちもこっちもこっちもこぶしのはなざかり〕』《003-142》

1927:5月

■関東軍に出動命令。《003-148》

◆本年は多雨寒冷の典型的な凶作型天候に見舞われ、盛岡測候所の記録を調べて対策を練り、肥料設計、稲作指導に奔走し、肥料設計書は2000枚を越える

◆03 日(火) : 詩『1053 〔おいけとばすな〕』『1054 〔向と云はれても〕』『1055 〔こぶしの咲き〕』《003-144》

◆07 日(土) : 詩『1056 〔秘事念仏の大元締が〕』この大元締は詩『憎むべき「隈」弁当を食う』の隈と同一人物で、「賢治に対する反感の奥に、どすぐろい宗教上の対立意識があり、その一党が、隠念仏の信仰者たち（親鸞像をクロボトケとして信仰し、飛田三郎によると^{ひたち}常陸（茨城県）から水沢を経て岩手県地方に広がったもの）だったということであ

る」(森荘巳池『宮沢賢治の肖像』)『1057 〔古びた水いろの薄明穹のなかに)』《003-144》

◆09日(月):詩『1058 電車』『1059 〔芽をだしたために)』『1059 開墾地検察』『1061 〔ひわいろの笹で埋めた嶺線に)』『1063 〔これらは素樸なアイヌ風の木柵であります)』《003-144》

◆12日(木):詩『1064 〔失せたと思ったアンテリウムが)』『1065 〔さっきは陽が)』『1066 〔今日こそわたしに)』《003-144》

◆13日(金):詩『1067 鬼語四』『1068 〔エレキや鳥がばしやばしや翔べば)』『1069 〔すがれのら萱を)』《003-144》

◆19日(木):詩『1070 科学に関する流言』《003-144》

◆月末:花巻南斜花壇に花の苗植える《003-144》

1927:6月

◆01日(水):詩『1071 〔わたしどもは)』『1072 〔県技師の雲に対するステートメント)』『1073 鉱山駅』『装景家と助手との対話』《003-145》『装景手記』

◆12日(日):詩『1074 〔青ぞらののはてのはて)』《003-145》

◆13日(月):詩『1075 嚙語』『1076 嚙語』《003-145》

■15日(水):岩手県公会堂が盛岡市に落成

◆29日(水):『ポラーノの広場』4章に同日。エスペラント風の地名としてモリーオ(盛岡), センダード(仙台), サーモ(鮫), シオーモ(塩釜), トキーオ(東京)などがある《003-96》

◆30日(木):詩『1077 金策』《003-145》

◆肥料設計 2000 枚を書く。

1927:夏

◆下根子櫻の近くに住む小学校教師でクリスチャンの高瀬露が1日に3回も訪問するようになる。当初は洗濯や買い物など、賢治の世話をしたが、賢治に好意を寄せるようになる。ある日、肥料設計の相談に高橋慶吾が2, 3人の農民と共に協会を訪れ、二階で相談しているときに、関登久也述「みんなで二階で話していると、彼女は手料理のカレーライス運びはじめた。賢治は困惑した。賢治は『この方は小学校の先生です。』とみんなに紹介し、カレーをすすめたが、自分は『私にはかまわないで下さい。私には食べる資格はありません。』といい、食べようとしない。女性は不満をあらわにして、階下に下り、オルガンをひきだした。賢治は堪えかねて階下に下り、『やめて下さい。みんな昼間は働いているのですから。』とたしなめたが、音は止まらなかった。二階にもどった賢治は、めったにあらわしたことのない不快な怒りを表情や動作にもあらわしていた。」【賢治随聞】《001-42/003-147》

◆高橋慶吾談「先生はあの人(=高瀬露)の来ないようにするためにずいぶん苦労された。

門口に不在と書いた札をたてたり、顔に灰を塗って出たこともある。そしてご自分を頼病だといっていた。」《003-147》

1927:7月

■島地大等没《003-148》

- ◆01日(金)：詩『1079 僚友』《003-145》
- ◆07日(木)：詩『1080 [さわやかに刈られる芦や]』《003-145》
- ◆10日(日)：詩『1081 [沼のしずかな日照り雨のなかで]』『1082 [あすこの田はねえ] (稲作挿話)』《002-233/003-145》
- ◆14日(木)：『和風は河谷いっばいに吹く』
- ◆24日(日)：詩『1084 [ひとはすでに二千年前から]』『1085 [積乱雲一つひかって翔るころ]』《003-145》

1927:8月

- ◆16日(火)：詩『1086 ダリア品評会席上』《003-146》
- ◆中旬：詩『1020 野の師父』《003-146》
- ◆20日(土)：詩『1021 和風は河谷いっばいに吹く』『1088 [もうはたらくな]』『1088 祈り』『1089 [二時がこんなに暗いのは]』『1090 [何をやっても間に合わない]』《003-146》
- ◆21日(日)：『或る農学生の日記』
- ◆松田甚次郎が賢治を訪問して農民劇の指導を受ける
- 24日(水)：妹シゲ長女出産
- ◆2月～：【春と修羅 第三集】の詩 80 編創作

1927:9月

- ◆01日(木)：『イーハトヴの氷霧』【銅鑼 第12号】《003-147》
- 10日(土)：松田甚次郎、農民劇を実演
- ◆16日(金)：詩『1092 藤根禁酒会へ送る』《003-147》
- ◆羅須地人協会の畑でとれたレタス、セロリ、アスパラガス、パセリ、トマト、白菜、甘藍等を当時は高嶺の花であったリヤカーで知人に販売《001-183》
- ◆上京
- ◆詩『自働車群夜となる』

1927:10月

■農民文芸機関誌【農民 創刊】《003-148》

1927:11月

- ◆or 9月末：藤原嘉藤治の結婚式を取り仕切る《003-147/004-140》藤原嘉藤治談「(レストランの)私達の席に出てきた女給をみて、私が何気なく、『この人はぼくの好きなタイプの女性だ。』といました。そしたら宮沢さんが、『好きなら結婚しろ、ここでハッキリ返事しろ。』というのですね。そのころ、私はひどい問題にぶつかっていました。といいますのは、私の教え子の一人に、とても頭のよい子がおりました。…その生徒の前の先生が、東京からやってきて、『藤原と、その女生徒が怪しい関係にある。』と、県庁の学務部に手紙で投書したのです。…その中傷の痛手から、私は苦しみ悩んでおりました。私が

臨んでいるそういう立場なども考えて、とっさのことに、宮沢さんがいい出したことなのです。…宮沢さんは、たちまちのうちに、間もない日曜日に、弘前の彼女の家までいってくれました。…当時県立高等女学校の先生が、女給と結婚するというのは大問題で、町中は寄ると触ると話し合っていたのだそうです。」《003-148》白藤慈秀談「はじめ宮沢さんは、青天井の下の川原で結婚式をやろうなどといっていました。…盛岡の私のところで式をあげました。式の万端、花婿花嫁、親戚の者などの座る位置や扇の果てまで、宮沢さんが、さいはいをふって、ちゃんと滞りなくすませました。」（森莊巳池【宮沢賢治の肖像】）《003-148》賢治は祝い金として5円を包むが、藤原はリンゴ40個の入った籠1つを返礼とした《004-140》

1927:12月

◆21日(水)：「冬二篇」として詩『奏鳴四一九』『銀河鉄道の一ヶ月』【盛岡中学校校友会雑誌 1927年集第41号】《003-148》

◆童話『或る農学生の日誌』

◆『生徒諸君に寄せる』

1928 (昭和3年) 年 32歳

◆春：藤原嘉藤治が水沢町の豪農伊藤七雄と妹ちえを同行して羅須地人協会を訪問

■盛岡市戸数 9,949 戸、人口 53,294 人 《003-24》

1928:1月

◆肥料設計と作詞継続

◆大正 15 年 4 月～昭和 3 年 7 月：【春と修羅 第三集】

◆過労と自炊による栄養不足と身体衰弱

1928:2月

◆01日(水)：『氷質のジョウ談』【銅鑼 13号】《003-150》

◆初旬：労農党稗貫支部へ謄写版 1 式と金 20 円を寄付する《003-134》

◆09日(木)：湯本小学校の農事講演会に出席《003-150》

羅須地人協会時代の肥料設計所や農事講演会を行った場所と人；

期日	場所	協力者
不明	十二箇村（東和町成島）	藤原嘉藤治
昭和3年 2月9日	湯本小学校（花巻市湯本）	伊藤庄左右衛門 高橋雄次郎 平来作
昭和3年 3月15日～27日	好地村塚根 （石鳥谷町好地）	菊池信一
不明	湯口村鍋倉宝閑小学校 （花巻市湯口）	斉藤弥総

不明	湯本村大瀬川 (花巻市湯本大瀬川)	板垣亮一 菊池信一
不明	根子村西一二丁目 (花巻市一二丁目)	伊藤清一
不明	湯本村狼沢 (花巻市湯本)	高橋久之丞
不明	花巻下町宮右商店 (花巻市上町)	鎌田喜代二 (田力) 他6名 似内庄左右衛門 (似内) など 参加
不明	矢沢村母衣輪 (花巻市高松)	川村秀郎
不明	花巻町新田 (花巻市新田)	平賀伊勢蔵

- 20日(月)：第1回普通選挙投票日 (25歳以上の男子が選挙資格を持つ)
- 労農党稗貫支部長の泉国三郎が立候補して善戦するも次点に終わる
- 投票結果、京都の水谷長三郎、山本宣治の2名が当選

1928:3月

- ◆08日(木)：詩『稲作挿話 (未定稿)』【聖燈 創刊号】《003-150》
- ◆15日(木)08時～16時～22日：教え子菊池信一の依頼で石鳥谷町塚の根肥料相談所で肥料設計《003-150》
- ◆30日(金)07時30分：石鳥谷町塚の根肥料相談所 (照井源三郎の世話で店の八畳間と土間を会場)で肥料設計
- ◇13時：稲作と肥料の講演《003-151》
- 共産党員大検挙《003-161》

1928:4月

- ◆佐藤文郷述「…冬閑には農家の希望によつて学術講演に近村に出かけて殆ど寧日がないとか、而して決して謝礼を受けない、…数日前君の所謂店を訪問したるに箱の様な代用机三四脚の腰掛け其処で十四五名の農家は順番に設計の出来るのを待って居つた、非常に丁寧な遠慮深い農家達だと思つたに、是は皆な無料設計で用紙なども自宅印刷なのであつた。自己を節するに勇敢で他に奉ずる事に厚いと噂に聞いて居る宮澤君は世評の如く誠に飾らざる服装で如何にも農民の味方の感があつた。」(「農界の特志家／宮澤賢治君」)【岩手県農会報 188号】《003-151》
- 10日(火)：田中義一内閣が労働農民党など3団体の解散命令を出し、花巻宮沢町の労農党稗貫支部事務所も閉鎖《003-151》
- ◆12日(木)：詩『台地』《003-151》
- 国柱会の妙宗大霊廟落慶式
- ◆妙宗大霊廟に宮澤トシ安置

- ◆07日(木)06時35分：花巻発
- ◇10時54分：仙台着。東北産業博覧会を見学。東北帝国大学界限を散策。古本屋で浮世絵を漁る
- ◇夜：仙台駅で父へ書簡
- ◇23時：仙台発《003-153》
- ◆08日(金)05時04分：茨城県水戸に到着し、偕楽園を見学する
- ◇08時：県立農事試験場に立ち寄り、練習生制度を調査する《003-153》
- ◇夕：東京着。神田錦町の上州屋で宿泊する《002-145》
- ◆09日(土)：水産物調査
- ◆10日(日)：水産物調査
- ◇築地小劇場でゴオリキイ『夜の宿（どん底）』観劇
- ◇『高架線』
- ◆11日(月)：水産物調査
- ◆12日(火)朝：父宛書簡「わたくしはお蔭で^{するめ}鰯の方の調べは大てい済み方法も前の考と大した相違なく充分やれる確信がつかしました。次は昆布と松の葉、それから例の味噌ですが松の葉だけは今度はできないかもしれません。…今日一日泊まりで大島へ行って参ります。」《003-153》東京築地の霊岸島から伊豆大島行きの船に乗船する
- ◇14時過ぎ：大島元町に到着する。切符売り場の横にある案内書で手帳にメモしておいた伊藤宅の住所を尋ねる。伊藤七雄と妹・ちゑを訪問する
- ◇夜：ちゑの手料理を食べる《002-145》
- ◆13日(水)：大島農芸学校開校のための助言指導。詩『三原三部』
- ◆14日(木)午後：東京行き乗船《003-155》
- ◆15日(金)：上野公園の帝国図書館。上野公園内の府立美術館で開催中の「御大典記念徳川時代名作浮世絵展覧会」を見る。新橋演舞場で観劇。詩『浮世絵展覧会印象』《003-155》
- ◆16日(土)：帝国図書館
- ◆17日(日)～18日：帝国図書館
- ◆18日(月)：帝国図書館。詩『丸善会場喫煙室小景』《003-155》
- ◆19日(火)：農商務省。詩『神田の夜』《003-155》
- ◆20日(水)：農商務省。市村座で観劇
- ◆21日(木)：帝国図書館。浮世絵展覧会。本郷座と明治座で観劇
- ◆上京中に詩『自働車群夜となる』『公衆食堂（須田町）』『孔雀』『恋敵ジロフォンを撃つ』『光の渣』【東京ノート】《003-155》
- ◆23日(土)夜：東京発
- ◆24日(日)：花巻帰着
- ◆伊豆大島から帰って賢治は藤原嘉藤治に「危なかった。全く神父セルゲイの思いをした。指は切らなかったがね。おれは結婚するとすれば、あの女性だな。」と報告する
- ◆伊豆大島訪問の少し前に、藤原嘉藤治に理想の女性像を話す。「新鮮な野の食卓にだな、

露のように降りてきて、挨拶を取り交わし、1碗の給仕をしてくれ、すっと消え去り、また翌朝やってくるといったような女性なら、僕は結婚してもいいな。時にはおれのセロの調子外れを直してくれたり、童話や詩を聞いてくれたり、レコードの全楽章を辛抱強くかけてくれたりするんなら申し分がない。」と恐ろしく身勝手な女性像を述べている

1928:7月

◆20日(金): 詩『停留所にてスキトンを喫す』《003-157》

◆24日(火): 詩『穂^{すいよう}孕期』《003-157》

◆駆除予防法を教示するために農村指導に奔走。疲労困憊して風邪で高熱

◆肥料設計継続

■藤原夫妻に長女誕生《004-141》

◆藤原家に蚊帳がないということで賢治の家の古い蚊帳を届ける《004-141》

■旱天が続く、陸稲・野菜類は全滅。井戸まで枯れる早魃。稲熱病が発生

■張作霖爆死事件《003-161》

■治安維持法に死刑・無期刑を追加した改正《003-161》

1928:8月

◆気候不順で稲作を心配し昼夜わかたづ農村を巡回する中、夕立に濡れ風邪を引く

■40日以上早魃で凶作

◆08日(水): 佐々木喜善宛書簡「旧稿(註:【月曜】に発表した『ざしき童子のはなし』)ご入用の趣まことに光栄の至りです。あれでよろしければどうなりとお使ひください。前々森佐一氏等からご高名は伺って居りますのでこの機会を以てはじめて透明な尊敬を送りあげます。」《003-158》

◆10日(金): 「八月疾ム」の記載【文語詩篇ノート】《003-158》

◆~昭和4(1929)年夏頃: 病臥の中で『疾中詩篇』を執筆《003-161》

◆花巻病院入院し佐藤長松博士が「両側肺浸潤」と診断し、帰宅し別棟で療養することになり、羅須地人協会活動は終了《003-159/159》

闘病時代

1928:9月

◆05日(水): 妹・クニ(21歳)が県庁教育課勤務の刈^{かりや}屋主計と養子縁組をする。縁談の取

り決めのため下^{しもへい}閉伊の刈屋に行った帰り、宮古街道を盛岡に向かって歩いていたが、途中で後ろから来たトラックに便乗する。危険な予感に襲われ、小さな青鬼、赤鬼、白鬼などが見え、運転手にトラックを止めるよう頼むが、運転手は聞き入れずに走り続ける。谷底を見ると3メートルもある手の平が白光を放ちながらトラックを支えているのが見え、観音様の手と思った途端に手が消え、思わず「危ない!」と怒鳴り、運転手がトラックから飛び降りるとトラックだけが谷底に落下した。この時賢治は風邪から肺炎になりそうときで39~40℃近くの熱があり、後に賢治は幻覚であったと森佐一に述べている《001-214》

■14日(金)：雨が降る

◆22日(土)：起床。解熱と入浴(実家)

◆23日(日)：沢里武治宛書簡「八月十日から丁度四十日の間熱と汗に苦しみましたが、やっと昨日起きて湯にも入り、すっかりすがすがしくなりました。六月中東京へ出て毎夜三四時間しか睡らず疲れたまゝで、七月畑へでたり村を歩いたり、だんだん無理が重なってこんなことになったのです。」《003-158》

1928:10月

◆24日(水)：一時期、下根子に所在。

◆前橋にいる草野心平から電報「コメーピョウタノム」《003-159》草野心平宛返信「目下親の庇護を受けている身分で、米一俵というわけにはいかないので、『造園学』という大冊を送るのでそれを処分して足しにして欲しい。」《003-160》

1928:12月

■凶作

◆21日(金)：実家にて急性肺炎で38℃発熱し臥床する。《003-160》花巻共立病院から派遣された18歳の安藤ノブ(後姓中村)が昭和4年1月半ばまでの1ヶ月半看護した。弟

の清六に物置から持参させた『春と修羅』と枕元においていた『実験^か花卉園芸』(上巻—大正5年6月初版発行/下巻—盧貞吉著大正5年12月発行/続篇—宮澤文吾・盧貞吉著大正6年10月発行、いずれも発行所は書肆裳華房)の4冊の本をお礼として安藤に差し出した。安藤の後に病院から派遣された看護婦は白鳥ミサオであった

◆高橋慶吾述「当分の小生には農業生産の増殖と新たなる時代の芸術の方向の探索に全力を挙げ居り、右二兎を追って果たして一兎を得べきや覚束なき次第、この上の社会事業の能力は当分の小生には全く無之。」と高橋の「社会事業」の申し出を断る《003-160》

1929(昭和4年)年 33歳

■岩手県、例外大凶作《004-5》早魃

◆末：高瀬露宛書簡「あなたが根子へ二度目においでになったとき私が『もし私が今の条件で一身を投げ出してゐるのでなかったらあなたと結婚したかも知れないけれども。』と申しあげたのが重々私の無考でした。」《003-146》

1929:1月

■労農大衆党結成《003-170》

◆メモ『一月 肺炎』に「淋シク死シテ淋シク生マレン」と書き、後に消す【文語詩篇ノ一ト】《003-166》

1929:2月

●15日(金)：妹・クニ、長女を出産

◆詩『一九二九年二月』この詩を書いた用紙の表側に、詩「そしてわたくしはまもなく死ぬのだらう/わたしといふのはいったい何だ/何べん考へなほし読みあさり/さうともき

ゝかうも教へられても／結局まだはつきりしてゐない／わたしといふのは」を書きかけて
中断《003-166》

◆「帰命妙法蓮華経 生もこれ妙法の生 礼もこれ妙法の死 今身より仏身に至るまでよく
持ち奉る」

1929:春

◆鈴木東蔵, 上町の渡嘉肥料店で賢治のことを聞き, その足で病中の賢治を見舞い, 30分
も話し合う《002-158》しかし種々の資料から鈴木東蔵との交流は昭和4(1929)年12月か
らと考えられている《003-167/168》

1929:4月

■共産党員弾圧大檢舉《003-170》

◆28日(日): 詩『夜』《003-167》

●月末: 政次郎, 花巻川口町合併(人口 13,861 人/戸数 2,656 戸)後の町議選選挙落選
《003-167》

●父が旧花巻町合併の功労者として町長より表彰

◆【銅鑼】の同人で中国の詩人でしかも陸軍士官学校生・黄瀛^{こうえい}が卒業旅行で立ち寄った花
巻温泉を抜け出して賢治の家を訪問し, 半時間ほど話しをする。「人力車にのって小一時
間の後, 大きな金物屋が彼の家であった。…私は五分間だけといふ条件つきで宮沢君と面
会した。その時既に宮沢君は何度かの病気で, 危篤から少しよくなった時だといふことを
きゝ乍ら…私はすぐ帰ろうと思ったら, 弟さん(?)が出てきて, 本人が是非とほせといふ
からと云ふので, 宮沢君の病室へはいつた。…五分間がすぐ立つのを気にして私が立とう
としたら, 彼は何度も引き留めて私達は結局半時間も話したやうだ。それも詩の話よりも
宗教の話が多かった。私は宮沢君をうす暗い病室でにらめ乍ら, その実はわからない大
宗教の話聞いた。とつとつと話す口吻は少し私には恐ろしかった。宮沢君の生理的に不
健康な姿に正対して, 私はそのあとで何を話したか覚えてゐない。」【南京より】《001-
220/003-167》

1929:5月

●04日(土): 妹シゲが次女出産

1929:7月

●父が小作調停委員に選任

1929:8月

◆病状やや快方に向かうが, 臥床のまま文語詩の創作を始める

1929:9月

◆18日(水): 斎藤貞一宛書簡「近日漸^{ようや}くに病勢怠り多少の仕事も致し居り候。」《003-
169》

1929:10月

■世界大恐慌始まる《003-170》

1929:11月

■労農党結成《003-170》

◆『稲作挿話（未定稿）』【新興芸術創刊号】（昨年発表した【聖燈】の発行者が新しく始めた雑誌に転載したもの）

1929:12月

◆? : 小笠原（旧姓：高瀬）露宛の書簡

◆12日(木) : 鈴木東蔵が書いた「石灰石分」の広告原稿の添削を依頼され、「肥料用炭酸石灰に就いて」と題して書き改めた原稿を送り返す《003-169》

◆24日(火) : 佐々木喜善^{ささききぜん}へ原稿を送る《003-169》

1930（昭和5年）年 34歳

1930:1月

◆01日(水) : 冨手一宛書簡「お蔭^{マツ}で療りました。」《003-172》

◆26日(日) : 菊池信一宛書簡「私もう癒りまして起きて居ります。」《003-172》

■金輸出解禁《003-180》

■一般物価大暴落, 昭和恐慌《003-180》

1930:2月

◆09日(日) : 沢里武治宛書簡「わたくしすっかり療って仕事してゐます。命を一つ拾ったやうな訳です。」《003-172》

◆詩『空明と傷痕』『遠足許可』『住居』『森』【文芸プランニング】

1930:3月

◆04日(火) : 森佐一宛書簡「ご来訪以来わたくしも気分大へん明るくなり昨日も今日も半日ずつ起きて今度こそはとわざと風に吹かれて見たりして居ります。」《003-173》

◆06日(木) : 体温 37℃脈 75/分。半日起床。体重 11 貫

◆10日(月) : 伊藤忠一宛書簡「四月はきっと外へも出られますから。」《003-173》

◆30日(日) : 菊池信一宛書簡「お蔭で私も起きてゐます。そしてまたこり性もなく苗床を人にたのんで^{コソラ}拵えて貰ったりははじめました。」《003-173》

1930:4月

◆04日(金) : 沢里武治宛書簡「もう私も一日起きてみて、またぞろ苗床をいぢりだしたりしてゐますから、どうかご安心下さい。」《003-173》

◆08日(火) : 花巻豊沢町在

◆12日(土) : 東北碎石工場（東磐井郡陸中松川駅前）経営者・鈴木東蔵が来訪。合成肥料調整の相談《003-174》。広告用文案の作成

◆13日(日) : 鈴木東蔵宛返書で広告文の訂正や校正をする《003-174》

◆21日(月)：花巻町在。鈴木東蔵宛返書で秋田・山形の農会への紹介を頼まれたが知人がないとして断る《003-174》

◆佐々木喜善，賢治を訪問

◆小康状態で下根子の畑に人を頼んで苗床をしつらえ，ヒアシンス・ダリア・朝顔・菊を植える

●妹シゲ三女出産

1930:5月

◆07日(水)：鈴木東蔵宛書簡で，先日の合成肥料案は肥料法によって認められないことが判り，遺憾の意を表す。また工場への出資の依頼を受けたらしく，数人の資本家に相談したが，「事業の必要或は有利は充分認め乍ら当今の株式の低落等にて，多くは借入れ金担保価格以上に達し居る現状に有之，急の用には六ヶ敷模様^に御座候。」《003-174》

◆17日(土)：鈴木東蔵宛返書で，炭酸石灰の広告文案を書き送る《003-174》

◆29日(木)：鈴木東蔵宛返書で，米つきに石灰岩粉末を使うことの可否について答える《003-174》

1930:6月

◆30日(月)：鈴木東蔵宛返書で，送付されてきた広告について申し分ないといい，さらに「諸権威者の著述から抜粋を加えたい。」という《003-175》

◆東北碎石工場の鈴木東蔵再訪

1930:7月

◆29日(火)：花巻町在。菊池信一宛葉書「私も今はすっかり平常になり小園芸店番などあちこちとできることをやって居ります。」《003-175》

1930:8月

◆?：「八月 病氣全快」【文語詩篇ノート】文語詩篇ノートは，自叙伝的作品をあたかもその時々^に作ったかのように装って文語詩で綴る試みとして，最初から「回想」を前提として書かれた《003-176》

◆20日(水)：沢里武治宛書簡「常態に復し，今年中だけ豊沢町で店を手伝ったり，いままで書いたもの（註：文語詩篇ノートのことか）を整理したりしてゐるつもりです。」《003-176》

◆25日(月)：書簡「この春から…起きるやうになり不本意乍ら弟の店へ手伝ったり。」

1930:9月

◆02日(火)：鈴木東蔵宛書簡「小生も病氣全く退散，来春よりは仙台に出づる予定に有之候へ共，今冬は尚当地にて店の手伝など致す積りに有之，若し御事情宜しければ孰れかの^{いず}一地方御引受，各組合乃至各戸へ名宛にて広告の上売込方に従事致しても宜敷，其辺の御心持伺上候。」《003-177》

◆?：『セロ弾きのゴーシュ』

◆?：母木^{ははき}光が企画した「岩手詩集」に『早春独白』を送る

◆13日(土)：花巻から一ノ関に出て，大船渡に抜ける列車で松川駅に到着

◇11時：鈴木東蔵の経営する東北砕石工場（大船渡線松川駅前）を見学する。鈴木東蔵は不在であったため、鈴木貞治が接待にあたる《003-177》駅前を少し行った線路脇に広がる北上山地の一角の小高い岩山を切り崩して穴を掘り、10数人の労務者が働いている。石質を調べたりした後、近くにある鈴木の家へ立ち寄り、家人から経営の資金繰りが大変であるため、鈴木東蔵は出かけていると聞かされる《002-160》

◆14日(日)：鈴木東蔵宛書簡「資金調達に関する趣意書乃至計画書の如きものを今秋中に作成可致候。」《003-178》

◆東北砕石工場は至って原始的、小規模な上に営業不振に悩んでいたため、その対策を勘考し「貴工場に対する献策」を書く

◆鈴木東蔵宛書簡で、資金の件を父はじめ盛岡銀行常務、湯口村村長にも話したが、経済不況の折からいい返事が得られないことを述べる。「加ふるに小生は変な主義のため二度迄家を出で、只今としては之等に関しては口を開く資格無之様の訳合にて。」と書く《003-178》

◆26日(金)：豊沢町在

1930:10月

◆11日(土)：童話『まなづるとダァリア』原稿完成《003-178》

◆24日(金)：花巻温泉で催される県下菊花品評会審査員を依頼されるが、「…病後医師の勧告により今月より外出相控居候。」として断る《003-178》

1930:11月

◆01日(土)：詩『空明と傷痕』『遠足許可』『住居』『森』【文芸プランニング3号】（北村謙次郎編集発行）《003-179》

◆02日(日)：花巻豊沢町在

◆04日(火)：花巻豊沢町在

◆18日(火)：菊池信一宛書簡「たぶんは四月からは釜石へ水産製造の仕事へ雇はれて行くか例の石灰岩抹工場へ東磐井郡へ出るかも知れません。それも全く健康にさへなればどんなことをまた考え出すか自分でも見当が付きません。」《003-179》

◆民俗学者佐々木喜善来訪し遠野地方の伝説と民話について歓談

1930:12月

◆01日(月)：豊沢町在

◆07日(日)：沢里武治宛書簡「来年三月釜石か仙台かのどちらかへ出ます。わたしはいつそ東京と思ふのですがどうもうちであぶながって仕方ないのです。」《003-179》

◆18日(木)：花巻町在

■花巻農学校校歌（作詞：土井晚翠，作曲：片山穎太郎^{えいたろう}＝東京音楽学校教授）が誕生する

1931（昭和6年）年 35歳

◆『グスコンブドリの伝記』

- ◆『花壇工作』
- ◆～昭和8年：『セロ弾きのゴーシュ』
- ◆『ひのきとひなげし』

1931:1月

- ◆01日(木)：菊池武雄宛葉書「私もどうやらもと通りのからだになりました。四月からまた飛び出すつもりです。童話の本このごろ少しづつ売れてあるさうです。」《003-181》
- ◆12日(月)：鈴木東蔵宛返書「小生二月二十日より仙台にて仕事致すことと相成、貴工場の宣伝販売等地方を画して分担致しても宜敷之、亦御考慮置願上候。」《003-181》
- ◆13日(火)～14日(水)：鈴木東蔵来訪《003-181》
- ◆15日(木)：沢里武治宛書簡「実は私は釜石行きはやめて三月から東磐井郡松川の東北砕石工場の仕事をするようになりました。月の半分は仙台へ出てみて勉強もできるのですが、収入は丁度あなた方ぐらゐでせう。」《003-181》
- ◆22日(木)：鈴木東蔵宛葉書で、13日～14日に打ち合わせたように2月下旬仙台に行き、東北砕石工場仙台出張所の看板を出し、東北砕石工場仙台事務所の名義を使うこと、賢治に東北砕石工場の技手または技師の辞令を出すことを記述《003-181》
- ◆石川喜善来訪し、【児童文学】(佐藤一英編集)に賢治を推薦《003-182》
- 農産物生産過剰で、農村は豊作飢饉に襲われる《003-192》
- 佐々木喜善が【聴耳草子】を創刊《003-192》

1931:2月

- ◆17日(火)or18日(水)：鈴木東蔵より技師の囑託状が送られる《002-162》

東北砕石工場技師時代

- ◆21日(土)：鈴木東蔵が来花し、東北砕石工場技師を囑託する。仙台に事務所を開く計画があったが、工場側の積極的な協力要請や融資希望があり、また父母も家から離したくないこともあって東北砕石工場花巻出張所を開設する。運転資金として500円を鈴木東蔵に預け、日歩金参銭を支払うことにした。販売雑務を宮澤商会担当し、賢治は石灰石粉末の現物支給で月50円すなわち年600円、但し初年度は年500円の給与を受けることで、賢治は技師・宣伝を受け持つことになる《001-188/182》
- ◆末：詩『〔隅にはセキセイインコいろの女〕』【王冠印手帳】

1931:3月

- ◆02日(月)：盛岡へ出て、県庁で県内実行組合名簿約千人分を筆写する《003-184》
- ◆03日(火)：花巻川口町肥料商渡辺(渡嘉)商店と契約
- ◆04日(水)：再び盛岡へ出て、石灰岩抹の県内推奨を得るため、県肥料督励官技師・村井光吉と同技手・平井重吉、県農事試験場技手・工藤藤一(盛岡高等農林時代における賢治の2年後輩)を訪問《003-184》
- ◆05日(木)：関豊太郎(農林省、西ヶ原農事試験場に在職)より、石灰岩抹の普及により永年の希望がかなうなどの返信がある《003-184》
- ◆12日(木)：県1400通の広告発送を終わる《003-184》
- ◆14日(土)：鈴木東蔵宛返書で、初めて花巻で1車分の注文のあったこと、訪問の約束が

多く秋田行きが出来ていないこと、名古屋に見本を送ったことなどを伝える《003-184》

◆18日(水)：鈴木東蔵宛書簡で、工藤技手の推奨を得たことを伝える《003-184》

◆21日(土)：工藤藤一宛礼状「工場主も割合に廉潔な直情な男で、自治体に関する小著等もあり、もうけばかりを夢見る我利我利亡者でない点甚私とも共鳴する次第、私とてもこれから別に家庭を持つ訳でもなし、月給五十を確実に得れば、あとはこの美しい岩手県を自分の庭園のやうに考へて、夜は少しくセロを弾き、でたらめな詩を書き、本を読んでいれば文句はないのです…。」《003-184》

◆26日(木)：一関から大船渡線松川で下車して東北砕石工場起工祝いに参加し、工員と共に記念撮影

◆27日(金)：黒沢尻(現北上市)より二子(現北上市北側)を周る

◆28日(土)：鈴木東蔵宛書簡で、肥料設計の依頼者が多数いることを伝える《003-185》

◆29日(日)：一関

◆30日(月)：文語詩未定稿『[ひとひははかなくことばをくだし]』【王冠印手帳】《003-185》臥床

◆31日(火)：石鳥谷、胆沢郡水沢町中林商店・菊田商会訪問、水沢農学校長日向秀雄

◆『ひとひははかなく』『あらたなる』

1931:4月

◆01日(水)：販売区域について他の販売員との間でトラブルがあり、鈴木東蔵に改善を求める《003-186》胆沢郡水沢町中林商店、胆沢郡前沢町福地商店を訪問

◆04日(土)：煙山不動見前の各組合を歴訪。矢幅駅

◆05日(日)：帰宅後発熱臥床

◆岩手県農事試験場訪問。園芸担当三浦正治・場長猪狩源三と面会

◆08日(水)：岩手郡雫石村と太田村で注文取り

◆10日(金)：赤石、志和村、水分の三組合を訪問し、注文をとる

◆11日(土)か12日(日)：発熱し病臥。鈴木東蔵からの資金融資の要望があり、また工場見学も兼ねて政次郎が東北砕石工場を訪問《003-186》

◆18日(土)：東北砕石工場訪問。仙台へ直行し、宮城県農務課技手・関口三郎(群馬県出身、1929年盛岡高等農林卒業、1905～1948)を訪問するが出張中で面会できず

◆19日(日)：関口三郎と面談。小^こ牛^ご田^た古河と一関を経て帰花

◆21日(火)：秋田市を訪れ、農務課・県農会・県購聯を訪問。角館で盛岡高農林学校級友河原田次繁(1893～1958；旧姓松下繁)と面会

◆22日(水)：仙北郡花館村(現大曲市)国立農事試験場陸羽支場を訪問、果樹組合主催の恩田鉄弥(1864～1946)博士講演会出席、山内村長と面談

◆28日(火)：横黒線廻り、帰花

◆29日(水)：前沢で3車分の注文取り

1931:5月

◆01日(金)：和賀郡更木、二子、黒沢尻で注文取り

◆03日(日)：黒沢尻、藤根方面を回る

◆黒沢尻高等女学校（現、黒沢尻南高等学校）校長・新井正一郎 or 正市郎を訪ね、「ギンドロの苗木を育てたので取りに来て欲しい」と話す。後日、受け取りに使われた部下から、賢治が病身でありながら自ら鋤で掘り起こして包装してくれたことを聞き、感激しながら職員と共に校庭に植える

◆04日(月)：東北砕石工場で打ち合わせ

◇15時：出県、関口氏出張中のため肥料検査官と要談

◆05日(火)10時：仙台の原ノ町にある宮城郡農会を訪問。仙台駅から仙石線にて石巻に赴き、石巻線に乗り換えて、宮城県桃生郡広淵村（現河南町）広淵沼干拓開墾事務所長・

高野一司を訪問する。小牛田こごたで下車し、斎藤報恩館（宮城県大地主の斎藤善衛門が農機具関係の試験や検定を目的に私財を投じて設立）を訪問する

◇22時30分：帰宅

◆10日(日)午後0時：小牛田こごたの三度農業館訪問し、館長・工藤文太郎と懇談。工藤が用事

で外出した後、毛藤もうとう謹治が賢治の相手をする

◆11日(月)：岩沼

◇朝：関口・長谷川と会見し、仙南1処、仙北3処の肥料店売り込みの承認を得る。斎藤報恩会・宮城郡農会訪問

◇夜：仙台宿泊、関口来訪

◆12日(火)午前：小牛田肥料会社（大正6年4月設立）、石越経由で築館の栗原郡農会を工藤技師の紹介状を携えて訪問

◇午後6時：一関に到着、帰宅

◆18日(月)：東北砕石工場事務員鈴木軍之助来訪

◆19日(火)：臥床解熱

◆30日(土)午前：盛岡、盛岡高等農林学校村松舜祐教授（1881～1965）論文転載承諾並びに「炭酸石灰」（石灰石粉9貫650匁＝36.2kgに加里肥料35匁＝1.3kgを加えた合成肥料で賢治の考案）広告文校閲、小野寺博士に「炭酸石灰の肥効」の試験依頼、車中で墓参帰郷中の宮城工藤技師に会合

●妹クニ二女出産

1931:6月

◆01日(月)：水沢町中林商店

◆04日(木)午前：山口活版所、滝沢駅、岩手県種畜場（岩手郡滝沢村加賀内）

◇午後12時15分：厨川くりやがわ駅着、岩手種馬場（岩手郡厨川村赤平；現盛岡市厨川）と農林省馬政局種馬育成所（岩手郡厨川村；現盛岡市厨川）訪問

◆18日(木)午前：商工課で博覧会出品の打ち合わせをする。仙北町駅

1931:7月

◆01日(水)：盛岡市内の店を集中的にまわる

◆02日(木)：盛岡市内の店を集中的にまわる

◆05日(日)：水沢駅中林商店

◇正午：黒沢尻

◆07日(火)：盛岡の岩手日報社・森佐一を訪問し、東北砕石工場の仕事について「マッチを買ってくれませんかと言って歩くのと、ちっとも変わりませんよ。」と話す。また賢治自身の結婚問題について「女学校を出て、幼稚園の保母か何かをやって居たということですよ。」「遺産が1万円とか何千円とか持っているということなのでしてね、いくらおちぶれても、金がそんなにあっては—。」「ずっと前に話があってから、どこにもいかないで居るというのです。」「いつ亡びるか解らない私ですし、その女の人にしてからが、いつ病気になるか知れたものではないでしょう。」などと話す《001-44/003-186》この話し続けて、和綴じの春本を出して見せ、性の話題になり「禁欲は、けっきょく何にもなりませんでしたよ。その大きな反動がきて病気になるのです。」「何か大きないいことがあるという、功利的な考えからやったのですが、まるっきりムダでした。」「草や木や自然を書くようにエロのことを書きたい。」と話す(森莊巳池【宮沢賢治の肖像】)《003-186》他に冷害予想について話す

◆10日(金)：冷害を予報した「宮澤元花農教諭予想を発表」の記事【岩手日報夕刊】

◆12日(日)：八幡村，石鳥谷町

◆18日(土)：湯本方面，石灰施用地区を巡覧

◆20日(月)：童話『北守将軍と三人兄弟の医者』【児童文学 第1冊】(東京市神田区／文教書院・佐藤一英編集)《003-186》

◆29日(水)：菊池信一宛書簡で、菊池の結婚を祝うとともにこの結婚に不満を持つ菊池を諭して「結婚は私のやうに身体の弱くない限りは当然でまたその他に道はありませんのですから、決して今から何もかも壊して飛び出すようなことは考へないで、どこまでもその条件下で生活を開拓されお父様へもご安心になる様お努めねがいひあげます。」《003-186》

◆花巻駅で小原弥一と出会い、「今、岩手県を救う道はモラトリアムをやることです。」と語った

◆高日義海花巻高女校長宅で賢治らと定期座談会を開く

■草野心平が東京麻布十番で屋台の焼鳥屋「いわき」を開業《003-187》また『宮澤賢治論』を発表【詩神】《003-187》

■冷害型天候と出穂状況報告【岩手日報】

1931:8月

■?：20年来の大洪水，凶作

◆上旬：小沢町中林商店

◆13日(日)：沢里武治宛書簡で「この休みにはいっしょに音楽でもやる筈の処をまるで忙しく歩いてばかりゐて最早残りも少なくなりましたし、このあとも東京，名古屋，仙台と出て行かなければなりません。」《003-187》

◆18日(火)：沢里武治宛書簡で【児童文学】という季刊誌から再三寄稿を依頼され、既に2回投稿(7月に『北守将軍と三人兄弟の医者』，2冊目は昭和7年3月の『グスコブドリの伝記』)したが次は『風之又三郎』というある谷川の岸の小学校を題材にした100枚ぐらいのものを書いているので、8月末から9月上旬に学校や子供らの空気に触れたいと

述べる《003-188》

◆20日(木)午前：『朝顔会(未詳)』町役場2階

◆31日(月)：湯本湯口八幡石鳥谷巡訪

◆詩『小作調停官』，詩『〔丘はいまし鑄型を出でしさまして〕』，詩『〔topazのそらはうごかず〕』，詩『〔白く倒れし萱の間を〕』【兄妹像手帳】《003-188》

1931:9月

◆上旬：人造石の調査のため，教え子沢里武治を遠野近在の上郷村に訪問し，『風之又三郎』の詩(どっどど どどうど どどうど どどう…)の作曲を依頼《003-188》赤羽根峠から早瀬川峡谷を巡る

◆07日(月)：盛岡市岩手県物産陳列所開催の県立農事試験場30周年記念と優良農具実演肥料展覧会(9月11日～15日)へ出品

◆08日(火)：盛岡

◆09日(水)：花巻町在

◆10日(木)夕：展覧会の飾り付け終了

■11日(金)：県立農事試験場30周年記念，優良農具実演肥料展覧会開催(～15日)

◆16日(水)：展覧会の後かたづけ終了

◆18日(木)：齊藤報知農業館館長工藤文太郎へ知事湯沢三千男より奨励

■満州事変勃発

◆19日(金)6時35分：化粧煉瓦・炭酸石灰見本・パンフレット類で約40kgの大トランクを携帯して人力車に乗せて花巻駅に出向き，一番列車で花巻を出発

◇10時前：小牛田に到着し肥料会社と齋藤報恩農業館を訪問し，石灰を肥料として使用することに関して館長の意見を聞く

◇12時過ぎ：列車で仙台に出発。利府。宮城県庁農務課を訪問し，長谷川と会談する。東一番丁 or 町の古本屋文化堂を訪問し，浮世絵を物色し，店主と話しをする。盛岡中学の先輩加藤謙次郎と遭遇。加藤謙次郎宅を訪問して大トランクから化粧煉瓦の製品見本を取り出して説明する

◇夜：仙台の旅館で宿泊するが，隣室の酔宴で不眠となる《002-165》

◆20日(土)4時：常磐線の列車で仙台を出発。昨夜の不眠のために居眠り，隣席者が車窓を開放していたため風邪に罹患し，頭痛と寒気を覚える。途中，三戸で下車して県庁農務課に寄り，茨城県での石灰の使用状況と代理店の斡旋などを依頼する

◇午後：上野駅に到着。駅前から円タクに乗り，東京市神田区駿河台南甲賀町12番地Ⅱ神田25-974(現千代田区神田駿河台1-4)の旅館「八幡館」(経営者佐藤クラ→後身文京区本郷1後楽ホテル)に行く。二階の日当たりのよくない部屋に案内されて布団を敷いてもらいすぐに倒れ込むように床につく。悪寒発熱があったが小1時間ほど休んだ後外出。飯田町から省線電車に乗り，座席に座り込む。諸店訪問，宮城県農務課長岡伊勢松氏の宿を訪問。吉祥寺(現武蔵野市)の菊池武雄宅を訪問するが，不在のため隣家の深沢省三の妻・紅子に土産(絵草紙とレコード)託して宿の引き返す《002-166》電話で賢治に宿へ呼び出される

◆21日(日)：八幡館で発熱臥床。父母宛遺書・弟妹へ告別，旅館からの電報で駆けつけた友人二人と旅館の女中が看病する。遺書1「この一生の間どこのどんな子供も受けないや

うな厚いご恩をいたゞきながら、いつも我慢でお心に背きたうたうこんなことになりました。今生で万分一もついに返しできませんでしたご恩はきっと次の生又その次の生でご報じたいとそれのみを念願いたします。どうかご信仰といふのではなくてもお題目で私をお呼び出し下さい。そのお題目で絶えずおわび申し上げお答へいただきます。九月二日 賢治 父上様 母上様」遺書2「たうたう一生何一つお役に立たずご心配ご迷惑ばかり掛けてしまひました。どうかこの我儘者をお許してください。賢治 清六様 しげ様 主計様 くに様」

◆25日(木)：発熱 37.4~39℃

◆26日(金)：鈴木東蔵宛書簡「二十日烈しく発熱致し、今日今日と思ひて三十九度を最高に、三十七度四分を最低として八度台の熱も三日にて屢々昏迷致し候へ共、心配を掛け度くなき為家へも報せず…恢復さへ致さば必ず外交も致し…小生のごことはどうせ幾度死したる身体に候間、これ以上のご心配はご無用に、且つ決して宅へはご報無之様願上候。」《003-191》

◆27日(土)昼頃：父へ惜別の電話「もう私も終わりと思ひますので、最後にお父さんのお声を聞きたくなつたから…」があり、父は早速帰郷するよう厳命し、別に日本橋本石町で商売を営む小林六太郎へ電報で依頼して賢治の様子を見てくれるよう依頼する。小林夫妻は急いで支度をして市電で20分ほどの八幡館を訪れる《003-191》

◇22時55 or 30分：小林は上野発の二等寝台車を手配して、40kgの大トランクは宿に一時預け、とりあえず身の回りのものだけを持たせて上野駅に賢治を送る《002-168》

◆28日(日)朝：清六によると「私が花巻駅に迎いに出了たとき、寝台車から助け下ろさねばならぬほどの重態を、一つ手前の黒沢尻駅ですっかり洋服に着替え、カラーの新しいものへネクタイを結び、その大きなトランクを下げて笑いながら三等車から下りてきたのだ。」

【兄のトランク】《002-173/003-191》

◆?：枕元に「雨ニモマケズ手帳」を置き、法華經の經句を書いたりメモを続ける

◆藤原嘉藤治宛の葉書に、国柱会で道場観と名付ける經文を書写し、直接手渡す

■満州事変発生《003-192》

■草野心平が新宿紀伊国屋書店裏に焼鳥屋屋台「いわき」を移す《003-187》

◆草野心平宛書簡「隣人は或は五錢で、つかれた筋肉や神経を癒すでせうか。それは工夫のしやうで、もつとうまく有効に、もつとやすすできないでせうか。よき電気ブドウ酒ありとせば、私こそ上手に合成いたし得るです。黒豆の煮汁と酒石酸及び枸橼酸^{くえん}、砂糖及び蜂蜜の適量、葡萄エステル右の混合物はほんものの葡萄酒と同じく疲労を去り、栄養を加へるでせう。」《003-187》

1931:10月

◆流感から気管支炎肺炎(約1ヶ月 38℃前後の発熱)

◆花巻秋香会主催の東北菊花品評会欠席(「参考品高橋喜一郎(賢治の仮名)として出品)

◆20日(火)：詩『十月廿日〔この夜半おどろきさめ〕』、文語詩『〔聖女のさましてちかづけるもの〕』《003-191》(聖女のさましてちかづけるもの／たくらみすべてならずとて／いまわが像に釘うつとも／乞ひて弟子の礼とれる／いま名の故に足をもて／われに土をば送るとも／わがとり来しは／たゞひとすじのみちなれや)《003-147》

◆29日(木)：「疾すでに治するに近し」と記し、「法を先とし／父母を次ぎとし／近縁を三とし／農村を最後の目的として／只猛進せよ」と自壊する【雨ニモマケズ手帳】《003-192》

■東北、北海道地方冷害凶作《003-192》のため、娘身売り多く、各地で家族離散の悲劇続出

1931:11月

◆01日(日)：臥床中

◆03日(火)：詩『〔雨ニモマケズ〕』【雨ニモマケズ手帳】《003-192》

◆草野心平の創刊した詩誌【^{いしゆみ}弩】に文語詩を送るが、草野心平は気に入らず別の詩を求めたことに対する書簡「拝復 貴簡之を了す。就て新に稿を索めたれども近年^{わずか}僅に録する^{おおむ}処概ねかの類のみ。それにして【春と修羅】などの故意に生活を没したるもの、貴下に同感を得しこと兼て之を疑問とす。」《003-192》

1932 (昭和7年) 年 36歳

■岩手県の第一次満蒙開拓武装移民団が三江省へ出発。

◆書簡「旧名高瀬女史の件なれば、神明御照覧、私の方は終始普通の訪客として遇したるのみにて」と弁解している《003-147》

1932:1月

◆29日(金)：病臥中にも関わらず、稗貫郡湯本村の農民・高橋久之丞宛書簡「何分にも咽喉気管支の疾患にて少しく強く物言へば、数日の間病状逆行し尚茲一ヶ月は病室を離れ兼ね候間、肥料設計は先づ手紙にて御送り申上べく候」と肥料相談に応じる《003-194》

◆?：病床で高等数学の勉強を始める

■上海事件

1932:2月

◆05日(金)：高橋久之丞宛書簡「実は工場との関係甚うるさく私も今春きりにて経済関係は絶つ積りに有之、当地にて多く売れたりとも少しも私の得にならず候」《003-194》

◆29日(月)：鈴木東蔵宛書簡「小生儀起床歩行ニ勉メ候へ共、息切レ甚シク辛ク十数歩ニ達スルノミニ有之丈夫ノ方ヨリ見テハ情ナキモノナレドモ如何トモ仕方無之候」《003-194》

1932:3月

◆10日(木)：童話『グスコブドリの伝記』【児童文学 第2冊】(佐藤一英編集)、挿絵—棟方志功《002-179/3-194》

■満州国建国

春

◆晩春：奥歯の歯ぐきの潰瘍のため出血する。この時の様子は、詩『眼にて云ふ』（疾中詩篇）に描かれる《003-195》

1932:4月

◆13日(水)：仙台在住の民族学者・佐々木喜善が、上町の関徳彌家（明治屋）でエスペラント教室を1週間ばかり開催する目的で来花。賢治を訪問し、エスペラント、民話、宗教について語る《003-195》

◆15日(金)：『早春独白』【岩手詩集 第1輯】（母木光＝儀府成一編集）《002-179/003-195》

●19日(火)：清六橋本アイと結婚

1932:5月

◆10日(火)：佐々木喜善宛に【民間伝承 第2号】寄贈の礼状を書く《003-195》母木光宛書簡に「私の方は何と申しても自称の心象スケッチ屋で詩とは局外のつもりで今まで殆ど詩人たちとのおつき合ひもしてゐないのですから、もしそこをご諒察の上、あたかも画家が幻燈屋を訪問するやうな態度でお出かけ下さるなれば、私も息がつまりませんし大に肝胆をひらけると思ふ次第です《003-195》…何分にも私はこの郷里では財閥といわれるもの、社会的被告のつながりに入っている」と書く

◆14日(土)：母木光が「岩手詩集」を持参して訪問《003-196》

◆～1週間：関徳弥宅でエスペラント講習会

■15日(日)：五・一五事件

1932:6月

■13日(月)：母木光が賢治訪問記『病める修羅／宮沢賢治氏を訪ねて』を書く【岩手日報学芸欄】《003-196》

◆19日(日)～21日(火)：母木宛返書で母木の童話『ワラスと風魔』の批評感想を述べた上で、岩手日報の記事について迷惑であるという旨を書く《003-196》「全く淋しくてたまらず、美しいものが欲しくてたまらず、ただ幾人かの完全な同感者から‘あれはそうですね。’というようなことを、ぽつんと言われるくらいがまず望み」《002-235》

◆22日(水)：中舘武左衛門宛返書で賢治の病気の原因が父母に背いたことや高瀬露との関係にあるような神託があったという手紙に対して毅然と反発をしている《003-197》

■26日(日)：石川善助、東京大森で友人と梯子酒の上泥酔して水路に落ちて不慮死《003-197》

1932:7月

■ナチス第一党になる

1932:8月

◆04日(木)：鈴木東蔵宛の最後の書簡

◆15日(月)：文語詩『民間薬』『選挙』【女性岩手 創刊号】（多田保子編集）《002-179/003-197》

1932:9月

◆? : 俳句を作り墨書する

1932:10月

◆05日(水) : 森佐一宛書簡の下書で「たべもう早く眠くなって死んでしまいたい」と書くが、実際に出した手紙では「昨今次第に呼吸も楽になり、熱がなく、見方もふえ」と書く《003-198》

1932:11月

◆01日(火) : 詩『客を停める』【詩人時代 第1 or 2 巻 11号】(吉野信夫の依頼による)《003-198》

◆15日(火) : 文語詩『祭日』文語詩『母』文語詩『保線工手』【女性岩手 4号】《003-199》

◆菜食を続ける, 高等数学を勉強, 歳時記を読む, 俳句を詠む

■岩手県下小学校で欠食児童が増える

1932:12月

◆10日(土) : 鈴木東蔵の問い合わせに返書《003-199》

◆28日(水) : 鈴木東蔵の問い合わせに返書《003-199》

1933 (昭和8年) 年 37歳

1933:1月

◆03日(火) : 斎藤貞一宛年賀状「私も一昨年の冬から又疾みましたがこの頃はやっと少しづつ仕事もできるやうになりました。」《003-201》

◆07日(土) : 菊池武雄宛書簡「やっと少しずつ下らない仕事して居ります。しかしもう一昨年位の健康はちょっと取り戻せさうにもありません。」《003-201》

●11日(水) : 清六長女コウ出生

◆16日(月) : 吉野信夫(詩人時代編集部)宛書簡《003-201》

●25日(水) : コウ死亡

◆鈴木東蔵の依頼で稲の生育などに関し注意を与える書簡2通《003-201》

1933:2月

◆03日(金) : 鈴木東蔵宛書簡で宣伝資料調査費として送られてきた5円について「今春は右頂戴致すべき筋合に無之候間店の方の品代中に繰込様処置致候」と書く《003-201》

◆04日(土) : 高橋久之丞宛に肥料設計を書き送る《003-201》

◆15日(水) : 詩『半蔭地撰定』【新詩論 第2輯】《003-201》

◆20日(月) : 森佐一宛書簡《003-201》

◆習字独習開始

◆鈴木東蔵宛返書4通《003-201》

1933:3月

◆01日(水) : 散文形詩『詩への愛憎』【詩人時代 第3巻3号】(詩人時代社)《003-202》

- 03日(金)：三陸沿岸に大津波(23m)襲来
- ◆25日(土)：詩『朝に就ての童話的構図』【天才人 第6号】《003-202》
- ◆30日(木)：森佐一宛書簡《003-202》
- ◆鈴木東蔵宛返書4通《003-202》
- ◆『北守将軍と三人兄弟の医者』【現代童話名作集 上巻】(文教書院)
- ◆『グスコブドリの伝記』【現代童話名作集 下巻】(文教書院)

1933:4月

- ◆01日(土)：詩『移化する雲』【日本詩壇 創刊号】詩『郊外』，詩『県道』【現代日本詩集 1933年版】(詩人時代社)《003-202》

1933:5月

- ◆18日(木)：森佐一宛書簡《003-202》
- ◆鈴木東蔵宛返書1通《003-203》
- ◆『選挙』『民間薬』【岩手女性 5月号】

1933:6月

- ◆23日(金)：高橋忠弥宛葉書「童話の理論書はとのお葉書ですが、何分いまだ病中で力を入れた仕事六しく…」《003-203》
- ◆27日(火)：追悼文『友人感想』【石川善助遺稿集「鴉射亭随筆」】《003-204》
- ◆口語詩稿と文語詩稿を自作用紙に清書開始

1933:7月

- ◆01日(土)：詩『葱嶺^{ばみーる}先生の散歩』【詩人時代 第3巻7号】《003-204》
- ◆05日(水)：詩『一八四ノ変 春 変奏曲』《003-204》
- ◆16日(日)：母木光宛葉書「高村氏草野氏等同人雑誌〔註：【次郎】のこと〕を作るとの事私例によって遁げました。」《003-204》
- ◆20日(木)：『花鳥図譜・七月』【岩手女性 第7号】《003-204》
- ◆鈴木東蔵宛返書1通《003-204》
- 元アザリア同人の河本義行(鳥取県倉吉中農学校勤務)，遊泳の生徒を監視中水死

1933:8月

- ◆04日(金)：鈴木東蔵宛返書「尚御詞の残金の儀大体計算致置候へ共、行違ひ有之てはお互い不快に有之候間、一度全部引合せの上決算致度存居候。」《003-194/205》
- ◆15日(火)：「文語詩稿 五十篇」の推敲清書し定稿とする《003-205》
- ◆19日(土)：儀府成一(母木光)が賢治を訪問し、高村光太郎、佐々木喜善について語り合う
- ◆22日(火)：「文語詩稿 百編」の推敲清書し「現状を以てその時々々の定稿」とする《003-205》(没後10月発表)
- ◆29日(火)：親戚の子ども，宮澤良子をスケッチ
- ◆30日(水)：伊藤与蔵宛書簡「只今でも時々喀血あり殊に咳が始まれば全身のたうつやうになって二時間半ぐらゐ続いたりしますが、…どこへ顔を出す訳にもいかず殆ど社会から葬られた形です、それでも何でも生きている間に昔の立願を一応段落つけやうと毎日やっ

きになってゐる所で我ながら浅間しいすがたです。」《003-206》妹クニの長女・宮澤フジをスケッチ

◆下旬：従兄弟の宮澤幸三郎と賢治の家の2階でベートーベンのピアノ協奏曲「皇帝」のレコードを聞いているとき、賢治は目の色を変えて飛び上がり、「おお、怖い怖い、手に手に異様な獲物を振りかざして襲いかかる悪鬼迫る幻想。」と叫ぶ

1933:9月

◆05日(火)：文語詩『産業組合青年会』を福島県の詩誌【北方詩人10月号】に投稿する《001-103》

◆短編『疑獄元兇』

◆関徳弥歌集『寒峽』の感想文【新聞】

◆11日(月)：柳原昌悦宛書簡《003-207》「私のかういふ惨めな失敗はたゞもう今日の時代一般の巨きな病、『慢』といふものの一支流に誤って身を加えたことに原因します。僅かばかりの才能とか、器量とか、身分とか財産とかいふものが何か自分のからだについてのものであるかと思ひ、自分の仕事を卑しみ、同輩を嘲けり、いまにどこからかじぶんを所謂社会の高みへ引き上げに来るものがあるやうに思ひ、空想をのみ生活してかえって完全な現在の生活をば味ふこともせず、幾年かゞ空しく過ぎて漸くじぶんの築いてゐた蜃気楼の消えるのを見ては、たゞもう人を怒り世間を憤り従って師友を失ひ憂悶病を得るといったやうな順序です。」《003-207》

◆17日(日)夜～19日(火)：花巻町氏神とがやさき鳥谷ヶ崎神社祭礼の御輿渡御拝礼《003-207》賢治の希望で家族が手伝って二階から降ろし、店先や門で祭拝礼する《002-199》

◆19日(火)：絶筆「いたつきのゆゑにもくちにのちなりみのりに棄てばうれしからまし」「方十里稗貫のみかも稲熟れてみ祭三日そらはれわたる」

◇夜：丘上の本殿に還御する御輿を拝むため門のところで待つ《002-235》

◆20日(水)朝：前夜店先に立つ賢治を目撃した農夫が具合を訪ねに来るが、長い時間の問答で呼吸が苦しくなり臥床する

◇午後：往診の医師に手当を受ける《002-202》急性肺炎の徴候発現

◇19時～20時：肥料設計の相談を見知らぬ農民から依頼される。相談が終わった後、二階に戻ろうとしても立ち上がることもできず、家族総掛かりで賢治を二階に抱え上げた《002-201》清六が添い寝をする。清六に詩と童話の原稿をゆずり、出版の機会があれば許可する。短歌二首を墨書「方十里稗貫のみかも稲熟れてみ祭三日そらはれわたる」「病のゆゑにもくちんいのちなりみのりに棄てばうれしからまし」《003-207》

◆21日(木)朝：共立病院の医師・佐藤長松の診察があり、極めて危険な状態であると告げられる

◇11時30分：題目「南無妙法蓮華経」の誦読に驚いて家族が二階に上がる。喀血後容態急変するも意識明瞭。父に硯箱を要求して賢治に遺言を言わせ書き取る。国訳妙法蓮華経の翻刻(1000部作・表紙朱色・校正は北向氏)を賢治の関連した山に埋め、友人知己に配布するよう遺言。「合掌、私の全生涯の仕事はこの経をあなたのお手許に届け、そしてその中にある仏意にふれて、あなたが無上道に入られんことをお願いする外ありません。昭和8年9月21日臨終の日に於いて 宮沢賢治」

◇13時30分：永眠《003-209》

◆23日(土)14時：出棺。戒名は真金院三不日賢善男子しんきん みふじつけんぜんだんじ《002-221》花巻町の宮沢家菩提寺・安浄寺(真宗大谷派)に埋葬，会葬者2000人，弔辞盛岡高農上村勝爾・岩手県歯科医師会長今野英三・詩人藤原草郎／母木光／森惣一／梅野健三・花巻秋香会・花巻農学校同窓会代表して小田中光三が弔辞を述べる，弔電28通。「詩人宮沢賢治氏／きのふ永眠す／日本詩壇の輝かしい巨星墜つ／葬儀はあす執行」という見出しで報ずる【岩手日報 夕刊】《003-211》

◆25日(月)：「故宮沢賢治氏葬儀」という見出しの下に「故宮沢賢治氏葬儀は二十三日午後二時花巻町豊沢町自宅出棺同町安浄寺に於いて執行されたが生前故人の徳を偲び会葬者二千を数へ盛儀を極めた弔辞は 盛岡高農上村勝爾氏，岩手県歯科医師会長今野英三氏，詩人藤原草郎氏，母木光，森惣一，梅野健三，花巻秋香会，花巻農学校同窓会代表小田中光三氏 で弔電二十八通に及び同三時葬儀を終はった。尚故人の遺言によって法華経一千部を刊行生前の知己に贈る筈である。」【岩手日報 朝刊】《003-211》

◆29日(金)：遺稿『疑獄元凶』と『「寒峡」巻初の数首に就いて』が掲載【岩手日報 学芸欄】

1933:10月

◆06日(金)：宮澤賢治特集【岩手日報】

■岩手県大収穫。

死後～現代

●父改宗

1936(昭和11年)年

11月

◆23日(月)：下根子桜の「羅須地人協会」跡地に高村光太郎が揮毫して「雨ニモマケズ」の後半部が刻まれた詩碑が建立され，除幕式が行われた。この詩碑は「宮澤賢治詩碑建設会」が寄付(寄付者401名，盛岡，釜石の53名と県外から9名)を募って建設したもので，委員長は佐藤隆房，推進役は岩田徳彌，小原忠，木村圭一，照井謹二郎らで，刻字は花巻の石工・今藤清六。早池峰山と北上川に向けた碑の下には，賢治の遺髪，遺骨，法華経の経文，文圃堂版の「賢治全集」，詩碑建立の由来などと共に納められている

1951（昭和26年）年

7月

- 日蓮宗・身照寺（花巻市石神町 389）に改葬《003-209》
- 国柱会より法名「真金院三不日賢善男子」